



第17回日本の次世代リーダー養成塾 報告書

開催日程 2020年8月8日～9月22日



Index

Contents

	Page
1. 第17回日本の次世代リーダー養成塾を開催して	1
2. 主催者からのメッセージ	4
3. 開催概要	5
4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表	6
5. 講義概要	9
6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子	17
7. 塾を支えるスタッフ	26
8. カリキュラム	37
9. 参画道県・市の声	50

【資料】

① 塾生アンケート調査結果	54
② 保護者・学校アンケート調査結果	60
③ 塾生概要	65
④ 塾生高校一覧	66
⑤ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿	67

(巻末) ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

1. 第17回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

リーダー塾は開催できるのだろうか。そう感じたのは、新型コロナウイルス感染の拡大で、3月2日に日本政府が小中高校の休校措置を決定した時からでした。私は高校生の交換留学団体公益財団法人 AFS 日本協会の理事長も務めていますが、日本政府の奨学金で1年間留学している20ヵ国200人の「アジア高校生架け橋プロジェクト」の受託団体をお引き受けしているため、3月末に帰国予定の200人を3週間ほど早く帰国させる措置や、次期アジア架け橋生の4月来日を延期するなど、学校現場とのやり取りを行っているうちに、コロナ禍による学校休校措置はかなり長期間に及び、夏休みがなくなることも想定に入れないといけないとの懸念がふと、頭をよぎりました。

その後、新学期に入り、政府の緊急事態宣言が発令され、まず、面接の取りやめ、連休後には、参画県・市の担当者会議を開き、5月25日にホームページで、8月8日から12日まで5日間の集中オンラインでの開催、その後9月にかけて日曜日にオンラインで、9月19日から22日までに高校生だけで議論する「アジア・ハイスクール・サミット」の発表会を兼ねて毎年リーダー塾を行っている福岡県宗像市のグローバルアリーナで開くことを発表しました。

リーダー塾ではボードレスに起きる想定外の困難な問題をどう解決していくかを高校生に考えさせる教育を行ってきました。ですから、新型コロナウイルスという得体の知れない生きた教材を前にして、専門家や識者に講義をしていただき、質問をぶつけて、さらにポストコロナの社会を次世代がどう変革していくのか。徹底的に議論をすることはまたとないチャンスと思いました。いつも高校生たちに「けっして、諦めるな」「ポジティブに苦難を乗り越えよう」と言っている私が、「できない」はタブーです。

コロナを敵とみなさず、ウイルスと共生する「ウィズ・コロナ」を提唱した長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授や、筆舌に尽くし難い冤罪を乗り越えた村木厚子さんを新しい講師にお迎えして、従来の講師の皆さんにも、困難を乗り越える力の源泉を教えてくださいました。

「アジア・ハイスクール・サミット」では、「ウィズコロナからポストコロナへ社会をどう変革していくか～高校生からの提案」と題して、クラスに分かれて議論をしました。果たしてオンラインで議論が深まるのか。正直、自信はありませんでしたが、担任や学生リーダーに上手に指導していただきました。コロナの猛威は9月にも止まらず、結局発表会を兼ねた宗像での合宿は中止となりましたが、モチベーション下がることなく、オンライン発表会は、リアルに顔を合わせて発表してきた昨年までと遜色なく、パワポを駆使して、中身もビジュアル面でも素晴らしい成果をあげてくれました。

また、オンラインだからこそこできる面白いことをしようと、アジア各国の高校生とZoomで繋ぎ、ディスカッションを行うことにしました。来日がコロナ禍で延期になったアジア架け橋生とマレーシア次世代リーダー塾の卒塾生と繋ぎ、クラスごとにポストコロナでどう高校生が社会変革を起こすかを英語で議論しました。アジアの高校生たちは母国語や英語のほか、日本語も一生懸命勉強して話せる。その事実を目の当たりにして、日本の高校生たちはショックを受けました。世界で活躍したいなら、英語ができなければ何も始まらない。その現実を突きつけられたようです。リーダー塾で知り合ったアジアの仲間の存在が大きかったからか、来年から1年間インドネシアに留学する決意をした塾生もいます。

もちろん、リーダー塾は、2週間の合宿をして、生身の人間がぶつかり合って議論を重ねたり、友情を育み、講師と真剣勝負をする。それに勝るものではありません。しかし、今年はそれが叶いませんでした。我慢をすること。リミットがある中で最大限何ができるかに挑戦してみること。私も学びました。

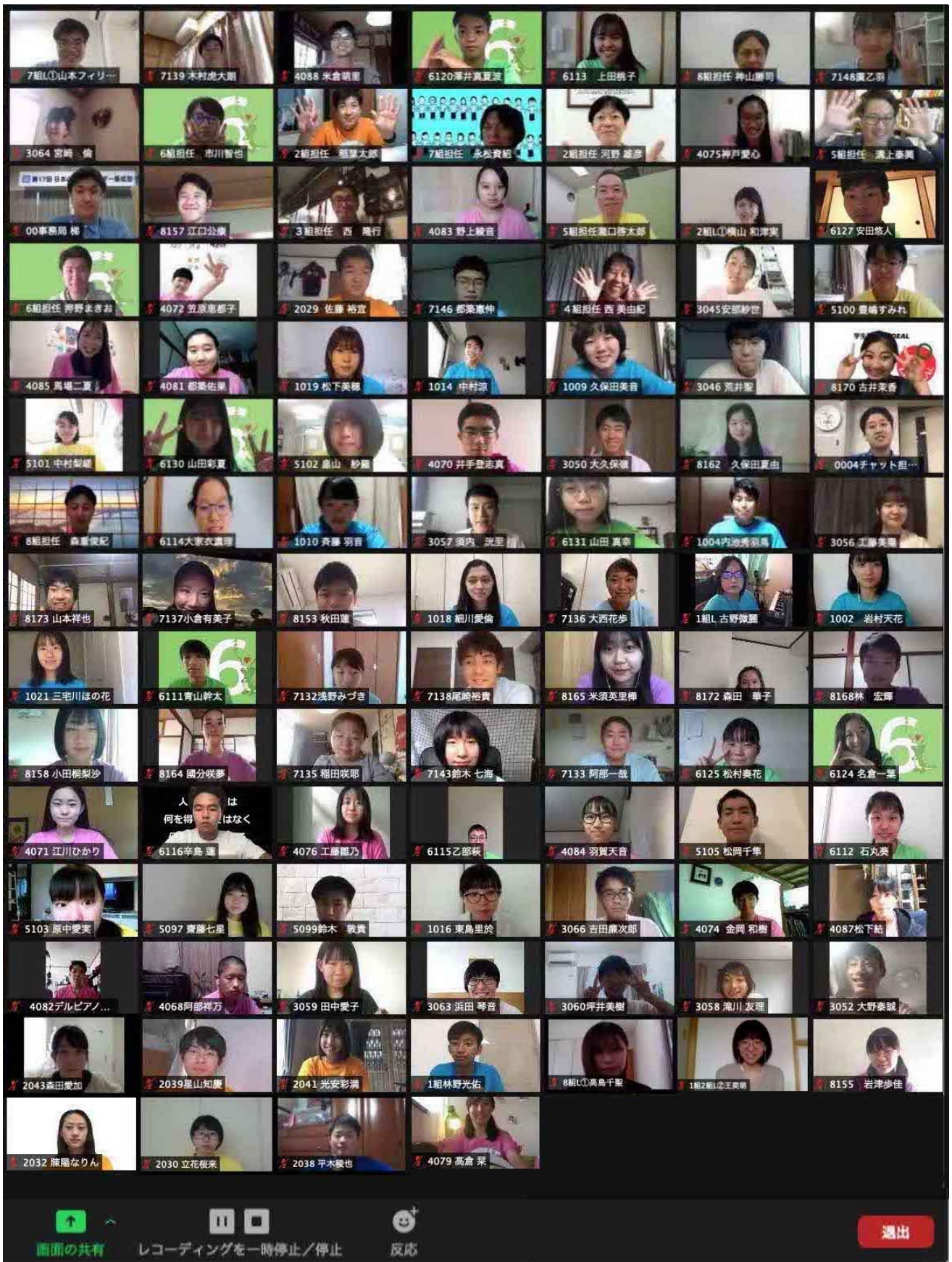
ここに最大の危機のもと、担任を志願して下さった過去の担任の先生や学生リーダー。そして、変わらぬ支援を差し伸べていただいた地方自治体、企業の皆さま、感謝の言葉ありません。来年は必ず、福岡県宗像市のグローバルアリーナで開催することを夢見て、精進して参ります。

第17回日本の次世代リーダー養成塾

207

ミュート ビデオの停止 セキュリティ 参加者 チャット

集合写真



2. 主催者からのメッセージ

塾長 中西 宏明（一般社団法人日本経済団体連合会会長）

この数年で世界情勢は大きく変化しました。各国のパワーバランスの変化により旧来の国際秩序がゆらぎ、反グローバリズムやポピュリズムの台頭といった新たな時代に直面しています。一方、テクノロジーの分野ではAIなどを駆使したデジタル化による新たな産業革命（第4次産業革命）が、産業・医療・交通など社会のあらゆる分野で進行中です。社会課題の解決と経済的な発展を両立する「Society 5.0」という全く新しい社会が到来しつつあります。

今私たちがやらなければいけないことは、多様性を受容できる、豊かで活力ある日本をつくりあげることです。国際協調を大切にしつつ、「モノからコト」「所有から利用」に代表される社会の変化の中で、新たな価値を創造しなくてはならないのです。そのためには多くのイノベーションが必要であり、若い世代の新しい発想と推進力を必要としています。皆さんには、文系・理系といった区分けをしないで、人とのコミュニケーションを大切にしてグローバルな視点でよく学び、新たな社会の実現に貢献していただきたいと思います。

本塾では、仲間たちと切磋琢磨し、視野を広げ、様々な課題に真正面から取り組むことで、お互いの立場や考え方の違いに気付き、それを乗り越える知恵を養ってください。また、お互いのアイデンティティを尊重しつつ、いつでも誰でもリーダーに成り得ることを学び、実践してほしいと思います。本塾での経験が、皆さんの未来を切り拓く力になることを期待しています。



「日本の次世代リーダー養成塾」役員等名簿（2020年9月18日現在、五十音順）

塾長	中西 宏明	/	一般社団法人日本経済団体連合会会長
塾長代理	榊原 英資	/	一般財団法人インド経済研究所理事長
筆頭理事	小川 洋	/	福岡県知事
理事	浅野 史郎	/	神奈川大学特別招聘教授
理事 (顧問兼務)	麻生 渡	/	元全国知事会会長・学校法人福岡工業大学最高顧問
理事	石原 進	/	九州旅客鉄道株式会社特別顧問
理事	伊豆 美沙子	/	福岡県宗像市長
理事	川勝 平太	/	静岡県知事
理事	鈴木 直道	/	北海道知事
理事	高橋 温	/	三井住友信託銀行株式会社名誉顧問
理事	滝 久雄	/	株式会社ぐるなび取締役会長・創業者 株式会社NKB取締役会長・創業者
理事	達増 拓也	/	岩手県知事
理事	中村 時広	/	愛媛県知事
理事	仁坂 吉伸	/	和歌山県知事
理事	橋田 紘一	/	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾理事長兼塾長
理事	古田 肇	/	岐阜県知事
理事	松尾 新吾	/	九州電力株式会社特別顧問
理事	溝上 泰弘	/	株式会社ミズホールディングス代表取締役会長
理事	三村 申吾	/	青森県知事
理事	宗政 寛	/	株式会社サニックス代表取締役社長
理事	山口 祥義	/	佐賀県知事
専務理事 (事務局長兼務)	加藤 暁子		
監事	遠藤 泰昭	/	九州電力株式会社常務執行役員

3. 開催概要

1 主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：中西宏明／一般社団法人日本経済団体連合会会長

2 開催日程

- ① **オンライン講義** 2020年8月8日(土)～12日(水) 5日間
2020年8月23日(日)、30日(日)、9月6日(日)、13日(日) 計4回
- ② **オンライン発表会** 2020年9月19日(土)～22日(火) 4日間

3 塾生

対象：高校生（1年生～3年生） 174名

内 訳	参画県・市推薦枠 (北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、 福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市)	144名
	全国からの一般公募枠	30名

4 カリキュラム概要

① 各界を代表する講師陣による講義

- **教養系**（哲学、近現代経済・文明史、医学、科学、芸術など）
日本や世界を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。
- **ビジネス系**（日本企業の強みと弱み、ビジネスのしくみなど）
世界を相手にビジネスの最先端で日夜活躍する講師が、日本の企業の強みや弱み、ひいては日本の国のあり方を伝えます。
- **国際系**（国際問題や外交、国連やNGO活動への理解）
世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際舞台で活躍できる力をつけます。
- **人間学**（将来の夢をどう具現化するか、リーダーとしての生き方など）
人生の先達が21世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。

② プロジェクト型企画「アジア・ハイスクール・サミット」

会期中を通して、社会人や学生リーダーの指導のもと、20数人のクラスごとに社会課題の解決に向けた議論を行い、具体案を提言する「アジア・ハイスクール・サミット」を行います。

③ 宗像大社オンライン見学（DVD視聴）

宗像大社辺津宮（総社）を見学し、日本古来の文化を守り伝えることの重要性、日本人として海や里、山の恵みに感謝し、環境を大切にすることを学びます。

4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表

講師 21 名（敬称略、講義順）

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
8/8 (土)	<p>おがわ ひろし 小川 洋 福岡県知事</p> <p>「世界にはばたく！未来のリーダーたちへ」</p>	9 ページ
	<p>やまもと たろう 山本 太郎 長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授</p> <p>「With コロナ～新たな社会の見取り図」</p>	9 ページ
8/9 (日)	<p>かまた みのる 鎌田 實 諏訪中央病院名誉院長</p> <p>「Beyond Corona 『新しい人間』になろう」</p>	9 ページ
	<p>あかし やすし 明石 康 元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長</p> <p>「世界の中の日本—もっと外に開く国に」 “Japan in the world – towards a more open, dynamic country”</p>	10 ページ
8/10 (月)	<p>みやがわ まきお 宮川 眞喜雄 内閣国家安全保障局 国家安全保障参与</p> <p>「歴史を読め。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。 日本のために、アジアのために」</p>	10 ページ
	<p>かねこ ひでとし 金子 秀敏 毎日新聞客員編集委員</p> <p>「新型コロナ禍と国際関係」</p>	10 ページ
8/11 (火)	<p>たぐち かずなり 田口 一成 株式会社ゴーダレス・ジャパン代表取締役社長</p> <p>「社会問題をビジネスで解決する社会起業家という生き方」</p>	11 ページ
	<p>むらおか こうじ 村岡 浩司 株式会社一平ホールディングス代表取締役社長</p> <p>「九州パンケーキと ONE KYUSHU 構想 ～九州を一つの島と捉えた、広域経済圏の考え方～」</p>	11 ページ
8/12 (水)	<p>ささき くみこ 佐々木 久美子 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長</p> <p>「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」</p>	11 ページ
	<p>むらき あつこ 村木 厚子 津田塾大学客員教授</p> <p>「事件から学んだこと～組織の在り方・人の生き方～」</p>	12 ページ
8/23 (日)	<p>たき ひさお 滝 久雄 株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NKB取締役会長・創業者</p> <p>「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」</p>	12 ページ
	<p>かさや かずひこ 笠谷 和比古 大阪学院大学法学部教授（専門、歴史学・武家社会論）</p> <p>「徳川社会と日本の近代化」</p>	12 ページ

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
8/30 (日)	^{り ほんう} 李 鳳宇 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、株式会社スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師 「映画で日本の将来を考えよう」	13 ページ
	^{やまぐち よしのり} 山口 祥義 佐賀県知事 「世界に誇れる佐賀～その一步を踏み出せ～」	13 ページ
9/6 (日)	^{でぐち はるあき} 出口 治明 立命館アジア太平洋大学学長 「これからのリーダーに必要な思考力」	13 ページ
	^{むろふし きみこ} 室伏 きみ子 お茶の水女子大学長 「人々の幸せを目指す研究・開発と研究者の役割」	14 ページ
	^{あそう わたる} 麻生 渡 元全国知事会会長、学校法人福岡工業大学最高顧問 「君は人生100才時代をどう生きるのか」	14 ページ
9/13 (日)	^{さかきばら えいすけ} 榊原 英資 一般財団法人インド経済研究所理事長 「ポスト・コロナ時代の世界」	14 ページ
9/21 (月)	マハティール・モハマド マレーシア第4代・7代首相 「コロナ後のグローバルな世界で社会変革をいかにすべきか」 “How future generation should change the society in global world after Covid-19”	15 ページ
	^{あしづ たかゆき} 葦津 敬之 宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」	15 ページ
	^{かとう あきこ} 加藤 暁子 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人A F S日本協会理事長 「激動の時代を切り拓くリーダーに」	15 ページ

第17回日本の次世代リーダー養成塾《オンライン講義》カリキュラム表 (8月8日～12日・23日・30日・9月6日・13日・19日～22日)

敬称略

日付	日	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
1	8/8 (土)		継続確認	開会	小川 洋 福岡県知事	レポート	休憩	継続確認	AHS 進行説明	山本 太郎 長崎大学薬学専攻学術研究所 教授	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット					
2	8/9 (日)		継続確認	継続確認	鎌田 實 諏訪中央病院名誉院長	レポート	休憩	継続確認	明石 康 元国連事務次長	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
3	8/10 (月)		継続確認	継続確認	宮川 眞喜雄 内閣府国家安全保障参与	レポート	休憩	継続確認	金子 秀敏 毎日新聞客員編集委員	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
4	8/11 (火)		継続確認	継続確認	田口 一成 ㈱ボーダレス・ジャパン 代表取締役社長	レポート	休憩	継続確認	村岡 浩司 ㈱一平ホールディングス 代表取締役社長	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
5	8/12 (水)		継続確認	継続確認	佐々木久美子 株式会社グローバル・アーツ 代表取締役会長	レポート	休憩	継続確認	村木 厚子 津田塾大学客員教授	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
6	8/23 (日)		継続確認	継続確認	滝久雄 株式会社ぐるなび 取締役会長・創業者	レポート	休憩	継続確認	笠谷 和比古 大阪学院大学法学部 教授	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
7	8/30 (日)		継続確認	継続確認	李 鳳宇 映画プロデューサー	レポート	休憩	継続確認	山口 祥輔 佐賀県知事	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
8	9/6 (日)		継続確認	継続確認	出口 治明 立命館アジア太平洋 大学学長	レポート	休憩	継続確認	室伏 きみ子 お茶の水女子大学学長	レポート	麻生 渡 元全国同業会長	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
9	9/13 (日)			アジア・ ハイスクール・ サミット			休憩	継続確認	榎 英寛 一般社団法人インテグ リティー研究所理事長	レポート	アジア・ ハイスクール・ サミット	(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット					
10	9/19 (土)											(任意)アジア・ ハイスクール・ サミット発表準備					
11	9/20 (日)		継続確認	継続確認	マレーシア次世代 リーダー養成塾 交流イベント	屋敷	休憩	継続確認	アジア・ハイ スクール・サミ ット発表準備		日本政府「アジア高校生 受け入れ事業」 交流イベント	卒業生発表 レポート					
12	9/21 (月)		継続確認	継続確認	マハティール・ モハマド マレーシア第4代・7代首相	レポート	屋敷	継続確認	アジア・ハイ スクール・サミ ット発表		卒業生発表 レポート	卒業生発表 レポート	宗徳大社 見学				
13	9/22 (火)		継続確認	卒業式 目標宣言		HRへ											

5. 講義概要

日本のみならず世界で活躍する講師陣にご講義いただいた。また、卒業生2名をゲストスピーカーとして招いた。塾生たちにとって、リーダーとしてあるべき姿を学ぶ貴重な時間となった。

(講義順)



小川 洋 先生 福岡県知事

「世界にはばたく！未来のリーダーたちへ」

若い人たちが、世界で活躍するためには、異なる言葉、文化、そして価値観を持つ人たちと積極的に交流し、多様性を認め合うことが重要になる。普段から社会の出来事に広く興味を持ち、知識を身につけ、自分ならこうすると考える習慣を身につけておくといよい。

現在、われわれ行政も新型コロナウイルス感染症への対応という困難な経験をしている。こういった事態に対応する場合、多くの関連情報をしっかり集め、分析をすること。そして、タイムリーに判断をし、相手に説明していくこと、こういった一連の流れを効率的にやっていくことが大事だ。皆さんはこれから色んな難題に直面すると思う。そのとき皆さんが何を考え、具体的に行動していくのか、期待している。

講義の感想

- 私はこれから文化の違う人との交流を積極的にして、長く付き合える友人を作っていきたいと思います。
- 意見がたくさん出てしまう中、大切なのは話し合いを何度もして相手の意見をよく聞くということ。意見が通らない時はできない理由を考えるのでなくどうしたらできるのかを考えるというお話が心に残りました。



山本 太郎 先生 長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授

「With コロナ～新たな社会の見取り図」

新型コロナウイルスは、症状が出る前から感染力を持つ。人口の一定割合が免疫を獲得しない限り、感染は収束しないだろう。収束に至る道はいくつかある。1つ目は感染の広がりを許容し、早期に集団免疫の獲得を目指すもの。2つ目は感染の制御をしながら、緩やかな流行の中で集団免疫の獲得を目指すもの。世界の多くの指導者は、コロナ禍をウイルスとの戦争に例えた。果たしてそうか。ウイルスに対して「勝利」という形はないだろう。人は生物の多様性の中で生きており、ウイルスと「共生」していく必要がある。

With コロナの時代、ITを中心とした社会になることは間違いない。今回のリーダー塾もITを使わなければ開催できなかった。ただしITは手段であり、どういった社会を作るためにそれを使うのかは、私たちの問題として残る。

講義の感想

- ウイルスの視点から考えた時に、宿主である人間をなくすことはないというお話に衝撃を受けました。
- コロナを根絶するのではなくコロナと共生していくべきということが分かりました。「コロナは私たちが倒すべき相手ではない。私たちには守る相手しかいない。」という言葉がとても印象に残っています。



鎌田 實 先生 諏訪中央病院名誉院長

「Beyond Corona 『新しい人間』になろう」

コロナによって、価値の大転換が起きるであろう。モノを大切にする時代から、心や文化を大事にする時代へ。本当に大切なものは何なのか、多くの人が考え始めた。生きること、死ぬことに対して無自覚ではいられなくなる。生き方を自己決定していくことが問われていく。そしてさらに平和が必要になってくる。自分ファーストでは格差が広がってしまうが、感染症は貧しいところから伝播していく。世界が協調して、格差をなくそうという方向に意識が向いていくのではないだろうか。

高校生の君たちは、なぜ勉強するのか。大学へ行ったその先で何がしたいのか。自由になるため、楽しさを深く味わうために勉強するのであって、大学へ行くことが目的ではないはずだ。勉強することによって見えてくる新しい世界がある。そして人生を豊かにするためには、人に親切にすることが大事。1%でも誰かのために生きるとは、まわりまわって自分を幸せにしてくれる。人生を面白くさせてくれる。

講義の感想

- 何かに縛られて生きるのではなく、自由に周りの人と一緒に楽しく過ごしたいです。そのためにも、勉強が大変だという考え方は捨てて、新しい発見ができてワクワクするという考え方を大切にします。
- 人を想う大切さを学べたと思います。「目の前に困っている人がいたら助ける」という言葉を心にとめてこれから過ごしていこうと思います。



明石 康 先生 元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長

「世界の中の日本—もっと外に開く国に」

“Japan in the world – towards a more open, dynamic country”

アメリカ、ヨーロッパの先進国では、若い世代の海外で勉強することへの関心が薄れてきている。日本も同様であり、心配している。グローバル化が進行している社会において、外国語を学ぶこと、色々なことに興味と関心を持つことは、とても重要である。私が子どもの頃は、すべての事を知りたいというほど好奇心旺盛だった。たくさんの質問をしてミスもたくさんあったが、恥ずかしがっていなかった。これが語学を上達させる方法だと思う。英語を学ぶ上で、流暢な英語を話す必要はなく、相手が何を話しているのか注意深く聞き、会話や話し合いの中身をきちんと理解することが重要である。

皆さんには、できるだけ多くの国に友達を作るようにしてほしい。他の国の人とは言葉や習慣などの文化は異なるが、他国の人をステレオタイプにしてレッテルを貼るのではなく、みんながそれぞれ違うということを理解することが重要だ。

講義の感想

- シャイにならず、積極的な姿勢が大事だという事に気づかされました。そして、流暢な英語で話すことより、中身が大切という考えが深く心に残りました。
- 失敗を恐れないこと、興味のある分野を深く学び、反対の声に耳を傾けて妥協点を探るということなどを学びました。



宮川 眞喜雄 先生 内閣国家安全保障局 国家安全保障参与

「歴史を読み。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。」

日本のために、アジアのために」

戦後世界は、東西両陣営対峙の冷戦時代、世界協力の時代を経て、自国優先の時代に入り、コロナの危機がその移行を加速している。国際機関は信任を失い、国々の協力は後退し、世界の安全に寄与した米国の指導力は陰り、米中間の核兵器の均衡は中国の核兵器製造によって崩れ、世界は安定軸を失いつつある。

その中でアジアは愈々成長し、政治的にも経済的にも世界の一極となりつつあり、地球の将来への責任は益々重くなる。加えて我が国は、特に近隣に難しい国々を抱えている。中には合意を順守せず、武力を誇示し、技術を盗取する向きもあり、その安全は危急に瀕している。

世界新時代にあって、我が国はいわば、海図なしに一億強の乗る大船の、その航海の安全を求められているが如き事態にある。次世代の指導者である諸君には、先進科学の知識を学び、技術を応用し、歴史から知恵を習得し、将来を合理的に予測し、危険を回避して国民に安定と繁栄を確保する能力と気構えが求められている。

講義の感想

- 世界と日本の関係や安全保障のあり方についてこんなに深く考えたのは初めてでした。先生のお話から、先人から学ぶこと、科学技術を学ぶことの大切さが心に刺さりました。
- 私も先生のように先の世界を見通す力を身に付けたいです。そして、米中の勢力争いが強まる中どのように日本という国を守っていくのか、様々な視点から考えていきたいと思いました。



金子 秀敏 先生 毎日新聞客員編集委員

「新型コロナ禍と国際関係」

21世紀の人類は、国境を越えてヒト、モノ、カネが自由に行き来するグローバリズムを進めてきたが、新型コロナウイルスによるパンデミックで地球が凍結状態になった。14世紀、中国の元帝国からシルクロードを経由しヨーロッパ全土に広がってモンゴル人の作り上げたグローバリズムを崩壊させたペスト。今年同じルートでコロナウイルスが中国から欧州へ伝播した。発生元の中国は一带一路構想や5G デジタル通信網の拡大など、世界経済のトップに立つためグローバリズムの先頭に立ってきたが、危機に直面し、中国で発生した疫病ではないという情報操作を繰り返して世界を混乱させた。

それ以前から、量子コンピュータで世界のビッグデータを操ろうとする中国と、追うアメリカとのデカップリングが加速していたが、パンデミックで対立が激化し、両国に依存する日本は難しい立場にいる。

量子コンピュータなどの高い技術を持った才能ある日本人は、アメリカや中国へ流出し、日本はインダストリー4.0時代のデジタル技術で遅れている。コロナで世界の動きが止まった今こそ次の時代への道を考えていく必要がある。

講義の感想

- 中国の情報技術が恐ろしく進んでいること、日本がそれに対してとても遅れをとっていることに衝撃を受けました。
- なんとなく大変なことになっていると思っていた中国とアメリカが、具体的にどのような状況にあるのかを多く知り、これからの国際関係に注目したいと思うきっかけとなりました。



田口 一成 先生 株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役社長

「社会問題をビジネスで解決する社会起業家という生き方」

外国人が入居を拒否されている現状を知り、シェアハウスを始めたことで、ビジネスそのものが社会問題の解決手段になり得ると確信した。そこから、社会問題を解決する「ソーシャルビジネス」を始めた。社会問題の解決に取り組む社会起業家が増えれば、解決される社会問題の数が増えると信じている。たくさんの社会ソリューションがビジネスとして成功してほしい。その数を増やして世界に広めるために、起業家を支援したり、他人同士が身内のような関係性、共通の「財布」を持つ仕組みを構築したりしている。

「人生の価値は何を得るかではなく、何を残すかにある」と思う。皆さんには、社会問題に対して今自分にできること、やりたいことを実現するための役割を考えてほしい。皆が自分の役割を果たすことで、大きなことを成し遂げることができる。

講義の感想

- 貧困問題や環境問題は NPO 法人や国連の団体でないと解決できないと思っていましたが、先生のお話から、起業してビジネスにより解決できることを知って驚きました。
- 自分のやりたいこと、目指しているビジョンなどをそれに対する自分の役割という観点から考えると、曖昧だったやりたいことを明確にすることができるというお話に衝撃を受けました。



村岡 浩司 先生 株式会社一平ホールディングス代表取締役社長

「九州パンケーキと ONE KYUSHU 構想

～九州を一つの島と捉えた、広域経済圏の考え方～

先日豪雨が大きな被害をもたらしたとき、復旧の手伝いをしたいボランティアの方々がコロナの影響で県境を越えることができず、現地に入れないということがあった。これまでの災害の在り方と異なると感じ、クラウドファンディングで支援金を集め、学生たちを有償ボランティアとして雇う施策を行った。

隣の町が災害に遭ったとき、人々は「自分の町が助かってよかった。」と他人事になってしまう。広域経済圏として九州を一つの島と捉えると、その中のどこかが災害に遭った際、他人事にならず「自分にできることは何か？」と主体的に考え、行動することができるようになると思う。

現代は、世界中の若者が同時にオンラインで繋がるスキルを身に付けている時代だ。皆さんには、オフラインでできること、得意分野を深掘した上で、それをオンラインに乗せて世界とつなげてほしい。こうすることで共感が生まれ、新しい化学反応が起こると思う。

講義の感想

- グローバル化が進む世界で「福岡としてはどうなのか、でもそれは日本として、アジアとしてはどうなのか」と考えることができるようになりたいです。
- 「住んでいるところが違う」と他人事になるわけではなく、同じ空の下にいる同志「ワンチーム」としてお互いを良くしていくために何をすればいいのかが、常に考えていく必要があると思いました。



佐々木 久美子 先生 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長

「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」

現在は、ソーシャルメディアが発達して、個人が何でも情報を伝えたり受け取ったりすることができる社会になっている。膨大な情報量の中で、個性の尊重の加速化が進んでいる。このような時代で、自分が何者であるか理解していれば、他に合わせる必要はない。そして、考えが合わない人を許容する力が重要だと思う。

テクノロジーは頭に描いたことを伝える上で重要な役割を持ち、生きるために役立つものである。AI は、情報を受け取って学習し認識するもの。学習させるためにはたくさんのデータが必要になる。学習させる人間によって性能が変わるため、万能ではないということを理解してほしい。使う人次第でテクノロジーの価値は決まる。これからは技術は進化していくが、皆さんには人が持つべき価値が上がるものを大事にしてほしい。

講義の感想

- AI の普及について深く考えるきっかけになりました。今まで AI は人間の可能性を吸いとっていただけだと考えていましたが、完璧ではなく、人間として大切にしなければならないことがはっきりと分かりました。
- 今はより個性や人間性を求められる時代で多様性を許せる気持ちが大切だということを知り、その気持ちで誹謗中傷も減らせると思いました。



村木 厚子 先生 津田塾大学客員教授

「事件から学んだこと～組織の在り方・人の生き方～」

2009年に遭遇した郵便不正事件で、身に覚えのない罪に問われ、逮捕・拘留され、164日間を拘置所で過ごした。裁判で無実が証明され、不正の温床となった密室での取り調べについて、新たに「録音・録画」が導入されるなど、この事件は刑事司法制度を改革するきっかけとなった。組織がどんな時に間違いを犯し、そのような時、私たち国民はどうしていきべきかを学んだ。また、拘置所の生活をとおして、刑務所にはハンディキャップをもった人たちが多くを知り、そのような人たちをサポートするNPO活動にも従事している。福祉でどんなにサポートをしても、彼らが再犯を起ささないためには、仲間が必要。みんなが偏見を持たずに困っている人には声をかけてあげてほしい。

困難なことに遭遇した時、例えば今のコロナのような辛く終わりが見えない状況でも、自分から頑張ることをやめないこと、好奇心を絶やさず、小さなことでも今できることに集中する。自分の人生は自分でコントロールすることが大事。

講義の感想

- 拘置所に入っても、その場を楽しむ強さや、検察官にひどいことを言われても屈することなく正義を貫く強さ。人生の先輩として、同じ女性として、どれをとっても格好良く素敵で、私もこうありたいと強く思いました。
- 失敗の経験はこれからの自分に大切だと仰っていたので、これからは色々なことに挑戦したいです。



滝 久雄 先生 株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NK B取締役会長・創業者

「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」

良きリーダーになるために、脳を最大限に進化させてほしい。まずやりたいと思うことに興味をもつこと。やらなければならないことをやりたいことにするには、志を高くする以外にない。そのために、使命感を持ってほしい。やるべきことがいかに社会に役立つか実感することが大切である。自分の目標に近い人に出て、話を聞いてみるとよい。

これまでの経験から、将来リーダーになる皆さんに基本となる「リーダー憲法」を提案する。内容として、1つ目は「もっともはやく、もっともよく」。これを徹底してほしい。そのためには、先生や先輩などまわりを引っ張り込むこと。2つ目は「人間を好きになろう。人間社会も好きになろう」。これからの難しい社会を生きていくうえで、好きになろうとすることは重要。3つ目は「お互いの文化を尊重しよう」。世界にはそれぞれの国の歴史に基づく価値観・文化があるため、お互いに尊重すること。これら3つを「憲法」として心がけてほしい。

講義の感想

- 「人間を好きになろう、人間社会を好きになろう」というお話が心に残りました。理不尽なことも多い人間社会ですが、それを好きになることができる人こそリーダーにふさわしいといえるのだと感じました。
- 志を高く持ち、使命感を持つこと、そして今やらなければいけないことをやりたいことにし、好きになることが重要だと学びました。様々なものに興味を持ち、挑戦してみたいと思います。



笠谷 和比古 先生 大阪学院大学法学部教授（専門、歴史学・武家社会論）

「徳川社会と日本の近代化」

18世紀、八代将軍徳川吉宗の時代、疫病により多くの人々が亡くなった。安価で良質な薬を国内で生産するため、吉宗は高麗人参の国内栽培に挑戦した。幕府で長年試行してきた情報を公開し、国家プロジェクトとして民間の知恵と知識を総動員して、苦節25年、国産栽培種のオタネニンジンの生産に成功する。そして、採薬師を日本全国に派遣し、薬の学問「本草学」を極めていく。また、薬から視野を拡大して、日本全国の自然物、産物全般の総合調査を行っていく。これは後の経済的近代化へ大きく貢献する。さらには、自然を精密に観察して描写することにより、科学思想の発達、科学的近代化の基礎を成す。吉宗は日本の発展において極めて重要な基礎作りを行なったのである。

今のコロナの状況もネガティブなことばかりではなく、ポジティブな成果も期待できる。上手く対応することによって、吉宗のような改革・革命につなげることができるかもしれない。

講義の感想

- 国内での栽培が困難だと言われていた高麗人参の国産化に成功し、オタネニンジン栽培可能にしたなど、吉宗の不屈の精神を見習いたいと思いました。
- 吉宗が人参の種を無償で配布し、栽培に関するノウハウを公開して人々の英知を結集したという点は、他人の意見を徹底的に聞くことの大切さを考え直すいい機会になりました。



李 鳳宇 先生 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、株式会社スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師

「映画で日本の将来を考えよう」

太平洋戦争末期、保母たちが集団疎開した事実を映画にした『あの日のオルガン』。45年前に企画があがったが、実現しなかった。テレビ局や大手広告代理店の参加がなく、原作が漫画やベストセラーでない話は、全国一斉公開とはならない。しかし、丁寧にクオリティの高い映画をつくることを考え、その主旨に賛同した人たちの支援によって完成できた。

この映画について、二つのことを知っておいてほしい。一つは、二十歳前後の保母たちが、厳しい状況のなか、53人の子どもたちの命を守るため、自分たちで考え行動したということ。もう一つは、日本でつくられる戦争映画は、そのほとんどが被害者の立場で描かれている。市民レベルでは確かに犠牲者であり悲劇的な時間を過ごしたが、日本には加害の側面もあるということ。

今は大変な不自由があると思うが、光と影があるように、暗闇だからこそ見える光があるはず。コロナ禍だからこそできることがあるはず。物事を前向きにとらえて行動してほしい。

講義の感想

- 映画で最年少 18 歳、最年長 27 歳の若い保母たちが、自分たちの事で精一杯のはずなのに、子供たちを助けるために疎開をする。その行動力と決断力に感銘を受けました。
- 私は文化祭実行委員長を務め、日々コロナの中でも出来ること・やりたいことを考えています。李先生のお話を伺って改めて、今の状況をチャンスに変えていきたいと思いました。



山口 祥義 先生 佐賀県知事

「世界に誇れる佐賀～その一步を踏み出せ～」

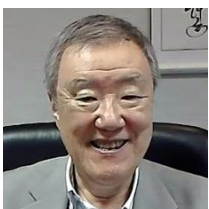
リーダーの仕事とは「決断」することである。日本人はスポーツでも何でも、既存のルールの中で物事に取り組むことが得意だ。一方、自分たちのルールを作り上げていくことに関しては、まだ未知数である。だからこそ、新しいリーダーは頭を白くし、自分はどうかと感性を磨き、何かを成し遂げてほしいと私は願っている。

私は官僚として過ごしてきた人生が、1日を境に大きく変わった。だが、今まで自分は何になりたいかと自問自答をしてきた。だからこそ人生を変える決断をすることができた。いざ決断するときには大事になるのは、平時に自分を見つめておくこと、培ってきた自分の経験である。

佐賀では現在、コロナに対して医療の観点からの対応だけでなく、ウェディングやスポーツ大会など現場の声を拾い上げながら幅広い支援をしている。自分たちの町から人づくりを行い、佐賀から世界を目指している。

講義の感想

- 私は「決断」をするとき、自分の過去を気にしてしまい、決断に時間をかけてしまうことがあります。しかし、今後のキャリアで必ず良いものになると自信を持つことができました。
- これからのリーダーとして、自分がどうあるべきか考えられる人、自分の感性を磨いて何かを成し遂げていく人に近づけるように着実に精進していきたいと思います。



出口 治明 先生 立命館アジア太平洋大学学長

「これからのリーダーに必要な思考力」

これからのグローバリゼーションを考える上で、大切なのは時間軸を分けて考えることだ。ウィズコロナの時代は、Stay Home と New Normal の繰り返しであり、一時的にグローバリゼーションは止まる。しかし、ポストコロナの時代になると、グローバリゼーションは以前と同じように進むだろう。現代文明にとって重要な資源は世界に偏在しており、それを有していない国々は世界と協力する必要があるからだ。

リーダーに必要な能力として、原点から考えることが重要である。考える力を鍛えるには、「なぜ」と3回問いかけること。これによって、探求力や問いを立てる力、常識を疑う力が身に付く。また、「人・本・旅」も考える力を鍛える上で重要になる。人や本に教えてもらう、自分の足で出かけて体験することで学ぶことができる。例えば、デカルトなど賢人の本を丁寧に読み、彼らの思考のプロセスを追体験することが大切である。

講義の感想

- 旅をして様々な事を経験し、考えることが大切だということ学びました。また、自ら発信して社会を変えていく事ができるような型破りな人になることがこれからのリーダーにとって大切であると感じました。
- リーダーに不可欠な考える力をつけるため、出口先生が仰っていたように「なぜだろう」と3回自分に問いかけたり、先生など周りの大人を困らせるほど質問をしたりしようと思いました。



室伏 きみ子 先生 お茶の水女子大学長

「人々の幸せを目指す研究・開発と研究者の役割」

小学校時代から理科が好きで、お茶の水女子大学附属中学校では理科の先生がみな女性だった。高校生のときに「21世紀は生命科学の時代」と助言を受け、大学・大学院では社会に役立つ研究がしたいという思いから、理系の研究者としての道を進んだ。若いときに様々な経験をすることは大事だろうと思い、ニューヨークへ子連れで留学を決めた。研究者を一生の仕事とすることは、様々な困難はあるかもしれないが、人々の夢を実現する可能性のある魅力的な職業である。

これまでの研究では、炎症性の神経変性疾患治療のための研究を進めていたが、COVID-19の重症化を抑えるためにも使える可能性が出てきた。今後さらに研究をすすめていく。

次世代を担う皆さんには、海外留学や、海外の留学生との交流などの機会を積極的に活用してグローバルな時代を生きる視点を養ってほしい。失敗を恐れることなく、やりたいことにチャレンジしてほしい。失敗することは心を鍛えるとても重要な鍛錬である。

講義の感想

- cPA研究の第一人者である先生が取り組んだ、研究内容から抗炎症作用がどのような効果をもたらすのかまで詳しく解説して下さい、本当に勉強になりましたし、研究者はどれほど凄い職業なのかを改めて実感しました。
- 「一つのことにかたよらずいろいろな教養を」という言葉がとても心に残りました。今まで以上に様々なことに興味を持ち、そこから得た教養を人生の糧にしていきたいと思いました。



麻生 渡 先生 元全国知事会会長、学校法人福岡工業大学最高顧問

「君は人生100才時代をどう生きるのか」

人生100才時代のなかで、学び直して新しい知識を得ることで人生を新しくすることができる。皆さんには、人生のイメージを大きく持ち、設計をしていってほしい。進路で悩むこともあると思うが、神様は皆に必ずいいところを天性という形でくださるからこそ、自分とよく会話し、見出し、伸ばしていくことで人生が楽しくなっていく。更に、人生には皆に必ずチャンスがある。

知識・心・人脈を準備し、チャンスを見逃さずに掴むことで大きく飛躍することができる。

この世界は激動期に入り、判断・決断・行動が世界の状況とともに難しくなっている。世界の変化と共に私たちの常識を見つめ直さなければならないという大変な事態も多々起きている。しかし、「大変」とは変化や新しいチャンスがあり、楽しいことともいえる。これに対し皆さんはどう立ち向かっていくだろうか。皆さんには日本を、そして世界を牽引するリーダーになってほしい。

講義の感想

- 自分の進路で悩んでいたのが、先生のお話で自分の好きな道に進もうと決めました。たくさん悩むことがあるかもしれませんが、好きなことの道へ進むことをやめずに頑張っていきます。
- チャンスがどんなものなのかは、自分の生き方によって決まると思う。だからこそ、チャンスを掴むため、毎日の出来事や発見の「縁」を大切にしようと思えました。



榊原 英資 先生 一般財団法人インド経済研究所理事長

「ポスト・コロナ時代の世界」

現在、新型コロナウイルスが世界に蔓延している。かつて14世紀にはペストが流行した。これにより、ヨーロッパでは3分の1の人が命を落としたといわれている。中世を終わらせる契機となったペストであるが、それがきっかけとなりルネサンス文化が形成され、近代ヨーロッパが始まった。疫病が時代を変えた。新型コロナウイルスの拡大も同じように、時代を変えるだろう。

現在顕著に起きているのは、グローバリズムの終焉あるいは停滞である。アメリカ・ファーストやEUの分裂などのナショナリズムの台頭や国境を超えた往来の縮小という動きがみられる。

今のコロナウイルスの状況は、ただ病気が広がったというだけではなく、我々の生活の仕方を大きく変える可能性を持っているということに留意する必要がある。皆さんには、ポスト・コロナ時代の世界がどのようなものになるのか考えてほしい。

講義の感想

- 疫病の蔓延が世界を大きく変えてしまうことから、ポスト・コロナ時代をどういう世界にすべきなのか、皆で考えていくことが重要だと学びました。
- ポスト・コロナ時代がどんな世界になるのか誰も想像できないとすると、その世界を引っ張るリーダーが必要になり、また大きく変わる我々の生活に対応する力が求められると思いました。



マハティール・モハマド 先生 マレーシア第4代・7代首相

「コロナ後のグローバルな世界で社会変革をいかにすべきか」

“How future generation should change the society in global world after Covid-19”

現代の技術に感謝したい。コロナ禍で往來の自由が奪われても、世界中の人たちがつながることができる。リーダー塾もオンラインでマレーシアから授業ができる。

コロナ禍で多くの人々は仕事ができず、食べるものに困っているが、富める人たちは貧しい人たちに食事を配っている。チャリティの心は大変必要なことだ。ワクチンも同様に世界 74 億人のためにあることを忘れてはいけない。気候変動も深刻だ。地球温暖化が急速に進んでいる。CO2 の削減はとても重要なことだ。氷河期から氷が解け、森林ができて、恐竜が生まれて、絶滅。また氷河期がやってきた地球の歴史から学ばないといけない。

次世代には、今、私たちが唯一宇宙の中で住み続けることができる「地球」に責任を持ってほしい。自国のことだけを考えてはいけない。武器を捨てて、紛争をなくしていくことに加担してほしい。私たちは地球という惑星の中に生きていて、協力し合う運命共同体だ。それを激しく考えてほしい。自国に対する愛国心を持つことと同じく、「愛地球心」を持ってほしいと切に願っている。

講義の感想

- 「人を殺す予算を、地球を救う予算へ」という言葉が一番印象に残っています。同じ地球に住む one team として世界の問題をどうすれば解決できるのか考え、実行していくことが大切だと思いました。
- 前例のないパンデミックの中で、海の向こう、画面の向こうの人の顔を想像する必要がある。また、「地球に対しての愛国心」を持ち、全ての人が尊敬される世の中を作る必要があると思いました。



葦津 敬之 先生 宗像大社宮司

「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」

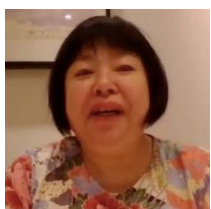
日本は海洋国家である。従来、古代日本には文化の多くが大陸からもたらされただけだと思われていたが、そうではない。日本からも、多くの文化が発信されていたと考えられる。

日本書紀には、田心姫神、湍津姫神、市杵島姫神という三神が天照大御神の神勅のもと宗像にくだったと記されている。かつて宗像では、大和朝廷と連携をとりながら海外との外交、貿易が行われており、日本と海外を繋ぐ拠点となっていた。そのため、海との関わりがとても深い。

宗像が世界文化遺産に登録されるにあたって、Spiritual、Ecology、Animism、という3つのキーワードが決めたこととなった。その中で Ecology に関しては、海水温度の上昇などの諸問題に対して危機感を抱き、「宗像国際環境会議」や「海の鎮守の森基金」の設置などを行っている。こういった取り組みにより、これからも神々が棲む海、神が鎮まる海の再生に努めていきたい。

講義の感想

- 以前まで神社は伝統を引き継ぐだけだと思っていました。しかし、宗像大社は現在問題となっているプラゴミ問題の解決に取り組んでいることを知り、過去と現在は結びついていると実感しました。
- 福岡に住んでいるのに、宗像のことをあまり知らなかったもので、とても興味深かったです。この素晴らしい遺産を守っていききたいと思いました。



加藤 暁子 先生 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人 AFS 日本協会理事長

「激動の時代を切り拓くリーダーに」

新型コロナウイルス感染症の拡大で、経済が落ち込み、社会不安が広がった。世界中が得体の知れないウイルスと戦っている中、豪雨などの天変地異も起こっている。

混沌とした時代を生き抜くリーダーにとって、臨機応変に先を見通すことが最も必要だ。非常時には、普段のマニュアルは一切、役に立たない。今、何ができるのか、次にどういう手立てを打てばいいか、瞬時に判断する能力が求められる。「できない」と言ってしまうとそこですべてが止まってしまう。できない状況下で何ができるのか、未来をみつめて、建設的に考えて実行あるのみ。普段から、話をきちんと聞き、わかりやすく自分の言葉で説明して、先を見通して明るい青写真を描く。そして、決断したら必ず実行して、諦めない。そういう能力を身につけてほしい。リーダー塾で、多くの同士をみつけ、将来、どんな夢を描きたいか。激しく考えてほしい。

講義の感想

- コロナにより心も体も疲れ果てている中、大きな光を目にしました。明るい明日を私たちが作っていきます。
- 加藤先生の「いけいけどんどん」という考え方が大好きです。コロナウイルスの影響で先が読めませんが、リーダー塾を開催して下さってありがとうございました。

卒塾生発表 社会で活躍する2名の卒塾生に話をしてもらいました。



1期 中川 智博 さん 外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第二課課長補佐

リーダー塾に参加して印象に残ったことは、周りの友人が夢を持ち、恥ずかしがらずに語っていたことだ。普通に高校に通っていたら出会えない友人だった。また、マハティール先生の講演、人柄に魅了された。一国のリーダーとして、人間的な魅力がとても大切だと感じた。

大学生時代に、模擬国連の全国大会に参加した。その中で模擬安全保障理事会という英語で行われる会議があった。それに初めて参加した際、一言も話せずとても悔しい思いをした。一年後の同じ会議に向けて、会議のテーマと英語を猛勉強し臨んだ結果、最優秀大使賞をいただきリベンジを果たした。それを達成できた理由は、英語力が伸びたこと、準備を一生懸命したこと、そして他の参加者の信頼を得るべく努力したことである。相手の話を聞く、理解するように努めるなど信頼を得るために頑張ったことが、結果につながったのだと思う。

外交という仕事は、人と向き合う仕事である。人と人との関係の中で、信頼に基づいて、仕事をこなしていく。人と向き合うことはとても重要であり、外交だけでなく、どのような仕事でも同じようにいえると思う。

発表の感想

- 人との向き合い方、信頼関係の築き方を学びました。特に、信頼される立ち振る舞いとして「一緒に汗を流す」と、一人で抱え込みすぎずに人に任せながら協力することで信頼されるものだという学びました。英語を話さなくて悔しいという思いからリベンジを果たせた先生の経験から、悔しさは成長のばねになることを知り、その気持ちがあれば大志は貫徹できると感じました。自分の行動を見直していきたいです。
- 人と信頼関係を築くことの大切さや、失敗の経験から悔しさをバネに再奮闘することの大切さを学びました。様々なことに挑戦し、挫折を乗り越えながらも強い信念を持ち続け、いずれ人を魅了する人間力を持つ大人になりたいです。リーダー塾については、「周りの人が大きい夢を持ち、恥ずかしがらずに言っていた」とおっしゃっていました。私も、自分の夢を語る大切な仲間に出会えたので、共感しました。
- 何をしても、人と向き合うことが大事だと改めて思いました。そして、私の場合だと英語をもっと頑張れば、ネイティブ並に喋れるのではないかと中川先生の講義を聞いて思いました。努力しなければ、何も実現しないと思います。これから何をすることも努力したいです。



4期 柳川 あかり さん 東映アニメーションプロデューサー

幼少期から作ることが好きだったこと、海外に住んでいた経験から日本の文化を伝えたいと思うようになったこと、これらがつながりアニメ製作会社と出会った。そのとき、今自分はどこにいるのか、どこを目指すのかを把握して、どのステップを踏んで目標に向かうのかということ考えた。そして、ロールモデルを探し、そのモデルを参考に自分の戦い方を探った。アニメのプロデューサーに求められる知識として、歴史学、社会学、マーケティングや経営学など様々な学問が必要になり、学生時代に学んできたことが活かされていると実感した。

リーダー塾では、自分が通っていた学校が世界の全てではなく、別の世界があるということを知ることができた。リーダー塾やその他の活動で、心の許せる友人を作ることができたことは良かった。他の人を知ることで、自分の強みや苦手なことなど自分自身も知ることができる。

発表の感想

- リーダー塾を通して「学校の外に想いを馳せることができた」と仰っていたように、私もリーダー塾で様々な強い意志を持つ志の高い人たちと出会い、世界をより広い視野から見られるようになりました。また、柳川先生が現在の職業に至った経緯を星座に例えていたのが印象的でした。リーダー塾を通して見つけた自分の意思や目標の共通点を探し、「点と点をつないで自分だけの星座を作っていく」作業を始めたいです。
- リー塾卒塾生の活躍の場の広さにまず驚かされました。情報を集めて自分に合うモデル、先輩を見つけたいと思いました。「他人を知ることは自分を知ることになる」という言葉に感銘を受けました。これから先も多くの壁にぶつかると思います。そのときそのときで熟考して、自分なりの答えを出したいと思います。これから先、正解のない問いに挑み続け、明るい未来を切り開きます。
- やりたいことが見つかったら、まず自分の分析が大切であることがわかりました。自分はどんなタイプなのか、ロールモデルを探し、自分にあった夢への道を進んでいきます。

6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子

第17回日本の次世代リーダー養成塾（以下、リーダー塾）を終えて、塾生概要、期間中における塾生の様子や成長をまとめた。

塾生概要

（1）概要

塾生は、負担金をいただいている9県2市（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）の参画県・市推薦枠から144名と全国から選抜する一般公募枠30名、あわせて174名が参加した。

国内21都道府県104校に所属していた塾生は、21～22名ごとに8クラスに分かれ、1クラスを2名のクラス担任と2名の学生リーダーで担当していただいた。（巻末参考資料③～⑤参照）

（2）塾生の募集及び選考

塾生は、参画県・市推薦枠もしくは一般公募枠のいずれかの応募枠に申し込み、審査を経て塾に参加することができる。参画県・市推薦枠は、各自治体で個別に募集および選考をしていただいている。一般公募枠については、事務局が募集・選考を担う。しかし、今年はコロナ禍の影響で書類選考後に行う面接を中止し、書類のみで選考を行った。

例年、一般公募枠に関しては、3月に全国900校以上の高校に募集要項や募集チラシなどを一斉に発送し、そのうち一部の学校には電話および訪問での営業活動を行うが、今年は学校が休校していたこともあり、ごく一部の学校へチラシ配布および電話での案内にとどめ、関係者の方々には休校期間にも関わらずご協力いただいた。そのほか、卒塾生にも周知活動をお願いし、自身が活動する団体や高校の後輩へのチラシ配布やSNSを通じての呼びかけに協力していただいた。塾生が参加を決意するきっかけに、先輩や兄弟姉妹が塾への参加を契機に大きく成長した姿を目の当たりにしたことを挙げる者が多い。今後も卒塾生による周知活動協力を期待するとともに、塾として卒塾生の活躍を支援していきたい。また、公式のFacebookページでは前年の卒塾生の声をアップし情宣した。昨年度はFacebookページにて広告を掲載したが、今年はコロナの状況で先が読めないため、広告は控えた。

また今年からWebでの応募を開始し、一般公募枠、福岡県推薦枠、北海道推薦枠の募集はインターネット出願で行なった。一般公募枠は4月1日から募集を開始した。

開催について、募集開始当初は例年通り7月下旬から8月上旬の2週間、合宿形式での開催を予定していたが、4月16日に全国に発令された緊急事態宣言を受け、事務局内で議論を重ね、開催可能な方法を模索した。5月下旬に各参画県・市のご担当者ともzoomで会議を行い、第17回の開催をオンライン講義+合宿発表会の二段構えで行うことを決定した。それに伴い、募集期間を6月下旬まで延長した。参画県・市のご担当者の方にはスケジュールが二転三転するなか、その都度ご対応いただき、たくさんの応募者を集めてくださったことに、感謝申し上げたい。

スケジュールおよび開催方法の変更にとともに、またコロナの状況で先が読めないこともあり、応募人数は減少することを予測した。150名程度に選考して実施を予定していたが、各参画県・市推薦枠で応募人数が予定を大幅に超えた県があった。応募者の中には、留学を予定していたがコロナの影響によって行けなくなってしまったという高校生が複数名いた。今年、新たなことに挑戦しようとする若者にとっては本当に辛い状況であったと思う。このような時期にせっかく応募してくれた高校生には、ぜひ参加してほしいと考え、定員を例年通りとし、7月2日には174名の受講者が決定した。

塾生の期間中の様子

(1) 受講者決定から開塾まで

受講者決定後～塾が始まるまでの約1か月間、塾生たちはオンライン講義受講のための準備を行った。塾参加に必要な情報を Web で登録してもらい、オンライン講義を受講するための環境（接続状況）に問題がないか、zoom が使えるよう設定できているか等を確認した。また、7月中旬から開塾までの期間、3回に分かれてテスト配信を行った。事務局から配布したオンライン講義の手引きに沿って、実際の講義ではどのように質問をするか、音声が届かないなどのトラブルが起きたときはどうするか、といった細かな内容をひとつひとつ確認していった。

オンラインの受講方法として、講師による講義は174名全員で受講し、ディスカッション（アジア・ハイスクール・サミット）は、クラス毎（21～22名）に分かれて行うこととした。クラスごとに分かれて行うディスカッションでは、zoom のブレイクアウトルーム機能を使って、更に少人数にわかれて議論し、意見を纏めていくような方法をとった。クラスごとに分かれる際の zoom 操作は、各クラスの学生リーダーにお願いした。テスト配信では、このブレイクアウトルーム機能を利用するところまで行き、それぞれのグループでは簡単な自己紹介などをしてもらった。

8月8日の塾初日、塾生174名とクラス担任、学生リーダーが zoom 上で一堂に介した。

加藤専務理事・事務局長が「いよいよ第17回リーダー塾が始まります、みなさん、わくわくドキドキしてますか？」と塾生たちに語りかけた。塾生たちは、これから始まる前代未聞のオンライン開催のリーダー塾に向けて、期待と不安の入り混じった緊張感のある面持ちで、話に耳を傾け、気を引き締めていた。



▲塾生に語りかける加藤暁子先生

(2) 塾生の様子と特徴

17期は全ての日程がオンラインとなり、コミュニケーションの取り方に苦労があった。また日程が例年の2週間集中ではなく、約2か月間の中で夏休みの5日間とその他の休日や週末を使って開催したため、集中力をいかに持続させるかという点が課題であった。

塾生は例年と同じように、自分を成長させたいという志の高い高校生が多く、一人ひとりが明確な目標を持って参加しており、何を学びたいのか、自分には何が足りないのか、何をすべきなのか、真剣に考え取り組んでいた。また積極的な塾生の中には、塾開始前からSNSで交流し情報交換するなど、塾初日には知り合いになっている者もいた。

塾の前半では塾生同士お互いに遠慮がちな接し方になっており、今年は打ち解けるまでに例年以上に時間を要した。議論の中で自分の意見を通そうと周りが見えなくなる塾生もいたが、ほとんどの塾生はオンラインという環境下で、意見がぶつかり合うことを避けているようにも見えた。

しかし多くの塾生は試行錯誤しながら、徐々にオンラインでの環境に慣れていきコミュニケーションの取り方を自ら工夫して、塾の後半ではクラス内外問わず積極的に交流していた。

一方で、時間の都合上、クラスをまたいで交流する機会をカリキュラムの中では持てなかったため、なかなか自らアクションを起こせず、なじめずに終わってしまった塾生もいた。

クラスをまとめるリーダーたちは、オンライン上での議論で発言している人が偏ってしまうなど、互いに悩みなどを共有しながら、改善するよう努力していた。それぞれどうやったらクラスに貢献できるのかを真剣に考えていた。

最終的には、オンラインでもここまで仲良くなれるのかと思うほど、塾生同士の絆ができていた。地元の学校生活では優秀であろうと思える塾生が多いなか、自分より優れた人がいるということに気づきシ

ショックを受けたり、今まで自分が知らなかった一面を仲間に見つけてもらったりするなど、オンラインでも合宿と変わらない関係性を築いていた。自分の意見に自信がない塾生や発言量が少なく大人しい塾生、受動的な姿勢で自ら進んで行動することができなかった塾生は、塾に参加して異なる地域の人々と交流することで、お互いを意識し成長するなど、塾生同士で良い化学反応が起きていたように思う。



▲オンライン講義の様子

(3) 2か月間の成長

■卒塾生代表挨拶

期待と不安が入り混じった開塾時の表情から一変、最終日の顔つきは大きく変わっていた。その成長は卒塾式での代表挨拶に表れている。今年は8クラスから一人ずつクラスの代表者が、成長の過程と未来への力強い意思を述べてくれた。(以下、一部抜粋) また今年も、塾生全員が『目標宣言』を行い、将来の夢や高校生のうちに達成したいことなどを一人ずつ語った。みなハードなスケジュールをやり直し、仲間たちと議論を尽くし、大切な仲間を得たその顔は達成感と自信に満ちていた。

【1組】上田穂乃香さん(筑紫女学園高等学校2年生)

私は典型的なアナログな人間で、LINEで会話するのも学校のオンライン授業もとても苦手です。一方で同じ空間で顔を合わせて会話するのが大好きなので、リーダー塾がオンラインで行われると知った時、まったく会ったことない人と深く議論ができるのだろうか、ちゃんと自分の思いを伝えられるだろうかと不安で不安でしかたがありませんでした。正直オンラインでやることに不安を感じたり、難しいと思ったこともありましたが、最後には、1組みんなでワクワク・ドキドキできる話し合いができました。今は、オンラインへの不安よりもオンラインでこんなに強くなれることへのうれしさと、1組のメンバーへの愛で心がいっぱいです。1組の学級委員をさせてもらって、提案をしたときに反応してもらったり、困ったときに助けてもらったり、改めてリーダーは1人ではなることはできないんだと気づきました。



【2組】濱井かなはさん(名古屋国際高等学校2年生)

リーダー塾に参加する前の私は、かなりの人見知りで引込み思案、何事にも一歩踏み出せない消極的な性格でした。そんな私が変わったきっかけは、AHSで学生リーダーさんがおっしゃった「やらない後悔より、やって後悔」という言葉でした。シンプルな言葉でしたが、迷っていた私の背中を押してくれました。リーダー塾で挑戦してきた様々な体験は、今後生きていく上で大きな自信となります。私のクラスには、コロナ禍で学校が休校になり、それがきっかけでリーダー塾への参加を決めた子もいました。「偶然じゃなくて必然」「会うべくして会った」。コロナだからこそ出会えた仲間がいると考え、大変感慨深いです。今までは学校という限られたコミュニティの中だけで物事を決めつけていましたが、世界にはこんな素敵な大人が、志の高い同世代がたくさんいることを知り、自分の未来のビジョンが明確になりました。



【3組】金子まなみさん（フェリス女学院高等学校3年生）

リーダー塾に参加しているみなさんにとって自らが一番大切にしたいことは何ですか？私はこのリーダー塾を通して大切にしたいことを大切にする勇気と行動力が身に付きました。もっとクラスの子全員が発言しやすい環境を作りたい、と私が伝えた時、否定せず自分の意見を受け入れてくれる環境がリーダー塾にはありました。自分が勇気を持って行動することで逆に助けられ、意見を主張できなかった私は少し変わることができました。逃げ道を作ろうと思えばいくらでも逃げ道はありましたが、クラスみんなや学生リーダー、先生方のおかげで多くの学びを得たことに感謝しています。リーダー塾を卒業し、毎週のzoomがなくなると思うと本当にさみしいですが出会いを大切に、ここで学んだことを生かして自分に正直に生きていきたいです。与えられた環境でこれからも自分なりの理想を探し続けていきます。



【4組】石黒美緒さん（名古屋国際高等学校3年生）

私たちのクラスは、AHSを進める中で決して平坦な道のみを歩んだ訳ではありません。何度も方向性が変わり、何度も行き詰まりました。こんなにも深く、内容の濃いディスカッションができたのはみんなに共通の目標があったからこそだと思います。普通に学校へ通っているだけだったら出会うはずのなかった人たちと出会い、真剣に議論しあったからこそ、感じられる充実感があります。どれだけ物理的に距離があっても、そんなことは関係ない。大切なのは、お互いがお互いのことを理解し、思いやり、協力していくことなのだ、と、リーダー塾を通して学ぶことができました。まさに、4組の提案する「心の密」とは私たちのことをさすと思います。人とつながりを持つ大切さ、そして、常に新しいことを学び続ける大切さを実感しました。未来の日本を担う世代として、新しいことに挑戦できる強い意志を持って、残りの高校生活を過ごしていきます。数年後、数十年後の未来で、リーダー塾17期生が世界を舞台に活躍することを楽しみにしています。



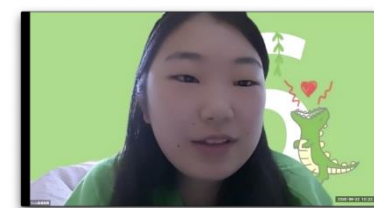
【5組】秋吉千聖さん（福岡県立柏陵高等学校2年生）

私たち5組では、話し合いで妥協しないことに力を入れてきました。多数決は学級委員を選出する時が最後で、その他は、みんなが納得するまでディスカッションを重ねてきました。時間をかけた分、意見がぶつかることやディスカッションが上手く回らず、右往左往することも多くありました。でも、おかげでクラスみんなが仲良くなれたし、充実したディスカッションを行うことができました。また、学級委員のわたしたちは人としてリーダーとして成長することができたと思います。5組のみんなの強みは「個性や特技を活かし、受け入れあえること」だと私は思います。このリーダー塾で5組で活動したことによって、自分の良さを認識できた人がいると思います。また、相手の良さを伝えることができた人もいます。わたしはその経験とリーダー塾によって気づけた個性を、それぞれがこれからの活動で活かせることを期待し応援しています。



【6組】高橋和音さん（岐阜県立恵那高等学校2年生）

私は今回リーダー塾に参加し、主に二つのことを学びました。一つ目は一人一人が積極的に議論に参加し発言することで一つのものができるといことです。何かアイデアや意見を持っていたとしても発言をしない限りほかの人には伝わらないし、クラスの意見はより良いものにはなりません。そのためみんなが積極的に発言することがとても大切だと学びました。二つ目は自分から飛



び込まないと何もできないということです。受け身になり、待っていても始まらない。自分から物事に挑戦しないと何もできずチャンスが回ってくることもないということを学びました。私のクラスは誰かが秀でていてというわけではありません。みんなは一人ひとりが特別な存在であり、6組を全員でつくるようなクラスでした。このリーダー塾で6組のみんなをはじめとしたとても大切なかけがえのない仲間がたくさんできました。これからもずっと仲間を大切にしていきたいです。

【7組】桐山真衣さん（岐阜県立大垣養老高等学校3年生）

はじめは皆ぎこちなく、話す人が限られていて上手く議論が出来ませんでした。また、インターネットが使えるからこそ、高校生らしい自由なアイデアがなかなか出てきませんでした。それぞれ学校が始まると、人が集まりにくくなったり、次の議論までの準備不足等で再び発言者が限られ、特定の人への負担が大きくなったりと、雰囲気が良くない時もありました。そんな時に担任の先生方から、心のこもった熱いメールを受け取り、各自でしっかり考えを持って参加するようになりました。全員の気持ちが引き締まったきっかけだったと思います。このリーダー塾では、議論が止まってしまうという壁に対して全員でどう乗り越えるべきか、様々な対処法を学ぶことが出来ました。また、同世代のなかで「この人になりたい」と思える人達とも出会えました。高校生の今だからこそ、ここで得たことを活かし学校や地域のために尽くしていきたいと思います。そして高校を卒業したら、次は世界中の人が幸せになれる地球環境を作っていくために、特に人との繋がりを大切にしていきたいです。



【8組】梶原凜さん（愛媛県立三崎高等学校1年生）

8組のメンバーは皆、真面目です。与えられた課題に一人一人が向き合って解決方法を見つけ出します。オンラインという難しい状況の中でも相手のことを考えて議論することができました。また、様々な分野で活躍されている講師の先生方の話を聞くことで、新しい考え方やものの見方ができるようになりました。今回お話しして下さった先生方に共通していたことは、好奇心があるということです。どの活動をするにあたって好奇心を持ち、行動に移すことが重要なのだということが分かりました。私も好奇心を持って様々なことにチャレンジしていきたいです。新型コロナウイルスの影響で、直接会って議論することはできませんでしたが、一緒にリーダー塾に参加したたくさんの人に出会えて嬉しいです。今回リーダー塾で学んだことをこれからの学校生活・将来に生かし、自分の周囲の人や社会に還元できるように頑張っていきます。



■塾に参加した感想、塾で得たもの

塾に参加した感想や塾を通して得たものを塾生に聞いた。以下に主な内容を抜粋して掲載する。

オンライン開催の今回参加しようか正直悩みましたが、いざ参加してみると人生の中でかけがえのない青春の1ページになりました。志の高く暖かい仲間との出会いや講師の方々からの心に刺さる言葉はこれからの人生のなかで必ず振り返り、大切に心に留めておきたい宝物です。

たくさんの人から多くの刺激を受け、自分が将来やりたいことが明確化した。さらに、自分から積極的に行動できず、相手に自分の意思を伝えられないところを直すことができた。

リー塾で出会った仲間は皆住んでいる場所も興味のある分野も違うのに、がむしゃらに頑張っている姿を見て、私も負けてられないと強く思うようになりました。また、講義の中でも先生方が若いうちに多くの事を経験する大切さを話されており、自分がやりたいことに全力で取り組もうと思うようになりました。

沢山の「人」に出会えました。2ヶ月間ずっと一緒にいた、いろんなことに取り組むリー塾17期生のみんな。沢山のことを教えて下さった講師の先生。近くで支えてくれた担任の先生や学生リーダーさん。この環境を用意して下さった事務局の皆さん。この出会いでわたしの世界が大きく広がりました。

勉強は、自分の人生を豊かにするための手段としてあるものだ！という考え方に出会えた。ただ闇雲に勉強するのではなく、自分にしかない感性を活かして学びを深めていくことが大切なんだなと感じました！
やりたいことを行動に移す決意ができれば、仲間になってくれる高校生やそれを全力で支え、応援してくれる大人が全国にはたくさんいるんだと知り、とても勇気をもらいました。
たくさんの大切な仲間と出会えたことが一番大きい。また、自分の考えや意見を自信をもって伝えられることができるようになった。様々な面で成長できたと思う。
良かったことだらけですが、大きく3つあります。一つ目は英語の必要性実用性そして楽しさを知ることができたことです。自分自身が肌で感じたことでより頑張ろうと思いました。2つ目はかけがえのない仲間たちと出会えたことです。一生大切にしたいと思います。3つ目はビジネスで人の役に立つことができると知ったことです。私の将来の夢は建築という分野で人の役に立つことです。
人前で発表することの楽しさや、発言するのが得意な人を間近で見ることができ、刺激を受けることができました。
世界は自分次第だということを学びました。自発的になったと思います。発表で手を挙げるか躊躇していた自分にさよならができて本当によかったと思います。これからたくさん活動していきます！
リーダー塾以外では聞くことのできないような貴重な講義や大切な塾生のメンバーに出会うことができ、本当に良い経験になりました。同年代の子と今の社会について深く考え、たくさん議論するというのを初めて経験し、忘れられない夏になりました。
今まで知らずともしなかった世界中の国の様子を知ることが出来たことがとても良かった。
自分からチャレンジする力が身についたことです。全国から優秀な高校生が集まる次世代リーダー養成塾にせっかく自分も参加しているのだから、このチャンスを逃さないよう講義のあとには必ず挙手をするように決めました。3人の講師の先生に質問をすることができ、自信につながりました。また、マレーシアの学生と英語で交流するときの係にも自分から立候補することができ、恐れずチャレンジする力が身につきました。
今までは、何かやるべきことがある毎に自分の限界を作り出して、達成出来なければ自分を責めるという事を繰り返してきました。しかし、担任と、学生リーダーのサポートのおかげで考え方は変わりました。限界は誰でもあり、出来ない自分を嫌う必要はない、そんな自分を愛せるのは自分だけなのです。生きていく上で1番大切なことを教えていただいたのでとても良かったです。
自分に自信ができました。今まで何も分からず人を動かしてきてしまっ、逆に申し訳なかったと思うようになりました。勿論、今の私が完全というわけではありませんが、その人に合った指示をすべきだったのだと分かり、前よりも人を動かすのが楽になりました。顕著に現れたのは、部活の部員と自分がやっているプロジェクトメンバーの動きです。リー塾で様々な方面からの学びを得たことで、身の周りの人が変わっていききました。

(4) 塾生の今後の課題

2か月間を通し、多くの塾生が目を見張る成長を遂げたが、以下には塾生が今後さらに強化すべきと思われる課題を挙げたい。

■主体性

今回、約2か月間にわたるオンライン開催ということで、継続的に主体性をもって取り組むことができた塾生と、そうでない塾生の差が顕著であった。

各クラスのまとめ役となる学級委員を決める際には、積極的に立候補があった。また学級委員以外でも、クラスの中で与えられた役割に対して、意欲的にこなしていた塾生も多かった。アジア・ハイスクール・サミットの議論では、各クラスごとに自分達で進められるよう、任意の時間を設けたが、夏休みが終わっ

た後半になると、学校や部活などの両立が難しいためか、積極的に参加する塾生と、そうでない塾生がおり、参加できなかった塾生は、どこか自分事として捉えられていないようであった。

リーダーを志す者として、広い視野をもって今なにをすべきかを考え、能動的に動くフットワークの軽さを身に着けてほしい。また、与えられた役割を全うするだけでなく、更にもう一步を踏み出す勇気を持ってほしい。

■スケジュール管理

塾期間中は講義の10分前には参加するよう促していたが、なかなか時間を守れず、こちらから連絡してやっと参加する塾生がいた。またやむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をするよう伝えていたが、前もって分かっているスケジュールにもかかわらず、当日の朝ギリギリになって欠席の連絡をしてくる塾生もいた。

塾期間中だけではなく、塾前、塾後は締切を設けている提出物があった。塾前の基本情報の提出やテスト配信の日程調整、塾中・塾後は講義レポート、オリジナルネッシーの製作、アンケートの提出を求めた。これらに対し、締切を守れない、事前の連絡もない塾生がいたことは非常に残念である。提出物に関しては、日頃使い慣れないデジタルデバイスによるものであったり、学校生活や部活動、受験勉強の合間に行なうということで、忙しい中での提出となる。しかし、それはみな同じ条件で理由にならない。

今回の自分のスケジュールリングを振り返り、今後に生かして行ってほしい。社会に出た後、自分の置かれている環境、状況を含めてしっかりと予測し、考えながら取り組む必要がある。求められているものをどう自分自身でマネジメントできるかが非常に重要である。もう一度、締切や約束を守ることの大切さを考えて欲しい。

卒塾後の活動

卒塾してから約1ヶ月後、塾生とその保護者、学校の担任の先生を対象に事後アンケートを実施した。塾生本人にはリーダー塾での経験を振り返ってもらい、保護者と担任の先生方には塾生の参加後の様子を第三者の目線から見ていただく。塾生の成長や変化を様々な角度から知ることにより、卒塾生のフォローアップや、より魅力ある塾運営のために役立てることが狙いである。(詳細は54ページ以降を参照)

ここでは、塾生への事後アンケートから「卒塾後の活動」を紹介する。卒塾してすぐに活動している塾生も多く、行動力には目を見張るものがある。卒塾生達は今、全国各地で目の前にある課題をしっかりとらえ、自分の出来ることから挑戦を行なっている。今後も事務局は、卒塾生の活動を出来る限りサポートしていきたい。

【リーダー塾報告会】

直接発表することはできていないが、先生が学級通信に簡単な概要と感想だけ掲載して下さった。友人たちは「楽しかった?」と興味を持ってきているようだったので、誇りに思えた。
全校への報告会をしました。パワーポイントを使って実際の活動や感想を発表しました。自分自身が変わったと実感できて満足感でいっぱいでした。
例年リーダー養成塾に興味のある学生に対して報告会を行っていたが、今年はリーダー養成塾に参加した学生、支えて頂いた教育委員会の方に対して行った。報告会はリーダー塾で活動したことをまとめプレゼンを作り発表したり、学生一人一人がリーダー塾に参加しての感想を発表した。もう一度リーダー塾について振り返ることで自分が何を学んだか、これからどう活かしていくかを再認識できる点で有意義な時間だった。
県の教育委員会で、リーダー塾での主な活動やそこで学んだことを報告した。学んだことを報告することで、自分の成長がよく分かって良かった。
来年参加しようと考えている方に向けてリーダー塾で何を行い、何を学んだか発表をしました。発表だけでなく話し合う時間も設けてあったら、もっと学びの共有ができたと思いました。

<p>参加した生徒 3 人でクラスメイトや担任にどんなことを学んできたかを伝えた。各組のテーマ(私の場合差別問題)やそのテーマに向かってどのようにクラスみんなで取り組んできたか、オンラインディスカッションでどのような試練があったか(リモートでコミュニケーションが取りにくいなど)、思い出などを発表した。クラスの皆が、リーダー塾という世界で活躍する人々や全国の学生と触れ合い学べる場について少しでも興味を持ちディスカッションの楽しさや必要性を感じてくれたらいいと思う。</p>
<p>佐賀県代表 21 人で県庁へ行き、山口知事と加藤先生に報告会を行いました。私以外の 20 人のメンバーも、リーダー塾前に開催した顔合わせの時よりも、より具体性が増し、180 度大きく膨らんだ目標を語っていたので本当に凄いなと思いましたし、自分もそういう風に語る事ができたので良かったです。</p>

【学校活動】

<p>学校にディスカッションという文化がなかったので、友達と放課後にディスカッションをするコミュニティを作り、毎週熱い議論をしています。</p>
<p>生徒会役員に立候補した。</p>
<p>学校で廃部寸前の部活の部長となり、土台創りや立て直しに奔走している→今後は模擬国連などにも挑戦できるような英語部にする！</p>
<p>文化祭に変わる行事の実行委員長として、全校生徒の前で代表挨拶をした。また、体育常任委員長として球技大会の実行委員長をした。コロナ禍で、とても規制が厳しい中、最大限楽しめる企画をした。自分だけが働くのではなく、後輩や同じ体育常任委員のメンバーに協力してもらうことで、素晴らしい球技大会を実現することができた。</p>
<p>学校で高原教室の実行委員を勤めました。そして、自分なりにリー塾で学んだ仕事の進め方を、アドバイスという形で様々な人へと教えるように意識して働きました。今後は文化祭などにも挑戦したいし、企画を考えて新たな提案をしていきたいです！</p>
<p>学校の文化祭の監督として、クラス劇を仕切ることになったこと。まだ不安がたくさんあるけれど、この二ヶ月間の経験を生かして頑張っていきたいと思います。</p>
<p>今後、学校にグリーンカーテンを設置しようと思っています。学校でプレゼンをしました。</p>
<p>生徒会で委員会の機関の再編成に着手した。</p>
<p>生徒会で植林を企画した。</p>
<p>学校での「EU があなたの学校にやってくる！」という行事で、駐日ベルギー大使の方に、海外の人と交流を行った立場から質問をさせていただきました。</p>
<p>学校での総合探求の時間に、自分の興味のある分野について、リー塾体験したことを友人に紹介しながら地域創生に向けて調べ学習を行った。</p>
<p>クラスディスカッションで学習の環境について考えていた。生徒会に入り、学習環境の改善を求めて動き出した。</p>

【ボランティア】

<p>リーダー塾に参加したことでボランティアを行いたいと考えているので、名古屋のマラソン大会を手伝いたいと思っている。</p>
<p>古賀市の国際交流のボランティアをしています。</p>
<p>私の地元である佐賀県唐津市にある虹の松原と言う観光名所の清掃ボランティアにも参加しました。リーダー塾ではこれからの未来へ向けてのことを学んだので、それを成し遂げるための第一歩としてボランティアに参加しました。これからもボランティアや、主体的に行うプロジェクトなどにも目を向けたいです。</p>
<p>クラスのリサイクルプロジェクトのディスカッションに積極的に参加した。今後海外の人々と触れ合うボランティアに参加する予定だ。</p>

私たちのこのリーダー塾での学びを佐賀県に還元するために、佐賀県のリーダー塾メンバーの内の9名で学生ボランティア団体「SAGA でんと」をつくりました。本格的な活動はこれからとなります。献血の呼びかけや、子ども食堂への参加などを計画しています。

【自己研鑽】

学生団体の運営側として活動をさせてもらうことになり、内容は国際協力に対する支援と理解、そして福岡県の中高生に異文化と触れ合う機会を提供する団体です。今は2つの学生団体の運営をしていて、これからも幅広く活動していく予定です。
学生団体を立ち上げました。高校生たちが気軽に町おこし活動に参加してもらうための団体です。
化学の甲子園に参加します。
SDGsの周知を目的とする団体で、他の団体との意見交換をする学生SDGsサミットを企画・実施した。そこで参加していた団体の一つが17期の子が立ち上げた団体で、世間は狭いものである。リー塾を通して、人とコネクションを持つ重要性を学ぶことができたため、その考えを活かし、共通の目標を掲げている人や学生団体との横のつながりも意識しながら今後活動に邁進したい。
英語の能力を向上させるために、英語のスピーチコンテストに出場した。
SDGsの課題研究で地元の高齢者ドライバーについての研究をしている。
オーストラリア、アメリカの高校生と文通を始めました。学校でSDGsについて話し合っていて、グループで緑化プロジェクトを考えました。
『SDGs×せかい部』のプロジェクトに参加。和歌山県高校生英語ディベート大会4位。
台湾の学生と英語でディスカッションするプログラムに参加予定。
SGH 甲子園にでます。テーマ『子供が考える教育』私はリーダー塾をきっかけに多くのアジア、様々な国、地域、学校の教育システムを知り、日本の教育制度を見直したいと思い活動を行なっています。また、私達が主役の教育こそ私たちが考えるべきだと思いSGH 甲子園に向けて教育について探求しています。
京都大学 ELCAS という高校生のプログラムに合格し、京都大学大学院地球環境学堂の教授のもとで、持続可能な暮らしについて研究をしています。宮川先生が「科学技術を学びなさい」とおっしゃられたご講義に感銘を受けたことが、このプログラムに挑戦するきっかけになりました。私は学校では文系として勉強しているのですが、理系のこのコースに応募する勇気もいただきました。

【その他】

「校外プログラム大全」に、17期リーダー塾の体験記事を掲載しました。
地域のNPO 法人主催の、動画配信サービスによる番組を利用し、発表をする予定。
インスタで、リーダー塾で学んだことやSDGsに関すること、または社会問題について取り上げるアカウントを作りました。これは、私たちの世代が得意なSNSを利用し、周りに刺激や意識を持ってもらいたいという意味を込めてはじめました。
和歌山総文自然科学部門実行委員会委員長になった。そしてプレ大会パレードに参加した。
所属している社団法人CUE TOKYOのサイトで報告レポートを載せる予定です。
サステナブルブランド Student Ambassador 交際会議 全国大会 西日本ブロックに参加しました



村岡先生の講義を生かして、「リー塾秋のパンケーキ祭り」と称してリー塾17期の有志でパンケーキを作り、食べる会を実施しました。楽しんでみんなと作る場所から食べるまでシェアできたのがとても楽しいイベントでした。

◀塾生へアンケート送付の際は、講師をしていただいた村岡浩司先生のご協力のもと、塾生全員に『九州パンケーキ』を送った。

7. 塾を支えるスタッフ

リーダー塾では、開塾当初から社会人によるクラス担任制度をとっている。狙いは、高校生に学校の先生ではない企業や地方自治体などで経験を積む社会人を身近な存在として接してもらうためである。例年、クラス担任は、協賛企業などが派遣してくださっている。年齢も職種も多種多様な16名の社会人で構成され、8クラスに分かれて、前半後半のそれぞれ一週間を受け持ってもらっていたが、今年はコロナ禍によるオンライン開催で約2か月という長丁場になることから、派遣が難しい協賛企業が多かった。そこで、過去にクラス担任をしてくださった方々にご協力を仰ぎ、なんとか例年通り16名の方をお願いすることができた。今年のクラス担任を引き受けてくださった皆さまには、改めて深く御礼申し上げたい。クラス担任は、日々の講義や議論の指導だけでなく、塾生のさまざまな相談にも乗っていただいているリーダー塾の要の存在である。

そのクラス担任を支える学生リーダーは、主に卒塾生からなる大学生・大学院生が参加してくれている。高校生である塾生にとって、年齢も近くすぐ先のロールモデルとして身近な存在である。黙々と業務をこなす学生リーダーに、塾生は尊敬と憧れの気持ちを持っていた。学生リーダーは塾を円滑に運営するための重要な縁の下の存在でもある。

今年は前代未聞のオンライン開催ということで、クラス担任・学生リーダーには、特に多くのサポートをいただいた。毎年、現地で行う事前研修も今年はオンラインによるものとなった。学生リーダーは7月18日、クラス担任は8月2日にそれぞれ行った。

ここでは、約2か月間を共にしたクラス担任と学生リーダーについて述べたい。

クラス担任

(1) 概要

クラス担任は、例年1クラスを前半後半の交代制で受け持ってもらっていたが、今年は2か月間という長丁場になるため、2か月間通して2名で1クラスをご担当いただき、参加可能な日を調整しながら参加していただいた。今年参加していただいたクラス担任の方の企業は、下記の通り。

■クラス担任派遣企業（五十音順）

株式会社麻生
学校法人麻生塾
エコー電子工業株式会社
特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
九州電力株式会社
株式会社QTmedia
株式会社gekko's
西部ガス設備工業株式会社
株式会社正興電機製作所
株式会社西部技研
株式会社ドコモCS九州
福岡県
株式会社ふくや
株式会社ミズ
宗像市



クラス担任の先生方には、1クラス21～22名の塾生を担当していただいた。事前研修では、なるべく教えすぎず塾生に考えさせてほしいという指導方針をお伝えしていた。その方針に沿って、これまでに培われた経験をもとにご指導いただくようお願いした。

今年は前代未聞のオンライン開催ということで、コミュニケーションの取り方を学生リーダーと協力し、とても工夫してくださった。ディスカッション時のアイスブレイクのタイミングやその内容、アジア・ハイスクール・サミットの際は画面をオフにして担任の顔をうかがうような余計な負担をかけないこと、また、講義の補足資料を独自で作成し共有してくださったり、メールで講義の感想をやり取りするなど、各クラスそれぞれに独自の方法を用いてオンラインでのコミュニケーションに取り組んでくださった。

塾生にとっては、保護者や学校の先生以外の大人から指導を受ける機会は少ない。常に塾生を見守り、気さくに語りかけフォローしてくれる先生方の姿に尊敬の念をいただいていた。社会人としての経験や知識など先生方の言葉の重みを感じながら、将来のロールモデルとして目標にしたいという塾生も多い。

先生方には、卒塾後にも様々な相談や報告があるようだ。卒塾直後には、必ず同窓会を実現してリアルで会いたいと、メッセージのやり取りをされている。またオンラインで定期的に集まっているクラスもあるようだ。今回のオンライン開催を例年の合宿開催と同じくらい密なものにしてくださった立役者であるクラス担任は、塾にとってなくてはならない大きな存在である。

(2) クラス担任感想

■クラス担任からみた塾生の感想

将来へのイメージがしっかりと固まっていると感じた。
入り込めている学生と、入り込めない学生が分かれた印象でした。積極的に動く学生はオンライン環境でも問題なく対応できる一方で、クラスの雰囲気馴染めない学生はオンラインにも不慣れなことも相まって最後まで入り込めなかったのではないかと。
<ul style="list-style-type: none">・優秀な生徒がやはり多い。・オンラインによる休日開催で期間が長かった為か、コミットしている生徒が少ない。
総論としては、優秀な高校生たちだということは本当によくわかりました。それは、事前のエントリーシートでもわかりましたが、AHSを通して真剣に向き合う塾生が本当に多かったからです。プロフィールを見て超高校生たちと一緒にいるということでしたので、高校生だということを忘れて、大人として相手をすることにしました。前半と後半で印象は随分違います。前半、リー塾がブランドになっていることは間違いない事実ですから、その印が欲しいと思う人が、スタート時は大半ではないかなという印象です。それは、悪いことではありません。ただ、それだけだとメッキが剥がれますので、塾生がそこにいつ気づくのが大事です。そこが、私たち担任学生グループの役割なんだろうなと思って、臨みました。
全体的に意識や基礎能力が高く、何に対しても前向きな対応ができるまさに次世代リーダーとなりうる原石が集まっているように感じた。ただし、ロジカルシンキングや進め方などは未熟であるため手間取っていたが、解決を模索する中で王道的な解決策に行き着くことができていたため、やはり基礎能力の高さが伺えた。
優秀な子が多く自発的で思いやりもあり、将来どのような成長をしていってくれるのか、とても楽しみな塾生ばかりです。最初は一部に、自己管理ができない（SNSの利用時間にルーズ、寝坊）、相手の粗ばかりを探して指摘しがち、自分アピールが過剰 or 皆無、等が見受けられましたが、自分たちでルールの見直しをさせ、指摘ばかりでなく改善案も出すよう促すなど、大人が全てを指摘や指示をしなくても、自ら気がついてくれ、自然とスタイルが出来上がりました。仲は良いけど単なる仲良しグループではなく、お互いの良いところを認め合える仲間関係を構築できたのは、個々の能力の高さゆえの産物だと感じました。

<p>自分が将来携わりたいことややりたいこと、目標、自分に今不足していて必要なスキルや知識は何かを自分自身で理解できている塾生が多かったように思います。オンラインでの実施ということもあり、塾生同士、距離感やコミュニケーションの取り方が最初は難しかったようですが、LINE という現代ならではのツールを使って、いつの間にか今までお互い知っていた友達のように仲良くなっていたので驚きました。zoom 等にも慣れており、IT リテラシーが高いと感じました。最初のイメージでは、真面目で真剣で優秀な塾生ばかりだと思っていましたが、いい意味で、普通の高校生と同じ部分もあり、話し合いの進め方に迷ったり、意見のまとめ方に苦戦したり、今流行っているもので盛り上がったり。楽しむときとまじめに取り組むときの判断を自分たちでして、それを区別できる塾生が多かったように思います。</p>
<p>基本、各校の代表で参加しているのである一定レベルのベースができています。が、そこはまだまだ高校生。自分の周りしか見えていない塾生もいた。その中でも最初の学級委員に立候補する積極的な塾生と、自分からはあまり発言しない控えめな塾生がいると前半で見えた。</p>
<p>例年同様、意識の高い塾生が多く集っていました。一方で、例年とは異なり、一部の塾生は最後まで、どこか冷めた感じで参加しているように感じました。その原因の一つに、日程が空くことがあると思います。今年は、夏休みの日程が合わないということもあり、仕方ありませんが、間が空くと、熱が冷めてしまう生徒が出てくるのも事実でした。</p>
<p>生徒名簿で拝見する限り、積極的で熱い心を持っている高校生が多いと感じました。ただ最初の 3、4 日は、発言する生徒に限られ、想像より積極的な生徒が少ないことに悲しく感じました。日が経つにつれ、オンラインという形になれば、積極的に発言する生徒が増えていたので、とても楽しかったです。オンラインではなく対面でディスカッションが出来れば、もっと早く深い時間を過ごせただろうと思うと、少し残念でした。塾生は全国の高校がどんな教育・取り組みをしているかがとても興味がある様子で、時間があれば自分の学校と他校を比較していました。塾生の視野が広がるいいきっかけになれたと思います。</p>
<p>受け持ったクラスの塾生に関しては、穏やかで相手を思いやり、自己主張を上手にコントロールできる生徒ばかりと感じた。特に、自分の意見を押し通し過ぎない点は、顕著であった。もしかすると、今年はオンライン開催であったため、一度も会ったこともない相手、人となりもわからない相手に強く意見を言うことをためらう塾生が大半であったのではないかとと思う。(但し、リアル開催も同様の傾向にあった。) 8 月下旬からの毎週日曜日開塾となった後、AHS の進展に備え、「○曜日までに○○の意見を出してください」との依頼を行うようにしたが、そこから温度差が出始め、きちんと回答する生徒と回答しない生徒に分かれた。これは毎回の振返りメールも同様であった。</p>
<p>全般的にはイメージ通り、それぞれが非常に素晴らしい思い、「志」を持った学生さんが集まっている印象でした。一部、学校の先生からの推薦内容とは違った印象の学生も見受けられましたが、他の学生さん(レベルの高い)を前に、尻込みしてしまった方もいらっしゃるのではないかと感じました。</p>
<p>発想力豊かで、ヒントを与えるとすぐに返してくれる柔軟さや積極性の多い生徒が多かった印象。オンライン限定の環境下では、全員集合時には発することを遠慮し、個別ルームになると自身の個性を発揮する生徒が多かったように感じました。</p>
<p>長期間の参加にもかかわらず一部の塾生は当初のモチベーションを維持し続け、素晴らしかった。一方で、勉強、部活動との両立ができず、モチベーションを維持できなかった塾生から貢献できなかったことへの後悔の感想があり、様々な形で学びを得ることができる塾生の集まりだと感じた。</p>
<p>推薦枠の塾生に見られる傾向だったかと思いますが、学校から指名され参加したためか、「渋々の」参加が多かった印象が拭えません。後半になり、ようやく気持ちが切り替わり、ヤル気のスイッチが入った塾生が多かったようにも感じます。モチベーションとは異なりますが、プログラム全般において、オンラインとなりましたが、塾生の IT リテラシーの高さには目を見張るものがありました。その一方、リー塾を自分の SNS 等による情報発信の場と位置づけた行動が多かったのは、現代の高校生を象徴しているとも感じました。</p>

■クラス担任の指導方針、オンラインでのクラス運営

塾生自身で考え、自分なりの答えが出せるように気を付けた。AHSの初めにアイスブレイクを設けることで緊張をほぐした。対面とは違い ZOOM だと複数回話し合いがあってもなかなか打ち解けるまでに時間がかかることを実感した。

①学生の主体性を尊重すること、担任は過度な介入をしないこと

精神論ですが、リー塾担任にとって大切なことは学生を信じて任せ切ることだと感じています。社会人の仕事は予定調和の世界であり、問題解決に終始しています。それに慣れきっている私たちから見ると、学生達のディスカッションは不慣れで、遠回りで、もどかしい！担任は介入したい気持ちを抑えることに苦労しますが、どうか見守ってあげて欲しいと切に願います。塾期間中で学生達は、大きく成長しやり遂げてくれます。担任に求められるスピリットは、彼らを信じ切ること、方法を指南するのではなく、主体性を尊重し、チャレンジする場を創ることです。

②担任同士、学生リーダーとの関係性向上

ダブル担任で進めることでお互いの方針のすり合わせを入念にやること。学生リーダーのモチベーションが反作用することもあり、学生リーダーの心情を理解し思い切って活躍する場を整えることもまた担任の仕事。

1. 長いスケジュールで、塾生のみんなが参加できるようにしたい
 2. 役職と役割は違うことを理解し、自分ができること自ら見つけて行動して欲しい
 3. 私が、遠隔で担任として伝えたいこと塾生が拾って、参考にして欲しい
- とにかく、雑談をするように心がけました。

塾生個人へより多くの役職を準備し、また、ファシリテーターを輪番制にすることで、集団に埋もれることを回避するなどを実施した。

塾生の主体性を最重視するため、担任の我々が前面に出ない様にしながらも、学生さんに主体的に動いてもらうためにはどうしたら良いか、この点は結構悩みました。(特に AHS は、どの時点で、どのレベルまで介入するか、難しい選択が結構ありました)

最初からお互いを(担任含めて)ニックネームで呼び合う事で、親近感の醸成を試みました。この点は非常に良かったと思います。運営面については、両担任+学生リーダーさんと連携を図り、学生が主体的に動けるよう、適宜メールや ZOOM 等を使用して、学級委員を中心に働きかけをしました。結果、全体での任意のクラスミーティングも増えて、良かったと思います。両担任と学生リーダーさんとの密な連携が、クラス運営を円滑に行う上での肝だと感じています。アイスブレイクといった面では、学生さんの「笑を取る」ために、半分は素、半分は狙って、ZOOM 越しに学生さんの表情を見ながら、タイミングを計りながら実行してました！

基本的には自分たちで何が良くて何が悪いのかを考え、行動してもらうようにしておりました。学級委員の2人が、毎回うまく、とはいきませんが、ファシリテートして話し合いを進めたり、意見をまとめたりしていたので、担任と学生リーダーは、最初のアイスブレイクや挨拶と、ディスカッションの最後に今後の話し合いに向けたアドバイスや tips を伝える、というようにしていました。また、その日の講義で感じたことや学んだことを共有する機会を設けたり、アイスブレイクとして雑談を入れてみたり、話し合いに行き詰ったときに考え方の整理方法やアイデアの出し方を伝える工夫などはしていました。

①GOOD ポイントをほめる。個別でも良い点をメールした。サークルスクエアのメールが残らない、履歴が追えない点を改善してほしい。

②常にフラットにみる。男女、学年など関係なく一人一人の塾生と接した。

③私の考え・意見を最初から言わない、求められれば参考程度に言う。基本は塾生たちが自分たちで形を作れると信じ、サポートした。ただし、リーダーとして私が教えられることは個別にサークルスクエアで発信した。

ディスカッションの手法を体得すべく、「携帯電話を持たせるなら、小学生、中学生、高校生、適切なのは？」という題を出した。多数決や単に足し合わせるのではない事を理解してくれた。また、生徒の発案で、AHS前に集まったものだけで、人狼ゲームのようなものをやり、互いに笑う事で打ち解けたように感じた。AHS期限が迫る中で議論が縮小した為、クラス全生徒に「こんなまとめ方では残念」という辛辣なメールで奮起を促した。提出された講義レポートには、期待を込めたメッセージをつけて返信した。徐々に担任として信頼してくれていた為か、前出の辛辣なメールに呼応した生徒が5名程度いた事に救われた。オンラインのいいところもあるが、リー塾と習い事/部活を同列に扱っている生徒が散見され、大変残念に思った。

今年はオンライン開催で、塾生を画面上で2次元で見ることしかなく、どのような性格なのか等把握しづらかった。また、リアルであれば空き時間等に個別に呼んでの話ができるが、オンラインでは定められた時間に全員での会話しかできないため、1人1人への個別指導はメールに頼らざるを得なかった。ここで、個人メールやLINE、携帯電話等での連絡は、保護者の心配等各種リスクを避けるため行わなかった。上記より、はっきりとした指摘等を塾生に行うことは避けた。

初対面の大人に対する遠慮、躊躇を無くすため、フランクな内容のPPTにて自己紹介をした。その後、みんなでニックネームにて呼び合うことを提案し、実施した。また、毎日担任・学生リーダーへ振返りメールを作成・送信することを提案し、それによってコミュニケーションを図った。ニックネームは完全に浸透した。振返りメールは、特に後半になるにつれ作成する塾生の数が減っていき、「夏休み明け、学校が始まった後の、リーダー塾への熱量の保持」の難しさを感じた。

教えすぎないことです。自分で気づき、腹落ちした状態で動いてほしかったため、基本塾生に進行も全て任せていました。そして、日々の報告メールでの返信を1人1人にアドバイスを送りました。メールの返信は、今後楽しく取り組んでもらうために、必ず1つは褒めることを徹底していました。小さなことでも褒めて、今後も継続して頂きたかったからです。ディスカッションがうまくいかず、肯定意見しか出なかった際は、違うお題「きのこの山とタケノコ里」どちらが好きかという簡単なお題で、ディスカッションの練習をしました。自分の意見を主張するだけでなく、相手意見との差を見つけ、それについて話す。時には、対立しても構わないということを練習させました。その後は、ディスカッションとしては形になっていました。

リー塾に応募している生徒の多くは、非常に純粋であるがゆえに、講師の先生の意見を無条件に受け入れてしまうことが多いため、なるべく、自分で考えるくせをつけるように指導しました。ただ、基本的にZOOMで塾生と話せる時間は、AHSに限られており、個別に指導するには限界があるため、別途、担任が自由にハンドリングできるHRの時間を少しでも設定してもらえるとやりようがあると思います。(もちろん、AHS内でもできないことはありませんが、塾生達は、基本的に、発表が間に合うのかという不安がつきまとっているため、その時間を潰してやっても、残念ながら、塾生の子心にあまり響きません)

全ての塾生が、なるべく早く周りに馴染み、意見が言えるようになるよう、AHS時での声掛けや少数意見を大事にするカードゲーム「クロスロード」の実施、担任、学生リーダーとのメールのやり取り等を実施しました。特に、今年は、塾生との個別の交流がメール頼みとなったため、大人しく、自分をさらけ出すことが苦手な塾生との交流はかなり厳しいなあと感じました。

オンラインのリーダー塾となり、ワイワイガヤガヤとしたブレストは難しく、特定の一人が発言する状態になり勝ちだったので、全員がミュートを解除し、できるだけ、それぞれの声を拾うことを心掛けた。また、そのような状況下、クラス担任の発言は、できるだけ、最初と最後ぐらいにとどめるようにしました。

クラス担任による情報共有の場と時間が限られていたので、初めてのクラス担任の先生の方々も対応に苦慮されただろうと想像します。塾期間中において、クラス担任での共有の機会が、もう少しあると、クラス運営は一層充実するようになります。

<p>オンラインでしか経験が無いので比較が出来ませんが、これはこれで、良い面もあったと思います。気になったことを即座にネットで調べたり、情報を共有したり、学生リーダーの卒塾期のニュース動画や、参考としたCMを検索して観たり出来たのが、とても生かされたからです。</p> <p>悪かった面は、リアルで会ってないので、塾生の心の揺らぎみたいな部分に接することが出来なかったことです。</p>
<p>周りへの配慮や互いを尊重することを重点的に起きました。また議論することの大切さを感じてもらいました。例えば、答えが導き出せない時の緊張感や劣等感等を感じてもらい自らの気づきを意識してもらうようにしました。担任や学生リーダーからも答えや指示は基本的には行わない。学生から問いかけられると逆に問いかけ返し、思考して先を見据え、チームとしてどのように行動するか個人としてどんなことがクラスにできるかを常に意識させました。</p> <p>クラス討議は学級委員が自主的に運営していた。そのため、時折 AHS 前に学級委員と担任、クラスリーダーでのミーティングを行い、進行の確認をしていた。オンラインでの開催の特性から次回までの課題を出すことでモチベーションを下げない取り組みをすればよかったと感じた。</p>

■塾生のクラス担任についての感想

<p>塾生と同じ目線に立って一緒に議論に参加して頂けたことで、親近感を持つことが出来ただけでなく、クラスの一人として一緒にひとつのものを創り上げる感覚を覚え、とても気持ちが良かった。</p>
<p>答えは出さないけれど、クラス全体を答えに導かせてくれた。発表などが終わったときにチャットでメッセージを送ってくれて、心の支えになった。ホークスの試合がある日にユニフォームを着ていたことが印象に残っている。</p>
<p>リーダー塾の先生方は、塾生の自主的な議論を行うため、いつも見守ってくださっていました。発表会前日にリハーサルをした時には、たくさんのアイデアをくださり、自信を持って発表に臨むことができました。</p>
<p>学校の先生と大きく違ったことは話しかけやすさです。リーダー塾の担任の先生方はほんとに気さくに話してくれてすごく楽しく過ごせました！！よかった点は、色んなアドバイスをくれたことです。学生だけでなく先生からも刺激をもらえたことは自分にとってもプラスの思考になりました。最高の担任でした！！終わったあとも講演に誘ってもらったりとすごく充実させてもらってます！メールとかも送ってもらってすごくやる気を出させてくれました！！</p>
<p>担任の先生には、社会常識から議論の進め方など本当にいろいろなことを教えていただきました。自分がここまで成長できたのは担任の先生のおかげです。自分の夢を応援してくれる大人と出会えたことが自分の中でとても大きかったです。</p>
<p>幅広い経験と専門的な知識をお持ちのクラス担任の先生からのお話はとても勉強になりました。社会人として長い年月をかけて習得されたプレゼンやディスカッションなどでの戦術のようなものを伝授してくださいました。これは、普段学校の先生からは教えてもらうことができないもので、素晴らしい経験になりました。</p>
<p>私がクラスの話し合いでみんなの話を聞く側に回ってしまったときに「自分の得意なことが絶対あるはず、自分の得意な分野でいいから意見をだすことでディスカッションに貢献できると思うよ」とメールを頂いた。みんなの勢いに押されてしまって自分はどんな意見出せるか迷っていたので得意なことでもいいのかと楽に考えられるようになった。本当に嬉しかった。</p>
<p>考えを押し付けてくることがなかった。何事も「なるほど、そうか！」と寄り添って頂いた。そのおかげで自分の意見、皆の意見の飛躍があった。自主性を尊重していただいた。知識がたっぷりで、見えない方向、例えば大人が生きる社会で実際に起こっていることなどを同じ目線に立って教えて頂いた。</p>

<p>塾生の意見や案を一切否定や却下することなく、常にサポートしてくれ、さらにその案をどう進化するべきかアドバイスをくれました。一方、学校だと生徒の案は通りにくく、否定されることが多いです。なので、私はディスカッション中発言がしやすく感じました。一番印象的だったエピソードは、中間発表や最終発表の前日に毎回先生方が勇気付けられる言葉を私たちにかけてくれることです。その言葉のおかげで、私たちは自信を持って、次の日を迎えることができたと思います。</p>
<p>僕らのクラス担任はまず場を盛り上げて、関係を深めることに協力してくれました。生徒一人一人にメールを通して、語りかけてきてくれて、僕はある日の活躍を褒めてくれたことが今でも嬉しいです。学校の先生はここまでのことはしてくれず、疲れたことを言う「もっと頑張れ。」と言いかえされますが、クラス担任だと、「大変だったね」と共感してくれたりしました。</p>
<p>リーダー塾があった日に、毎回メールでやり取りしました。学校の先生だと、リーダーシップについて深く話す機会はあまりないけれど、クラス担任だからこそ深く語り合えたと感じています。また、今も良いリーダーになるために親身にサポートしてくれています。</p>
<p>生徒主体(信頼してくれている)だったことがよかった。学校の先生は限られた制限の中でのコントロールのため、どうしても生徒主体のクラス作りはできてないと感じる。リー塾の先生は生徒主体の上で裏からフォローしてくれたためとても助かった。</p>
<p>綺麗事が少なく、社会の実態をリアルに教えてくれた。問題の核心とは何か、ということを感じさせてくれることが多かった。</p>
<p>クラス担任の先生は、ディスカッションで話し合いが上手く進まなかったり、止まったりすると、必ず、次の議論のキッカケになるアドバイスをくれる。「ちょっと話してもいいですか？」のその一言にみんなが安心したことを覚えている。</p>

(3) 課題

今年はオンライン開催となり、クラス担任の皆様には多くのご苦勞をおかけした。アンケートにもあったように、例年の合宿形式とは異なり、クラスをまたいで塾生同士が雑談する時間や、クラス担任・学生リーダー・事務局の間でもコミュニケーションを図るための時間を十分に設けられなかった。今年はクラス担任経験者の方に多く参加いただいたため、クラスを纏めていただくことについてはたいへん心強かったが、オンラインのみでのコミュニケーションは皆初めてのことであり、特に初めてクラス担任をされた方にとっては不安が大きく、また2か月間という長期間にわたるため、塾生のモチベーションの維持に苦慮された場面が多かったと思われる。

次年度以降どのような形式になるか不透明な部分はあるが、事務局の反省点として、オンラインでのコミュニケーションの取り方については、更に時間をかけ工夫していきたい。

また今年は塾期間が長期にわたり、それぞれご自宅などからの参加ということもあり、さまざま調整を要したと思われるが、たいへん協力的に参加して下さったことについて、深く御礼申し上げたい。



▶ 卒塾前夜祭で、塾生のためにサプライズ動画を作成して下さったクラス担任の方々

学生リーダー

(1) 概要

学生リーダーは卒塾生を中心とした大学生ボランティアで、塾運営の一翼を担っている。クラス担任と塾生の橋渡し役となりクラス運営をサポートするほか、事務局の仕事や、運営側としてアジア・ハイスクール・サミットに携わる。今年は全国から13名の大学生・大学院生が集まった。例年のような「クラス担当」「全体統括」などの役割分担を設けず、各クラスに2名の学生リーダーを配置し、上級学年および学生リーダー経験者には、2クラスを担当してもらった。また、関東在住の1名の学生リーダーには事務局サポートとして東京の事務所で業務を行ってもらった。卒塾生が8名、非卒塾生が5名であった。

学生リーダーの募集は、全卒塾生を対象に送付したニュースレターに加え、卒塾生交流SNSでも行った。また、大学生のボランティア募集を行なう一般サイトでも募集した。学生リーダーは大学2年生以上の大学生および大学院生を対象としている。例年、塾期間が大学の試験期間に重なること、就職活動や卒業論文のスケジュールと被る、学生リーダーの募集期間に夏の予定が把握できないことなどの理由から、決定までには苦慮することが多かったが、今年は塾開始時期が例年よりも遅かったこともあり、結果として学生リーダーの募集期間も長く設定することができた。またオリンピックの延期も重なった為か、募集締め切り間際に例年を上回る応募があった。学生リーダーの選考は書類と電話での面接を行った。

■学生リーダーの所属校（五十音順）

学校	学年	卒塾期
愛知大学	4年	12期
青山学院大学	4年	11期
関西外国語大学	3年	—
九州大学	2年	13期
慶應義塾大学	3年	13期
慶應義塾大学	3年	—
慶應義塾大学	2年	—
慶應義塾大学	2年	—
成均館大学大学院	修士1年	8期
聖心女子大学	2年	13期
西南学院大学	2年	15期
獨協大学	4年	—
法政大学	2年	14期



(2) 役割と今後の課題

学生リーダーに求められる姿勢としては、次の4点を重視している。

- ① 塾生を指導する立場として、塾生の模範となるような行動ができること
- ② スタッフ間のチームワークを大事にし、高め合える人材であること
- ③ 塾の内容や方針は毎年進化するので、過去にとらわれない思考をもつこと
- ④ 主催者の一員という自覚をもち、主体的に責任を持って行動すること

今年は卒塾生の誰も経験したことのないオンライン開催ということで、学生リーダーはみな手探りながら、自ら率先して動き、塾運営における中核を担ってくれた。クラス担任と塾生の架け橋として活躍し、塾生から相談を受けた際は、まず自ら考えさせるなどの対応をとっていた。塾生とのコミュニケーションが難しい場面もあったが、しっかりと気持ちを切り替え、塾生にとって何が大切かを考え行動していた。

相手に敬意と思いやりを持って接する姿は、年齢が近い塾生にとって、身近なロールモデルになったようだ。塾生がアジア・ハイスクール・サミットやクラスの中でまとまってきたのは、クラス担任のみならず、学生リーダーの行動による要素も非常に強い。塾運営においてなくてはならない存在であった。塾生へのアンケートの中でも学生リーダーに対する感謝の言葉がたくさん述べられていた。

塾生同様に学生リーダーにとっても学校が休校となるなど、さまざまな不安や苦労が多かった時期だが、これから社会人となるときに、他者を認め、相手のためになにができるかを考え行動する姿勢を忘れずにいてほしい。多様性を重んじ、「困っている人には手を差し伸べる」という当たり前のことを当たり前にできるリーダーとして、社会に貢献してほしい。そしてこれからもさまざまな形で塾にかかわってほしいと思う。

(3) 学生リーダー感想

■学生リーダーの感想

オンラインという環境でも、途中でリタイアする人なく、適切な緊張感を保ちつつ AHS を進めていったことに感心しました。一方で、日本を変えたい！といった強烈な意志は塾生から感じませんでした。社会に対して何かしらの強い問題意識をもっているのかが、伝わってきませんでした。

これまでとは違うという意味で、彼らは物足りなさを感じていたと思います。でも、コロナという特殊な時期、そして今後さらなる技術発展が予想される時代性を踏まえて、オンラインという形のなかで至って前向きに、最大限の努力をしていたのではないかと、私は見えています。クラスを越えた繋がりが、オフラインと比べるとやはり軽薄な気がしました。クラスをまたいだグループ交流の場を、オンラインでは無理やり作るべきだったと思いました。

クラス全員を”学生リーダー”という特殊な立場から見て、AHS では議論の進行を裏で先生や学生リーダーで相談しながら見守っていた時間は、どの瞬間も頭をフル回転していました。その中で楽しいことや面白いことがたくさんあり、それを共有できる同じ立場の(同じクラスの)学生リーダーがいたため、辛くなることはありませんでした。担任の先生がお二人ともとても素敵な方で、塾生のことを常に考えていらっしやっただけで、担任と学生リーダーでのミーティングも意見交換が容易にできました。担任と学生リーダーで運営を考え、塾生が協力してできたクラスと、クラスの塾生が協力して考えた最終発表、2つのグループワークが同時に進行していたことに、今更気づきました。学生リーダーは運営の”お手伝い”かもしれませんが、僕にとっては塾生にも負けないくらいの”学びまくり”の期間でした。

仲も良く新たな出会いという繋がりはたくさんでき、皆んなの嬉しそうな顔を見ることがとても楽しみでした。一方、オンラインだからこそ、熱量や意欲に大きく差が出ていたように感じます。話す子、全く話さない子など別れていました。ですが小さいグループに分けると話す子がたくさんいたのでオンラインが継続されるのであればクラス単位を小さくし、他クラスとの交流の機会をこちらから作るなどあっても良いかと思いました。高校生と交わり、夢を持つことやキラキラした眼差しを思い出させられました。何かになりたいと思っていたはずなのに、いつの日にか夢を持つことや希望を語ることですら恥ずかしいことと自分の中で変換されていたことに気づかされました。私は一体将来何をしたいんだろうと人生を俯瞰するととても素敵な機会になりました。

向上心のある純粋な高校生と関わらせていただけたことで、人を教育することの難しさを身をもって実感し、自分を成長させることができました。やる気に満ち溢れた彼らの姿を見て、リーダー塾に参加した時に自分が思い描いた姿など、大学生になって忘れていた生きる上で大切なことを思い出すことができました。学校で学んでいる高校生から、リーダーになるために主体的に学び、たった2か月間で大きく成長する姿を見れたことが何よりも嬉しかったです。今年はオンライン開催でしたが、講義や AHS の感想を書いたメールを担当の先生と学生リーダーに送ってもらおうようお願いしていました。塾生がどんなことを考えているのかを知ることができ、1人1人と向き合うことができました。

オンラインであるが故に塾生の意識に差が生じ、塾生から相談に受けていたため、皆の意識の向上や、差が生まれない周りの環境も大切であると思った。良かった点としては、ネット環境が整っているため AHS に必要な情報をうまく活用しており、その点はオンラインだからこそできたことではないかと考える。

よかった点

- ・オンラインでの開催でも積極的に打ち解けようとしてくれた。
- ・リーダーシップを持ちディスカッションをリードしてくれた。

改善してほしい点

・こちらからアクションを起こさない限り何をしたいということが無かったので、自発的に動く力をつけて欲しい。

長期での活動だったのでなかなか意識を保つことが難しかったと思うが、最終的にはうまくまとまって良かったと思う。

良かったこと：コロナ禍での開催は「環境に左右されることなく挑戦する」リーダーシップを考えさせられる機会になったと思います。

今後改善して成長してほしいこと：これまでの活動で自分のリーダーシップを確立していた塾生も見受けられましたが、オンライン上でのリーダーシップはまた違ってきます。より努力が必要ですし、フォロワーシップも高いレベルを求められます。そのことに早く気づけた塾生は大きく成長しましたが、あまり気づかずに終わってしまった子もいた様に感じます。

大学に入学してから、自分の好きな事・やりたい事に対してブレーキがかかっていたことに、塾生の姿を通して見えてきたのが今回得たものの中で一番大きかったです。また、塾生の皆はクラスメイトにとっても会いたがっていたので、最後の合宿もオンラインになってしまい悲しんだと思いますが、最後まで一生懸命取り組んでくれて、友達を超える関係性で終わられたのがとても嬉しく思いました。

オンライン開催という特殊な中、雑談ブレイクアウト等を通して他クラスの塾生とも積極的に交流を図ろうとしていた点が非常に良かったと感じています。中心的に話を進めていたメンバーが、なかなか発言出来なかった塾生にも意見を求めてしっかり吸い上げているところが良かったと思います。学生リーダーとして基本的には議論への参加は消極的にすると言うスタンスでしたが、必要に応じて何かを教えるというのとは比較的積極的に行ってあげると議論活性に役立つと感じました。

リモートでも試行錯誤をし、他国の学生や全国の高校生で一つに繋がることができました。慣れない状況でも後半になるにつれ質問や発言をする子が増えたように感じました。私の今の生活では出会えない方々と出会い、高校生や学生リーダー担任の先生方からたくさんの刺激をもらいました。日本のトップの方のお話を私も聞くことができ、どこにアンテナを張りなにを考えているのか知ることができ私の考え方も変わりました。

それぞれが自分の夢をしっかりと持ち、常に向上心を持ってリーダー塾に参加していたのが本当に素晴らしかった。改善できるかもしれない点としては、少数の考えを押し付けることにならないよう、常に周り全体を見ることに意識的になるべきかもしれない。難しいテーマの中で試行錯誤し支え合うクラスメイトたちを見ていく中で、彼らの成長を見守り支えられることを本当に誇りに思った。それぞれが今の自分から変わりたい、殻を破りたい、精一杯学びを得たいという意思を持って貪欲に参加していて、妥協したり諦めることがなかった。それぞれ個性がある中でも、互いを認め合い尊重していた。未来に向かい努力する彼らから、自分自身が大きな勇気もらったと感じる。また、議論にあまり参加しないクラスメイトもいて、卒塾式後それを後悔しているような声もあった。彼らにもっと積極的に働きかけ、背中を押してあげられなかったことが大きな反省点である。

■学生リーダーに対する塾生の感想

放任主義と言って全部私たちに任せてくれた。しかし大事な時や、話し合いが上手くいかなかった時などは、私たちをまとめてくれた。話やすく大学についても教えてくれて、素晴らしい学生リーダーだと心から思う。

学生リーダーの方々は担任の方々と同じように私たちフォローしてくれる存在であると思った。実際に私たちのグループでは話が何度も迷走していたところで学生リーダーと担任の方々が何度も道を示してくれたからだ。学生リーダーがいなければここまでいいプレゼンを作り上げられなかったと思う。学生リーダーの方々には感謝しても仕切れないくらい感謝してます！！

私達のディスカッションを見守り、必要に応じて ZOOM のディスカッションルームの管理や追加のハイスクールサミットの運営管理、生徒たちのアイスブレイクなど私達生徒がより白熱し充実したディスカッションができるような環境を整えてくださったと感じる。優しくクラスのディスカッションや生徒同士の交流を見守ってくださったと同時にディスカッション結果にも意見をくださって、サミットでのモチベーション向上にも繋がった。

同じ目線で寄り添い考えてくれたし、時には先輩、リーダーとして厳しく暖かく接してくれた。私たちのクラスにはなくてはならない存在です。私たちの事で泣いてくれたことが1番印象に残っています。

生徒と先生を繋いでくれる役！本当に話しくて頼りになる存在でした。常に私たちの立場になって考えてくれていて、だめな時はしっかりと怒ってくれる真の優しさが感じられました。

放任主義と言って全部私たちに任せてくれた。しかし大事な時や、話し合いが上手くいかなかった時などは、私たちをまとめてくれた。話やすく大学についても教えてくれて、素晴らしい学生リーダーだと心から思う。

要所要所で重要となるような問いを僕たちに与えてくれる役割と、気づかないうちに様々なサポートをしつつも、それを表に出さない縁の下の力もちみたいな役割だと思います！学生リーダーも僕らと同じでまだわからないことだらけのチャレンジャーでありながら、僕らが不安にならないように堂々と立ち続ける姿勢が一番尊敬できました。最高でした！

私たちのサポートをしっかりして下さったし、先輩として優しくして下さいました。学生リーダーと話すのはとても楽しかったです。

オンラインでの開催でグループでの話し合いで最初、自分をどうだしていいのか、仲間と距離を感じたが、その空気を声かけやユーモアでみんなをやわらかい気持ちに持ってってもらえた。意見が言いやすくなり、笑顔になれた。その日の感想を送ると、丁寧にそれに対して返信を送ってもらえ、とてもありがたかった。

年が近いのもあって、楽しむ時は一緒に楽しんでくださった。アドバイスは、厳しくかつ的確にして下さって議論を進めるヒントとなった。

話し合いの時は私たちの話し合いを見守ってくださり、元リーダー塾生としてのアドバイスをくださったことが一番印象に残っています。また、自由時間の交流の時には一緒に人狼ゲームなどにもして下さりとても楽しい時間を過ごすことができました。

学生リーダーは、リーダー塾にはなくてはならない役割だと思います。リーダー塾の先輩として、沢山のことを教えてくれました。私にとっての理想の大学生です。

担任よりも距離が近くて、生徒よりも統括力がある、不可欠な存在だったと思う。みんな優しく、面白くて、大好きになれた。質問などをすると、親切に答えてくれた。

私たちのために何ができるかを常に考え、行動して下さいました。高校生をまとめるというのは簡単ではないのに、影での努力を怠らずたくさん努力してる姿がわたしからみてもわかりました。学生リーダーの存在はすごく大きくて、ほんとに素晴らしくてカッコ良かったです。

8. カリキュラム

(1) コロナ禍の中で高校生にこそ聞かせたい講師の講義

リーダー塾では、日本や世界を代表する一流の講師による講義が大きな魅力で、高校生だけでなく、大人にも聞かせたいとの声も高い。日ごろ拝聴できない講師の方々には、今年、コロナ禍の中でのオンライン開催となったことから、専門分野の話だけでなく、想定外の危機にどう次世代のリーダーとして生きていくのか、その教示をしていただいた。

今年に入って、得体の知れない新型コロナウイルス感染症の感染が爆発的に拡大するかもしれないという懸念が頭をよぎった時、NHKのEテレで「緊急対談パンデミックが変える世界～歴史から何を学ぶか」という対談で山本太郎・長崎大学熱帯医学研究所教授が、ウイルスを敵とみなさず共生することが必要であり、歴史から俯瞰することの重要性を話しておられた。是非、リーダー塾で話していただきたいとお願いして実現した。講義では「世界の多くの指導者はコロナ禍を戦争にたとえたが、果たしてそうか。ウイルスへの「勝利」はなく、人は生物との多様性の中で生きていて、「共生」していく必要がある」と塾生に語りかけていただいた。



▲山本太郎先生・講義の様子

一方、どんなに正しいことをしていても、無実の罪で、昨日の自分とは全く景色の違う世界に引きずり込まれてしまった経験をされた村木厚子さんに講義をしていただいた。2009年に遭遇した郵便不正事件の冤罪で164日間も拘置所で過ごしたが、村木さんは、まわりを信じ、けっして諦めることなく、その経験の中から学び、厚労省の事務次官を退官した後、拘置所で出会った若い女性たちに思いを馳せて、彼女たちを支援するNPO活動に力を注いでいる。コロナのような終わりなき状況下でも、いかに好奇心を持って、リーダーとして、その環境下でできる最大限の新しい改革とは何か、また、どんなに追い詰められてもポジティブ思考を忘れてはいけないかを教えていただいた。壮絶な話であるにもかかわらず、明るく凛として語ってくださった姿が印象的だった。



▲村木厚子先生・講義の様子

諦めないことの大切さということでは、歴史学者の笠谷和比古先生の8代將軍徳川吉宗のエピソードは興味深く引き込まれた。吉宗が將軍の時代、疫病が流行し、安価で良質な薬を国産化するため高価な高麗人參の国内栽培に挑戦。吉宗は国家プロジェクトとして民間の知識を集結させ、苦節25年、国産栽培種の生産に成功した。笠谷先生は「人の話をつぶさに聞く大きな耳。けっして諦めない真一文字の口」と吉宗の肖像画をオンラインでアップにして解説してくださった。

コロナ禍の中で、ビジネス界のリーダーとして滝久雄・株式会社ぐるなび会長に講義をしていただいたが、「リーダー憲法」の提案は塾生たちの心に響いた。①先生やまわりを引っ張り込んで「もっともはやく、もっともよく」の徹底②人間を好きになり、人間社会も好きになる③世界各国の歴史に基づく価値観や文化を尊重して「お互いの文化を尊重する」－この3つを心がけてほしいとの「リーダー憲法」は早速、塾生たちは学校生活で取り入れているとの報告を受けた。

医師として、世界の子供たちの救済活動をしていらっしゃる鎌田實先生は、コロナで価値観の大転換が起きて、「モノを大事にする時代から心や文化を大切にする時代になる」と断言した上で、「1%でも誰かのために生きることが自分を幸せにしてくれる」と弱い者たちへどう手を差し伸べるかについて話していただいた。

(2) アジアの高校生とのディスカッションでショック療法

オンラインだからこそ、できる教育があるのではないか。そう考えて、オンライン最後の9月の4連休は、同世代のアジア各国の高校生たちとリーダー塾生とのディスカッションを行った。

まず、9月20日午前、マハティール氏が提唱して昨年誕生した「マレーシア次世代リーダー養成塾」(MFLS)の卒塾生とのディスカッションを行った。MFLSは、国家プロジェクトとして始まり、マレーシア青年スポーツ省が管轄し、1年かけて、マレーシア国内の高校2000校30万人の高校生から35000人が1次選考で決まり、マレー人、中国人、インド人が一緒に150人ずつ9泊10日の合宿生活を州ごとに行い、昨年、11月には、最も優秀な高校生リーダー200人が選ばれた。今年4月には、その代表が日本研修に臨むところだったが、新型コロナウイルスの拡大で中止となってしまう、今回、80人の代表がリーダー塾生とオンラインでディスカッションをすることとなった。

ディスカッションは、アジア・ハイスクール・サミットと同じテーマである「ウィズ・コロナからポスト・コロナへ高校生が社会をどう変革をするのか」というテーマで、①教育②SNSなどコミュニケーション③経済④ビジネス(観光など)の分野別にクラスに分けてディスカッションをした。

MFLSの参加者は、全く日本語ができないため、ディスカッションは英語で行われたが、各クラスで英語ができる塾生や学生リーダーが手助けした。英語で議論したくてもできないもどかしさに悔しい思いをする塾生が続発した。

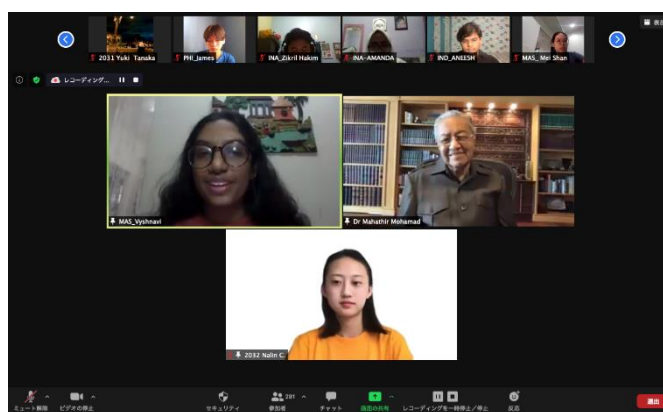
同日午後には、今年4月に日本政府奨学生として1年間日本全国のホストファミリーや学校の寮で暮らしながら日本の高校に留学する予定だったが、コロナ禍で来日が延期になった17ヵ国178人の「アジア高校生架け橋プロジェクト」の高校生のうち、希望者100人余りとオンラインでディスカッションを行った。午前と違ったのは、アジアの留学生たちは片言ながら日本語ができることだった。コロナ禍で高校生活をどう送っているのか、また、何を次世代としてやらないといけないのかを2~3ヵ国の高校生たちがクラスに入り、ディスカッションを行った。リーダー塾生たちは、母国語はもちろん、英語も日本語もできるアジア各国の高校生たちに刺激され、英語ができないと、世界を舞台に活躍はできないという厳しい現実を知ることとなった。(詳細は43ページ)

翌日9月21日には、「アジア架け橋生」も加わり、リーダー塾クライマックスであるマハティール前首相の講義を受けた。マハティール先生は、クアラルンプールの執務室からオンラインで「私たちにとって、唯一宇宙の中で住み続けることができる「地球」に責任を持ってほしい。次世代には、自国のことだけを考えず、武器を捨てて、紛争をなくしていくことに加担してほしい。私たちは地球という惑星の中に生きていて、協力し合う運命共同体だ。自国に対する愛国心を持つことと同じく、「愛地球心」を持ってほしい」と次世代を担う高校生たちに訴えかけてくださった。

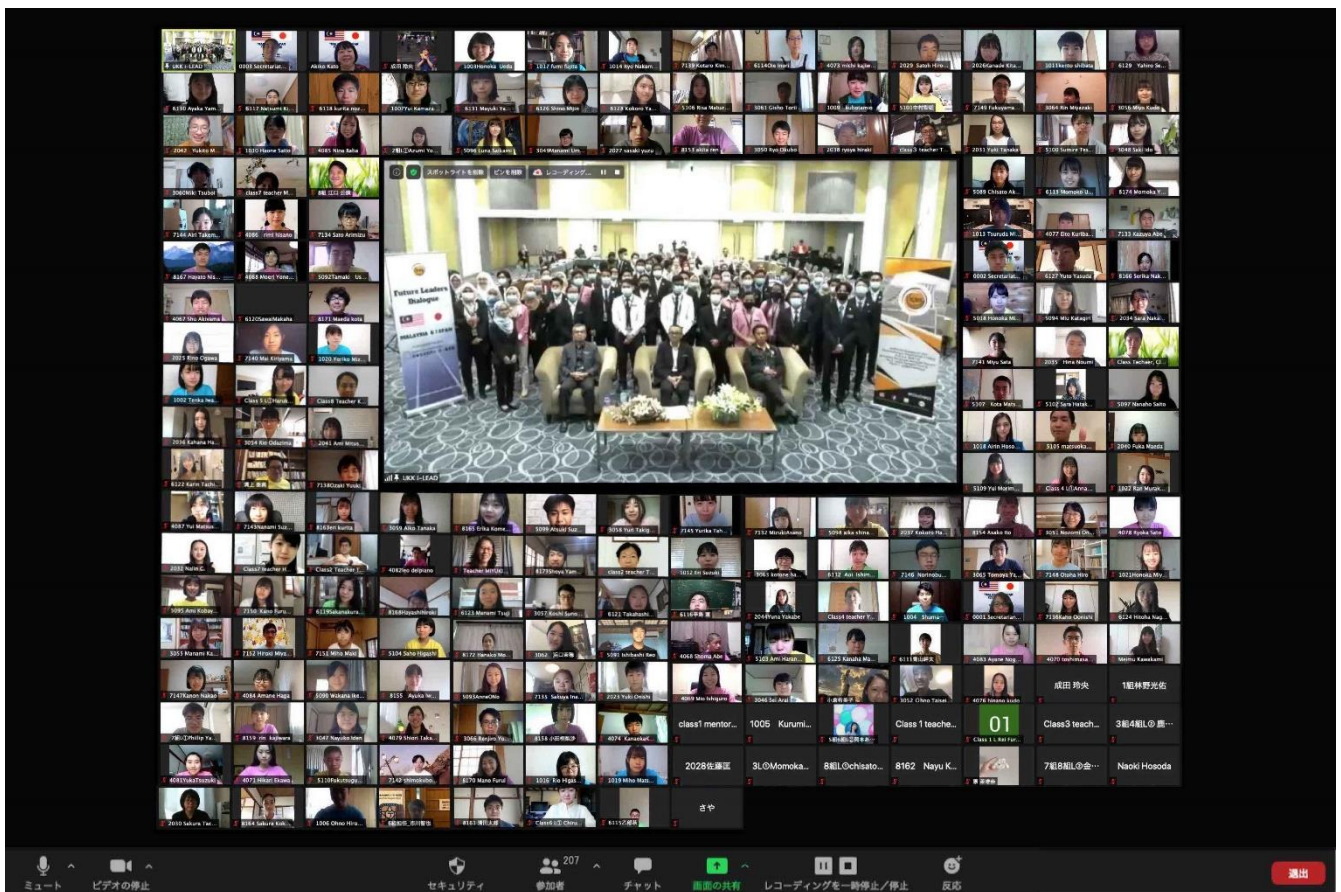
日本の塾生たちは、日本人として初めての国連職員であり、事務次長になられた明石康先生から英語で講義を受け「英語で学ぶ上で、流暢な英語を話す必要はなく、話す中身をきちんと理解して、相手が何を話しているかを注意深く聞くことの重要性」を指摘していただいた。英語ができないと世界の同世代のリーダーとは互角に勝負ができないことをディスカッションで塾生たちは身に染みてわかったようだ。早速、来年から留学を決意した塾生もいる。



▲アジア高校生架け橋プロジェクト交流会



▲マハティール前首相に挨拶するアジア架け橋生とリーダー塾生



▲マレーシア次世代リーダー養成塾 交流イベントの集合写真

■「マレーシア次世代リーダー養成塾」交流会の感想

私はこのイベントの中でマレーシアの人たちに圧倒されました。もっとニュースだけでなく日本の状況に関心を持たなければと思いました。また、自分が言いたいことがうまく英語で表せないもどかしさを感じました。

今コロナウイルスが流行っている中で、日本の状況以外は大きなニュースをテレビで見ることしかできませんが、このイベントで世界の同世代のリアルな現状が聞けて国の数だけ問題があり、対策があると知ることができました。

英語を使って通訳ができて今まで英語頑張ってきてよかったと思う一方、難しい内容を正確に訳すことができていないとわかったので、これからはより高度な内容でも議論ができるよう英語力を高めていきたい。

国は違うけれどコロナを通してそれぞれ学生が考えていることはどことなく似ているような感じがしました。マレーシアについてニュースを見ることがないので近況を現地の学生から直接聞けるのはよかったなと思います。

イベントに参加した海外の学生達はみんなそれぞれ自分の意見を持っていて、言語が違ってなんとかして意見を伝えようとしていて、感銘を受けました。

とても貴重な体験になったと思います。世界的に課題は似ているなと感じたので世界で協力して課題解決したいと思いました。

ディスカッションも、スピーチも全て英語で行われていて、英語の必要性を改めて痛感させられた。英語はできる方だと思っていたけれど、学校で勉強する英語と、実際に使う英語は全然違うことに気づかされた。

日本での新型コロナウイルスの影響とマレーシアが受けた影響とでは、これまでの政府の取り組みや文化の違いもあって、状況が異なるという事に気付いた。自分の英語力の無さにとってもショックを受けた。悔しかった。

同じクラスの子が司会をし通訳までしてくれていたにも関わらず、積極的に意見が言えなかったことが悔しかったです。ですが、マレーシアも日本も観光業に力を入れていたこともあり、少し学ぶことができました。

(3) アジア・ハイスクール・サミット

ウィズコロナからポストコロナへ社会をどう変革していくか ～高校生からの提案～



① 概要

リーダー塾では一流の講師の先生方の講義を拝聴し学んだことを生かすため、その年のテーマについて徹底的な議論を行い政策を打ち出すというプロジェクトを行っている。塾期間を通してクラスごとに高校生同士が本音で語り合い議論を交わした末、具体的且つ独創的な解決策を導き出す「アジア・ハイスクール・サミット」である。本プロジェクトでは毎年解決することが難しい社会問題を題材として取り上げ、やがて近い将来、一人一人がリーダーとなった際に身近な社会問題に取り組み解決することができる能力や幅広い視野を、高校生のうちから養うことを狙いとしている。今年はコロナ禍ということもあり、オンラインで日本全国の高等学校から174名が参加しての開催となった。また、塾期間中には「アジア高校生架け橋事業」や「マレーシア次世代リーダー養成塾」との交流イベントを催し、アジア諸国の高校生との意見交換も行った。

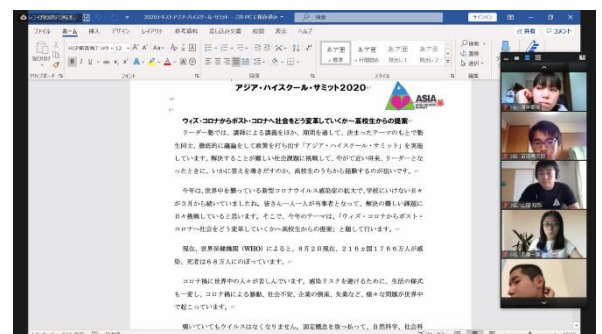
塾初日には、感染症が流行する世界各地の最前線で活動してきた長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授の山本太郎先生に、ウイルスと「共存」するという概念を中心に置いた感染症との向き合い方やこれからの社会変革について、ご自身の社会貢献活動の経験談と共に講義して頂いた。また、毎日新聞客員編集委員の金子秀敏先生にはコロナ禍とIT革命について講演していただき、ポスト・コロナ社会においてビッグデータや人工知能などの高度技術革新をどの様に進めていくのかという問いかけをしていただいた。そこで、今年度のアジア・ハイスクール・サミットでは「コロナ禍で高校生として感じた課題は何か？またそれらの課題を高校生として解決するにはどのような方法があり、行動を起こすべきか？」というテーマで議論を重ねてもらった。

高校生としてCovid-19のパンデミックを経験した今年度の参加者は、一人一人コロナ禍での課題を感じながら日々過ごしてきた。その各々の問題意識に加え、現在様々な場面の最前線で活躍されている講師のお話を直接聞くことにより、「高校生の視点でポスト・コロナ社会を創り上げる政策」を見出すことを目指した。塾生各人が考える課題をまとめてみると「教育」「観光」「経済格差」「科学技術」など様々な問題が挙げられた。そこで、塾生が提示した課題について費用や技術などの限界を考えずに、高校生としてどの様に取り組んでいくべきかクラスごとに考えてもらった。高校生の柔らかい頭で独創的なアイデアを考え抜くことを期待し、塾生が持ち寄ったアイデアをもとに約2ヶ月かけて徹底的に討論をした。

アジア・ハイスクール・サミットの集大成として、株式会社一平ホールディングス代表取締役社長・村岡浩司先生と株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長・佐々木久美子先生をコメンテーターとして迎え、クラスごとに発表してもらった。また、アジア高校生架け橋事業参加学生との交流会やマハティール・マレーシア前首相の講義の冒頭では、2か月間の議論の内容を発表した。

② 課題設定

「ウィズコロナからポストコロナへ社会をどう変革していくか～高校生からの提案」という表題のもと、始めに各クラス内で解決したい課題の設定を行った。テーマを設定するにあたり、zoomのブレイクアウトルーム機能を活用したり、マンダラチャートを活用したりするなどそれぞれブレインストーミングの方法を工夫している姿が見られたが、アイデアや方向性を絞るというプロセスでどのクラスも手間取っていた様子であった。それぞれが当事者としてウィズコロナ社会を経験し

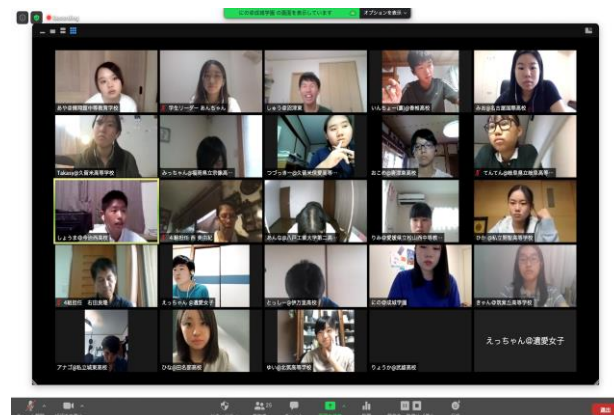


▲AHS 進行説明

てきたからこそ自分の意見をしっかりと持っているという印象を感じられた。またその一方で地域によってパンデミックの影響の大きさが違ったことや、オンラインでの初対面の学生との議論に慣れていないことで、議論を始めるにあたり信頼や友人関係をうまく構築できず、議論を進めることに苦戦し、結果として課題設定に多くの時間を費やしてしまうクラスも見られた。

③ 議論の様子

各クラス課題設定が終わりある程度の方向性が決まってくると、ポストコロナ社会における理想的な状況やそれを達成するための変革方法についての議論に入り始めた。ディスカッションの方法は様々で、ブレイクアウトルームを使用したりフローチャートを使用したりするなどオンラインならではの機能を使い、限られた時間を有効活用しながら進めていた。しかしながら、オンラインで開催しているため例年と違い情報をその場で調べることができるという点から、現実のデータや政策ばかりに意識をとらわ



▲クラスでの議論

れ、高校生らしいオリジナリティを出すという点において困惑している塾生も多く見られた。

また、クラスでのディスカッションを進めていく上で、オンライン開催ならではのコミュニケーション不足からくるお互いの信頼度の不足や、意思の伝達ミスなどが発生し、中心となって進めているクラス学級委員や進行役は試行錯誤しながら進めていた。今年はオンライン開催という非常に難易度が高く前例のない中で手探りで開催となったが、塾生たちが中心となって円滑なコミュニケーションと有意義な議論を実現させ課題を乗り越えていく中で、これからの社会において必要不可欠である能力を身につけることができたのではないかと考える。

■議論の感想

元はブレイクアウトルームを作って少人数ではないと話が進まないと言うことが多くあったが、日を追うごとに全体での発言が増えるようになっていた。私たちのクラスでは意見がより出るように発言した人が次の発言者を当てたり、オーバーリアクションをズームのスタンプなどでするように工夫をし議論を進めていた。
最初は全体で個人の意見を言うことすら厳しく、打ち解けるのに少し時間を要した。また苦労したこととしては議論が白熱しすぎて意見が飛び交いすぎてしまい、まとまらない AHS をいくつもしてしまったこともあった。
個々の尊重が出来ていました。誰一人も取り残さないように皆の脳を最大限に活用して、アイデアを出し合いました。繊細なことまで気づくクラスメイトばかりで助け合うことができました。
最初の頃は会ったことの人と画面越しで話すということに慣れていなかったのであまり議論が進まなかった。特に難しかったのは、話し出すタイミングで声が重なることが多くて気まずかった。ブレイクアウトルームでは、人数が少なく、全体よりは話しやすい雰囲気だった。最後の方になると、発言する人が限られてきてしまって、それ以外の人にとってはとても発言しづらい雰囲気だった。
ZOOM でのクラス会議は慣れるまでが大変でした。ある時は、一人の意見のみが提示され圧倒され意見を言えない生徒も多くいました。学級委員任せな部分も多くあり、AHS 後の学級委員との振り返り・アドバイスは日課でした。学級委員が LINE を使い、電話を活用しひとりずつ面談する日もありました。順調かと思われたクラス運営も、「方法論」ばかりが議論される日が続き、取り残され理解できない仲間がどんどん多くなっていきました。正直、混沌としていて議論するのが嫌になりそうでした。ブレイクアウトルームを活用する、LINE のノートを活用するなどより多くのメンバーの意見の吸収に努めました。

サミットの議論の中で、ブレイクアウトルームを設けて、もっとひとりひとりの意見が聞けるように工夫したり、チームに分けてその中で話したことを全体で言うようにしたことによって全体に届いていることが実感できました。話し合いの中では、結局何が決まったのか、今の話し合いに意味があったのかなど、なかなか前に進むことができなかつたこともありましたが、学級委員やクラスメートたちが、いろいろな意見を出し話し合いをして実行していくことで最終的にいい発表に繋がったと思っている。

教育という身近な問題だからこそ、たくさんの意見を出しやすく、現役の高校生である自分たちが思うタイムリーな課題も見えてきて、かなり白熱したディスカッションになりました。ただ、意見が右往左往して脱線したり、いろんな意見を出しすぎてまとまらなくなってしまうと、悩むところも多くなりました。どうすればもっと議論を深められるか反省会をして、全員で創り上げることにこだわりを持ってすすめました。

ジャンケンやくじ、多数決で決定しないことに力を入れました。一つの議題に何時間でもかけてみんなが納得のいく答えを、全員で考えてきました。学級委員として、なかなか先に進まない不安もありましたが、ディスカッションの中で他の立場の意見を聞くことでたくさんの学びを得ることができました。

学級委員2人の進行に任せきりになり、今何について議論しているかも曖昧だった初期の頃に比べ、終盤の団結力の強さはリーダー養成塾に限らずあらゆる団体で類を見ないほどの成長だったのではないと思う。

最初のころにブレイクアウトを使って、少人数で意見交流をしたことがとても良かった。ブレイクアウトの時間があったからこそ、クラス全体の時の話し合いで意見が言いやすい環境になっていた。

④ 中間発表

当初、中間発表会の開催を予定していなかったが、中盤に近づくにつれクラス内での議論が停滞してしまっていたことや、モチベーションを保つことが難しくなっている様子が見られたため、急遽8月30日に中間発表を開催した。クラスの中だけで議論していた塾生が、他のクラスの議論に触れ刺激を受ける環境を作ること、質疑応答を通して自分たちの発表に足りていない点を見つけ出すことが狙いである。結果として、他のクラスのアイデアを聞くことで刺激を受ける者や、自分のクラスと比べて



▲中間発表

すべて進度や内容の濃さに差があり、焦りを覚える者もいた様である。また発表内容としては中間発表に向けて上手く議論をまとめているクラスも見受けられたが、その一方で課題設定の時点で軸がぶれてしまい改善の余地が多く見られるクラスも見受けられた。参加後の塾生の感想を聞いてみると、他のクラスの発表の方法に刺激を受けたという声や質疑応答に不安を感じたという声もあり、中間発表がなければ気づくことができなかつた改善点を発見できたことから非常に有意義な時間であった。

■中間発表の感想

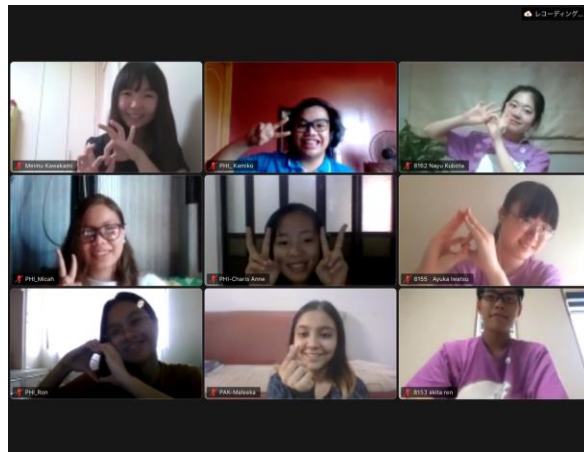
はじめは定められた任意の時間のみを使用しており、中間発表の時には1番進んでないし、他のクラスの先生方からも酷評を頂いて心配になりました。しかし、そこから火がついて、自分たちで作った任意の時間のAHSでは、1時間で今までの3回分くらい話し合いが進んだり、発表原稿やスライド、動画をみんなで作ったりとかなり協力出来ました。

中盤までは、斬新なアイデアが出ず、行き詰まっているような感じが常にあり、何度か方向転換した。そして、結局具体的なアイデアは決まらないまま、中間発表になった。ある塾生が心の密というキーワードを出したところから、一気に進んだ。まさに暗闇を抜け出した瞬間のようであった。議論では、活動的で明るい雰囲気絶えず意見が出ていた。

最初は、あまり意見が出なくて、話し合いがなかなか進まないことがありました。そこから、みんなで仲良くなるために、ブレイクアウトで雑談をしたり、あだ名を決めたりしてやっと仲が深まったと思っても、また1週間後には振り出しに戻っているようなことが多々ありました。しかし、中間発表で他クラスの発表をきいてから、他クラスのいいところを取り入れたり、自分たちならではの取り組みをおこなうことで、議論が活発に進むようになりました。

⑤ 「アジア高校生架け橋事業」交流会

今年度はアジア奨学生が不在となったため、海外の意見を含めた討論の場を設けることができなかった。そのため、日本政府の「アジア高校生架け橋事業」において留学予定となっているアジア各国の高校生をオンライン上で招待し、コロナ禍での各国の現状や課題を共有すると共に、アジア・ハイスクール・サミットで話し合っている内容を紹介し、意見をもらうという場を設けた。中間発表と同様、第三者からの意見をもらうことにより新たな刺激を受けたり、異なる視点から問題を発見したりすることを目的として開催したが、それ以上に英語学習の大切さや同年代の学生の社会問題に対する姿勢に刺



▲「アジア高校生架け橋事業」交流会の様子

激を受けている姿も多く見られ、良い機会となった。参加した高校生からも、社会問題に意識を向け行動を起こす大切さを学んだという声や、日本語が流暢ではなくても知っている知識を使いながらコロナの現状や対策について伝えようとする姿に感銘を受け、自分も英語が流暢ではなくても恥ずかしがらずにチャレンジしてみようと思ったという声が上がリ、一人一人が何かしらの刺激を受けていた。

■「アジア高校生架け橋事業」交流会の感想

世界各国のコロナ対策を直接聞くことは無かったので、とても新鮮でした。また、頑張っって日本語を話そうとする積極性を私は見習わなければいけないなと思いました。

日本やアジア各国の文化の違いを感じる事が出来ました。ポストコロナ世界でどのようにアジアで発展していくかという議題で、アジアの国と国同士の繋がりや信頼関係、正直さが大事ではないかと感じました。英語を使って通訳ができて今まで英語を頑張ってきたよかったですという一方、難しい内容を正確に訳すことができていないとわかったので、これからはより高度な内容でも議論ができるよう英語力を高めていきたい。アジア架け橋の子たちの勢いに圧倒されてしまった。zoomで話しにくさもあると思うのに、しきりに発言していて少し遠慮してしまっている自分を恥ずかしく思った。結局あまり発言できなかったのが悔しかった。

クラスごとにディスカッションを行ったため多くの生徒が発言し、架け橋生とたくさん意見交換ができたと思う。様々な考え方や全く違った国の状況などについて知ることができとても楽しかった。

様々なアジアの国々の学生とコロナ禍でのコミュニケーションの変化を議論した。お互いの国で考え方や文化に大きな違いがあり私にとって刺激となった。アジアは互いを助け合って格差を埋め、共に高めあっていくべきと感じた。

それぞれの国のプレゼンもクオリティが高くてとても良かったし、アジアの高校生が頑張っって日本語で話してくれてパワーを貰いました。国ごとでコロナの対応も違うし、教育・経済などの政策が様々で勉強になりました。

ファシリテーターを務めて、自分の英語力不足を痛感しました！！それと同時に、英語はツールに過ぎないという言葉の意味を初めて理解しました。一から学び直して、もう一度皆さんと議論したいと強く思いました。

⑥ アジア・ハイスクール・サミット発表

9月21日、今までお世話になった各クラスの担任の先生方に加え、講義もしていただいた株式会社一平ホールディングス代表取締役社長・村岡浩司先生と株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長・佐々木久美子先生をコメンテーターとして迎え、約2ヶ月に及んだ今年度のリーダー塾の集大成として最終発表会を開催した。発表当日は慣れないオンラインでのプレゼンテーションということもあり各々緊張した面持ちであった。また、今回はリーダー塾史上初めてパワーポイントを使用



▲AHS 最終発表の様子

しての発表となり、クラスごとの発表方法や内容のユニークさが特に注目されていた。今回の題材を通して最も考えて欲しかった「ポストコロナの社会への変革について主体的に考える」という点については、各自の体験談を踏まえて発表を作り上げているクラスが多かったことから、十分に取り組んだことが感じられた。サミットを通して他のクラスに対する質疑応答にも多くの塾生が積極的に参加していたことから、共に学び合い新たな社会を作り上げていこうという一人一人の情熱が感じられた。

【各クラスが取り組んだ発表テーマとその解決策】

クラス	テーマ	解決策
1組	令和？102年度 攻略本 ～だれ一人取り残さない社会～	フードロスを有効活用し、同時に雇用も生み出しながら飢餓や貧困を解決する。
2組	教育で世界を一つに ～今こそ、世界を分断から協調へ～	オンラインでの仮想空間を作り、全ての人が平等に学びチャレンジすることのできる環境を作る。
3組	密だけど！全員集合！！	仮想現実「バチャルーム」を作り、情報格差や教育格差の解決を目指す。
4組	多様性を受け入れる社会に向けて	アプリ「賛密」を作り、オンライン上で共通の授業や行事を経験することにより、ウィズコロナの中で得ることが難しかった多様性や協調性を養う。
5組	SNS での差別がない世界へ	SNS での差別に対してハッシュタグを作り、それを拡散することによって差別を抑制する。
6組	リー塾学園！！	完全オリジナルなカリキュラムを生徒一人一人が考えることにより、好奇心や向上心を持って世界を見ることができると人材を育成する。
7組	宇宙人が来たくなる世界	科学技術を使い、教育格差や経済格差のない世界を作る。
8組	リー塾 17期 8組発！！ SNS 憲法 高校生と一緒に考える！ SNS の在り方とは？	SNS の使用に関するライセンスを設定し、デジタル化が進んだ未来において SNS の空間を本当の意味での快適な場に、誰一人被害者や加害者にならないようにする。

発表に際して、多くの人に理解してもらうために様々な工夫が施されていた。あるクラスは事前に動画を撮影し全員参加型の発表を作り出していた。また、どのクラスも工夫してスライドを使用し視覚的要素を効果的に使い作り上げていた。

ポストコロナの社会に向けた変革を考えることは、現代社会に生きている全ての人間が当事者であるため、一人一人様々な価値観を持っており、それを限られた時間の中で一つのアイデアにまとめ上げるということは高校生にとってかなり難易度の高いものであった。また、オンラインでの開催ということで塾生同士の関係の構築も非常に困難であったと思う。しかしながらそのような状況下でも活発な議論を繰り広げ、「高校生として感じている課題に対して何ができるのか?」、そして「意見が対立してもお互いに向き合うこと」の大切さに気づくことができたといった発言がなされた。塾期間を通して多様な考えやバックグラウンドを持つ同世代の仲間と交流し、刺激を受け視野を広げることができたと思う多くの塾生が感じていたようである。

全8クラスの発表終了後には、コメンテーターとして参加していただいた村岡浩司先生と佐々木久美子先生、そして加藤暁子専務理事・事務局長から、最終発表の総評を受けるとともに、ポストコロナ社会への変革についてお三方のご意見を踏まえたパネルディスカッションを開催した。



▲AHS 振り返り・パネルディスカッション

■サミットの感想

先生たちが私たち高校生の考えた案を肯定的に捉えてくださり、達成感を感じました。特に自分たちの班の話が出てきた時嬉しかったです。これからの日本は私たちが作っていくものなので、協力していこうと思いました。

コロナ禍でリー塾生が集まれない中でもみんなが感じていることは一緒だったという講評をいただいて、その通りだなと思った。村岡先生が仰ったように、たくさんの人の共感を集めていけば大きな力になることを感じた。

クリエイティブな発想で常に「なぜ?」と考えて、これから色々なことに取り組んでいきたいと思いました。お三方の話からプレゼンのどこが全体的に良くなかったのか学ぶことができた。客観的な意見は何かを修正する時に非常に役立つ。このディスカッションをこれからの生活に生かしていきたい。

村岡先生の仰った、「数よりも、その中にいる人の姿をイメージすること」の重要性が分かりました。ニュース等で知る被害の状況は、数の情報が多いけれど、人の内面をイメージして、自分事に考えたいです。

自分は直接発表しませんが、自分たちの代表者5人が素晴らしい発表をしてくれて本当に感動しました。自分たちが長時間かけて話し合ってきた差別という難題をみんなに伝えることができて良かったです。ほかの組がユーモアあふれる発表をされていて大変面白かった。

初対面から始まり、議論がどんなものになるのか不安で、しかし楽しみでもあった。私が印象に残っていることは、ブレイクアウトルームを用いてクラスメイトと交流できつつ、どんな意見も否定せずみんなが意見を発言しやすいような環境が作られていたことだ。そんな中で私は、議題の軌道修正に貢献する発言が出来たり、クラスメイトの斬新な意見を聞き刺激を受けられたりして自らの成長に役立てられたと思う。否定されるのが怖くて発言をためらうことが多かった過去から、自分の意見に自信を持ち発言できるようになった今を比較すると大きな変化だと感じる。また、オンラインという空間は直接的な会話と比べると意見交流が難しいと感じたが、オンラインだからこそ文面上の会話などネットワークを駆使してクラスメイトと仲良くなろうとする試みは非常に有意義で斬新なことのように感じた。

(4) 今年の特徴的なカリキュラムについて

■地球BIRD

(大嶽一省様・IN・COM 株式会社代表取締役 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)

リーダー塾のキャラクター・ネッピーの生みの親であり、企画委員を務めていただいている大嶽一省様に、ネッピーの紹介や地球BIRDワークショップの案内をしていただいた。塾生が「アジア・ハイスクール・サミット」発表の際に着用したTシャツにもネッピーがデザインされており、塾生は興味深く聞いていた。



▲お話をいただいた大嶽様

昨年はワークショップをクラスごとに実施したが、今年はオンラインによる個人単位の取り組みとなった。空いた時間にWebに投稿した塾生の作品は、地球BIRDに自由な発想で色が塗られており、思いが込められていた。

塾終了後には、塾生にオリジナルのネッピーを描いて提出してもらった。どの作品も高校生ならではの発想で描かれており、個性あふれるネッピーになっていた。後日、大嶽様が各自の作品をバッチにしてくださり、事務局から塾生へ送ることになっている。

■宗像大社見学 (DVD 視聴)

例年、リーダー塾の開催都市である宗像市について理解を深めることを目的に行っている宗像大社の正式参拝を、今年度はオンラインで開催した。宗像大社は、2014年に『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」としてユネスコ世界文化遺産に登録された。実際に訪れることは叶わなかったが、提供していただいた映像を通して、宗像市の歴史について知ることができた。また宗像大社だけではなく、関連遺跡である沖ノ島についての映像も見ることにより、以前よりも包括的に歴史や文化について学ぶことができた。



▲宗像大社・DVD 視聴

塾生からは、「身近にある宗像の歴史やその素晴らしさについて知ることができた」という声や「本当は実際に訪れることを非常に楽しみにしていたが、ビデオと講義のオンラインでの観光という形でも十分宗像大社について知ることができ、バーチャルトラベルの可能性を感じた」という様々な視点からの感想が述べられていた。宗像大社を訪れたことのない多くの塾生にとって、その歴史を映像で学ぶことにより新たな興味関心を引き出す時間となった。

■卒塾前夜祭

アジア・ハイスクール・サミットの発表の終了後、卒塾前夜の9月21日20時から時間を設け、塾生主体で卒塾前夜祭を開催した。2ヶ月間リーダー塾に参加した塾生の卒業を祝うことを目的として、担任の先生方や学生リーダーも参加した。卒塾前夜祭をオンラインで行うということ自体初めての試みではあったが、他のクラスの塾生と交友を深めたり学生リーダーの新たな一面を知ることができたりするなど非常に思い出に残る会となっていたようである。実際に塾生からは、「前夜祭をきっかけにクラスの垣根を越えて、17期みんなが1つになって楽しむことができてよかった。」「クラスでのクイズや未成年の主張など、2ヶ月前では考えられなかったチームとしての絆を感じることができた。」「担任の先生方からのサプライズ動画に感動で泣きそうになった。」という声が上がった。「オンラインでは信頼関係を深めることができない」。初めはそう感じていた塾生たちであったが、前夜祭で実際に絆が深くなったことを認識することにより、失敗を恐れずに挑戦することの大切さに気付くことのできた会になった。



▲リラックスして卒業前夜祭を楽しむ塾生たち



▲クラス担任の先生方からのサプライズ動画に感動する塾生たち

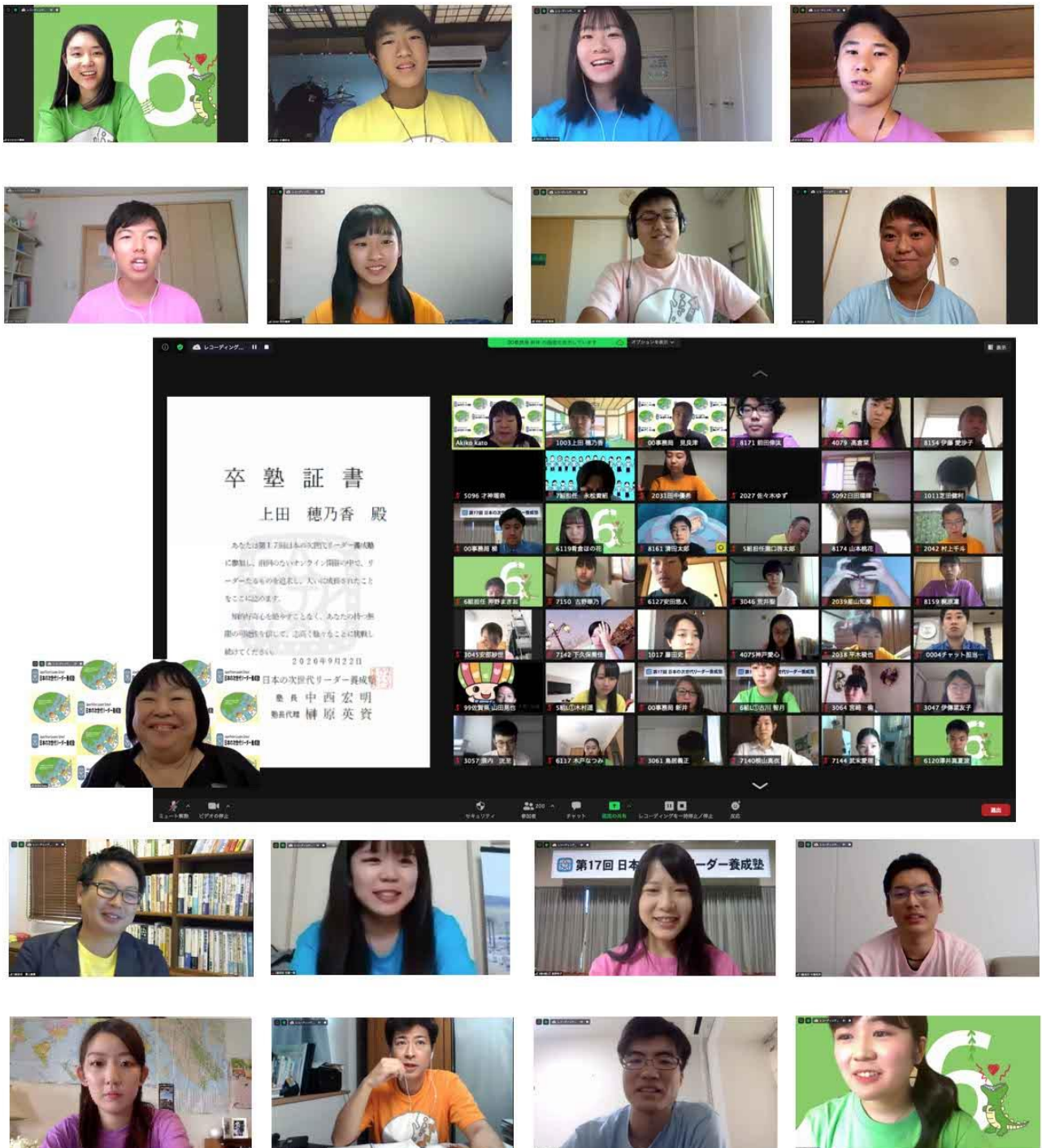


▲クラス担任の先生方が作成した動画では、合宿地のグローバルアリーナ・近藤社長と森田さんからメッセージをいただいた

■卒塾式（目標宣言）

9月22日、第17回日本の次世代リーダー養成塾の集大成として卒塾式を執り行った。式の中では各クラスの代表生徒を選出してもらい、塾期間を通じたクラスでのエピソードやクラスメイトへのメッセージを述べてもらった。加えて、全参加者が卒塾後の目標や将来の夢などを宣言する「目標宣言」も行った。具体的な将来の夢を宣言する生徒もいれば、直近で達成したい目標を宣言する者もあり、非常に多様性に富んだ宣言となっていた。

目標宣言を終えた生徒達からは「2ヶ月間一緒に活動してきた塾生みんなの意見を聞くことができ、それぞれうちに秘めている熱い感情を知ることができた」というものや「自分の将来の目標を宣言することにより自分の現在したいことを再確認することができたと共に、一緒に頑張ってきた塾生の発表を聞くことによってすごく良い刺激となった」という声が上がっていた。2か月間を通しての最終プログラムでも、塾生たちが最後までお互いに刺激を与え合うことができる有意義な時間となった。



▲堂々と目標宣言する塾生たち（上段）と、塾生たちにはなむけの言葉を贈るクラス担任・学生リーダー（下段）

■開催方法の変更

5月下旬に今年の塾をオンライン講義+合宿発表会の二段構えで行うと決定した後、合宿発表会における新型コロナの感染対策の検討を本格的に始めた。

9月の4連休に皆で実際に会うことができるように、開催施設のグローバルアリーナの担当者及び開催地の福岡県・宗像市のリーダー塾担当者との協議を重ね、福岡県や宗像市の新型コロナに係る部署の担当者にもご意見をいただいた。その中で、塾生が集合する際やバスで移動する際の間隔のとり方・宿泊する部屋の振り分け方・食事の仕方など綿密に調整した。

しかし、8月末になっても新型コロナの感染状況は好転しなかった。感染対策をまとめた上で、8月26日に参画道県・市担当者の会議をzoomで開催した。各担当者からは厳しい意見をいただき、参画道県・市の一部では、宿泊を伴い、県境を越える修学旅行が年内中止や来年に延期となっていた。加えて、全国各地の学校の寮やクラブ活動などでクラスターが起きていた状況などもあり、塾生とご家族、学校関係者などの健康・安全面を第一に考慮して、残念ながら合宿発表会を中止し、すべてオンラインでの開催に変更することを決定した。あわせて、受講料の一部を返還することにした。

8月30日に、加藤暁子専務理事・事務局長から塾生に対して決定内容を伝えた。グローバルアリーナでの合宿発表会にむけて思いを高めていたことから、皆に会えないことが分かり、落胆の表情をうかべる塾生や涙ぐむ塾生がみられた。塾生のモチベーションを下げないように、カリキュラムを充実させるため、オンラインだからこそできる国際交流として、「マレーシア次世代リーダー養成塾」及び日本政府「アジア高校生架け橋プロジェクト」の学生と交流するイベントなどを実施することを発表した。さらに、今後17期生の皆で実際に集まる同窓会の開催を検討することを発表した。

開催方法の変更の決定にいたるまでご対応いただいた、参画道県・市担当者ら関係者の皆様、特に福岡県・宗像市の担当者及びグローバルアリーナの担当者の皆様には改めて感謝申し上げたい。

■台風の接近に対する対応

昨年に引き続き、今年の塾も台風の影響を受けた。9月はじめ、沖縄・九州地方に大型で非常に強い台風10号が上陸する予報がでた。9月6日に塾の日を迎えるにあたって、台風の大きさや進路などを確認した。塾生の所属する高校の一部では、その日に体育祭が予定されていたが、延期または中止となり、被害が心配された。

塾生には、「オンライン講義のため予定通り実施するが身の安全を最優先に行動すること、避難警報などが発令された場合はその指示に従うこと、台風の影響で講義を欠席又は途中で抜けることになった場合は後から録画データを提供すること」などを事前に伝えた。講師の先生方には、当日問題なく講義をしていただけることを確認した。

塾当日の6日、自宅から避難することになった塾生が数名いた。実際に台風が接近して、危険度が増していったことなどから、安全を考慮して、夕方からクラスごとに実施していた「アジア・ハイスクール・サミット」のディスカッションを途中で中止すると決めた。迅速に対応いただいたクラス担任の先生方・学生リーダーの皆さんのおかげで、塾生に対して中止の連絡をスムーズにすることができた。

9. 参画道県・市の声

リーダー塾は、9つの県と2つの市から参画を受けており、塾生の募集、選考など、多くの協力を頂いている。参加した塾生の様子や塾に期待していることなどについて、参画道県・市に対し、アンケート調査を実施した。

【北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年係】

オンラインによりリーダー養成塾が無事開催され、合宿開催による新型コロナウイルス感染のリスクが低減されるとともに、塾生の学びの機会が確保されたことを喜ばしく思います。

普段、道外の高校生となかなか会う機会のない北海道の高校生にとって、志を同じくする全国の仲間達と寝食を共にして交流することができなかつたのは残念なところではありますが、リアルタイムで顔を合わせて議論を重ねることは、塾生らの成長にとって確かな効果があったと思われます。

ここ数年、複数の卒塾生の活動が新聞に掲載される等の活躍がみられ、本塾で学んだことがますます発揮されてきていると感じているところです。今年度の塾生についても、このコロナ禍を乗り越え、一層活躍されることを期待しています。

【青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ】

参加した塾生全員が充実した塾カリキュラムの中で自分の将来、日本、世界の事を真剣に考え、自分のなすべきことを実行に移す意欲を高めたようである。

卒塾後の感想文では、塾参加前はオンライン開催を不安に思っていたようであるが、オンラインでありながらも全国の塾生との交流や著名な方々の講義に刺激を受けたようで、切磋琢磨した仲間の大切さと、これからの自分の将来について、またその具体的な考えと行動へ向けた決意など、意欲の高さを示す言説が多くみられた。

保護者の感想でも、意識が変化し、視野も広がり、一回りも二回りも成長した子供たちの様子に感動し、塾へ参加できたことへの感謝の言葉が多くみられた。



事前研修会の様子（提供：青森県）

【岩手県 教育委員会事務局教育企画室】

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、合宿形式のリーダー塾は開催できませんでしたが、このような状況下でオンライン講義・発表会を実施できたのは、想定外の困難な問題にも果敢にチャレンジするリーダー塾の精神によるものと考えています。

参加した受講生は、日本や世界を代表する講師や全国の高い志をもつ高校生との交流を通して、大きく成長できたと語っています。また、事前研修会に参加した卒塾生はとても頼もしく受講生に勇気を与えてくれました。貴重な経験ができ、次世代を担う人材を育むリーダー塾には、今後も魅力的なプログラムを提供していただきたいと思えます。

【静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育課】

新型コロナウイルス感染症の影響により、全てのカリキュラムがオンライン開催となり、塾生たちのモチベーションの変化等を心配していたが、卒業後のアンケートでは「現在のコロナ禍のような危機的な状況、先の見えない時代でも、前向きに、臨機応変に対応できる力が必要だと思った。」など、前向きに挑戦し続ける姿勢や「考える力」を持ち続けることの重要性に気付いたという感想が聞かれ、オンラインの講義やディスカッションから一つでも多くのことを吸収しようとする姿勢を大変頼もしく感じた。

他にも、「自分の欠点に気が付いた」、「目指すべきリーダー像が見つかった」などの感想もあり、次世代のリーダーとなるために、大きな一歩を踏み出せているものと実感している。

今回のリーダー塾で得た経験、意欲、仲間を大切に、卒業生がそれぞれの目標に向け、大きく羽ばたいてくれることを期待する。



事前研修会の様子（提供：静岡県）

【岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係】

塾生より提出された感想には、様々な講師の方から刺激を受け、今の自分を変え、夢に向かっていこうという決意がうかがえた。また、保護者からはオンラインで講義やディスカッションをする子どもの姿を見ることができ、子どもが成長していく様子を間近で見ることができ良かったとの感想が寄せられた。

この体験や今の思いを忘れず、今後も夢に向けて努力し続けていきたいと思います。



報告会の様子（提供：岐阜県）

【和歌山県 教育庁教育総務局総務課教育政策班】

世の中には、人知れず努力している人、素敵なアイデアを提供できる人、新しい価値を創造する人など、素晴らしい人がたくさんいます。当県から参加した塾生が、「井の中の蛙」になることなく、講師の先生や他の都道府県から参加した塾生から刺激を受け、大いに励もうとする志を固めてくれることが、参画県としての願いです。

今年は、新型コロナウイルス感染症の関係で、塾生が一堂に会することは叶いませんでしたが、皆さんの感想を見ると、例年と遜色ないリーダー養成塾になったことがうかがえます。

当県の塾生の感想からは、通常の高校生活では決して出会うことのできない講師の方々をはじめ、クラス担任や学生リーダーの方との出会い、養成塾事務局のご尽力への感謝が語られています。養成塾で学んだ生徒たちが、リーダーとして活躍することはもちろん、自分たちに注がれた支援を、後に続く人達へかえしていく循環が生まれることを期待しています。

【愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課】

愛媛県では、日本、そして世界に通用する人材の育成を目的として、「えひめ高校生次世代人材育成事業」を実施しており、その中で、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣、リーダー養成塾の参加の成果の普及を図る事後研修会及び報告会等を行っています。

リーダー塾参加後は、「世界各国の状況に目を向けることの重要性を感じた。」「これからの時代を生き抜くため、世界で活躍する人材になるためには英語は必要不可欠だと思った。」「オンライン上で話し合いに参加できなかった人になるべく多く話しかけるなど、配慮をすることによって議論が大きく進むのを感じた。」との声が聞かれるなど、目指すべきリーダー像を具体的に思い描いている様子が見られました。

今後、塾生との絆を大切に、将来の目標に向かって歩みを進められ、世界のリーダーとしてさらに成長されることを期待しています。



事後研修会の様子（提供：愛媛県）

【福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課】

本県では、“Think globally, act locally”、国際的な視野を持ち、地域で活躍する「人財」の育成が必要と考え、「ふくおか未来人財育成ビジョン」を策定している。子どもたちに眠る無限の可能性を引き出した、地域の未来を担う子どもたちを社会全体で育てたい、その思いで取りまとめたものである。

このリーダー養成塾は、同じ志を持った全国各地から集まった仲間と学校の授業では経験できない貴重な講義を体験することができ、子どもたちの可能性を引き出すための良い機会となっている。

本年は、全てのカリキュラムがオンラインでの開催となり、事務局には、オンラインに合わせたカリキュラムの充実や工夫に尽力いただいた。

これにより、塾生たちは、日本や世界で活躍する一流の講師陣の講義に熱心に耳を傾け、また仲間たちとの白熱した議論や語らいを通して、充実した時間を過ごしたことがうかがえた。

今後も、次代を担う高校生のため、より良い事業の継続を望む。

【佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課】

今年は新型コロナウイルスの影響で、全国の塾生を佐賀にお迎えすることができず残念に思います。

オンラインでの開催となり、充実した塾生活を送れるか不安を抱く塾生もいましたが、「オンラインでも絆が生まれることを実感できた」「ポストコロナ社会で必要となる通信技術のスキルを学ぶことができた」など、終わってみれば今の環境を前向きに捉える声が多く聞かれました。

また、卒塾後の知事への報告会では、「同世代の高校生から刺激を受けた」「やりたいことが明確になった」「佐賀を世界に広めたい」など力強い報告があり、オンラインでも変わらず、刺激的で実りの多い塾生活であったことを感じさせました。

塾生には、全国の仲間といつか会えることを心待ちにしながら、仲間と志を大切に、そして佐賀に誇りを持ち、日本や世界で活躍する人材となることを期待するとともに、今後も、本塾に多くの志高い高校生が参加し、ますます発展していくことを願います。



事前研修会、報告会の様子（提供：佐賀県）

【福岡県宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係】

今回はオンライン開催でしたが、各分野で活躍する講師の講義に加えて、日本全国および海外の高校生同士でのディスカッション、そしてオンライン発表会など、現在のコロナ禍ででき得る最大限の取り組みを行ってもらえたのではないかと思います。

参加した塾生からは、「最初はオンライン開催で不安だったが、全国の志の高い仲間ができ、その仲間や海外の高校生からいい刺激をもらった。」と感謝の言葉がありました。

これからのウィズコロナ・アフターコロナ時代に次世代の人材育成をどのように行っていくかは、どの自治体でも大きな課題だと思います。リーダー塾の特色である「全国の高校生と寝食をともにする合宿生活」は生かしつつ、オンラインの活用などコロナ時代への対応もできれば、これからの次世代人材育成事業のモデルとなると思います。今後、宗像市を舞台にそのような事業を開催できればと思っています。



事後研修を兼ねて、近隣の大学生・留学生とともに活動した様子（提供：宗像市）

【沖縄県うるま市 経済部商工労政課雇用推進係】

うるま市では、世界的な視野で発想・思考・行動できる各界における日本の次世代リーダーに必要な素養形成の「きっかけ」を与えることを目的として、平成28年度から毎年塾生の派遣を行っております。

今年度においては、オンラインでの開催となったため、事前学習ではインターネット接続端末の操作やオンラインでのディスカッションの練習を行っております。当初は2週間の合宿がなくなり、オンラインで交流が出来るのか不安を感じていた様子でしたが、実際に8月に講義が始まると、オンラインの壁を感じることなくクラスの仲間と仲良くなり、自分の考えを言い合える関係を築くことが出来たととても感動したとの報告がありました。その他、講義やディスカッションを通して多くの気づきがあったり、プレゼンテーションの方法などの勉強もでき、塾生にとって大きく成長する貴重な体験となった事がうかがえました。合宿は中止となってしまいましたが、コロナ禍の中、学ぶ意欲はより増して積極的に参加できたようです。

今回の塾に参加した経験を糧にして、どのような困難な状況にあってもあきらめず、次世代のリーダーとして成長していくことを期待しています。



事前学習の様子（提供：うるま市） 事後学習の様子（提供：うるま市）

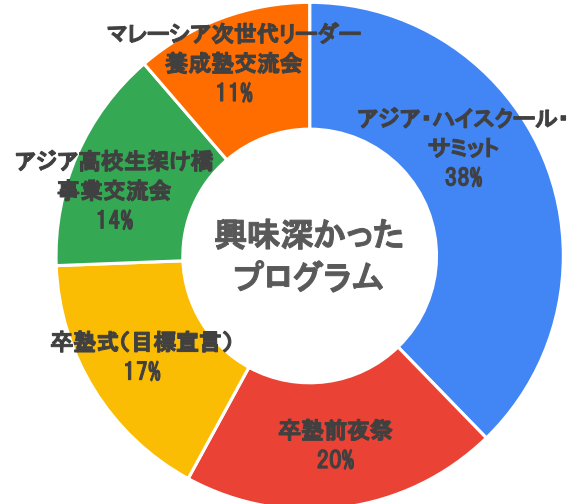
資料① 塾生アンケート調査結果

塾期間中および塾終了後に、レポート提出およびアンケートを実施した。本報告書では、主な設問について掲載することとする。レポートは塾生174名のうち166名（95.4%）、アンケートは154名（88.5%）が回答。

興味深かったプログラム（複数回答可）

※アンケート集計上位5つを記載

①アジア・ハイスクール・サミット	38%
②卒塾式前夜祭	20%
③卒塾式（目標宣言）	17%
④アジア架け橋事業交流会	14%
⑤マレーシア次世代リーダー養成塾交流会	11%

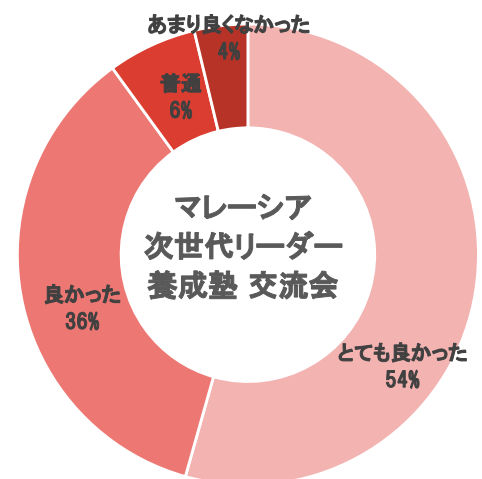


(1) マレーシア次世代リーダー養成塾 交流会

とても良かった	54%
良かった	36%
普通	6%
あまり良くなかった	4%
良くなかった	0%

■主な感想

- ・とても貴重な経験でした。改めて英語の大切さを学びました。また、世界を相手にすることの難しさや、楽しさを知ることができました。
- ・マレーシアの学生が大勢の人の前でスピーチをしていたのを見て堂々としている姿は参考にしたと思いました。

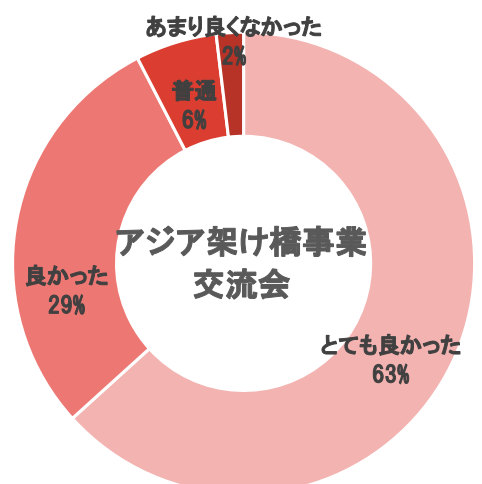


(2) アジア架け橋事業 交流会

とても良かった	63%
良かった	29%
普通	6%
あまり良くなかった	2%
良くなかった	0%

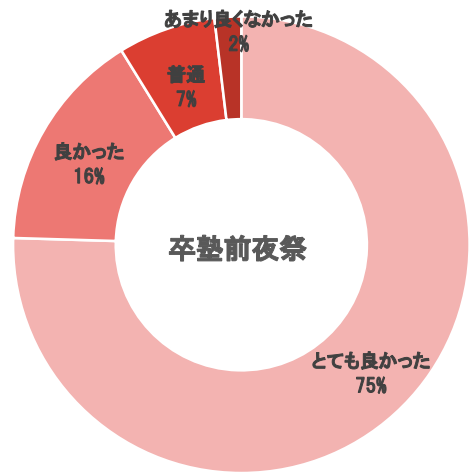
■主な感想

- ・たくさん話せてとても楽しかったです。その後、SNSを交換して今でも話しています！
- ・アジア架け橋生をまとめる役割をしましたが、想像もしてなかった意見が沢山出て多様性を受け入れるという意味を履き違えてたことに気づきました。



(3) 卒塾前夜祭

とても良かった	75%
良かった	16%
普通	7%
あまり良くなかった	2%
良くなかった	0%

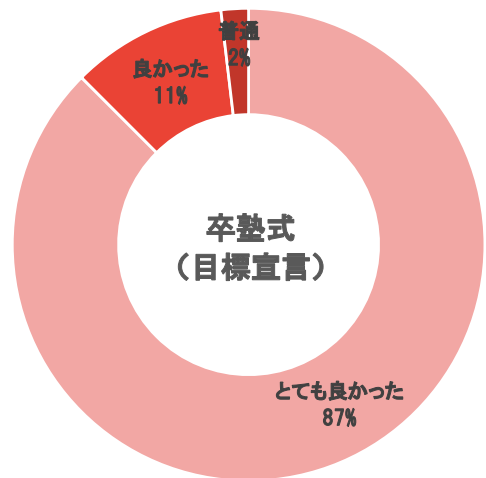


■主な感想

- ・卒塾前夜祭では、今まで関わったことのない他クラスの人たちと交流を図る事が出来ました。
- ・卒塾前夜祭準備担当の皆さんや、盛り上げてくれた皆さんのお陰で素敵なひとときとなったと思います。私は未成年の主張で発表しましたが、自分ではっきり思ったことを言えたのと、皆から沢山コメントをもらえてすごく嬉しかったです。

(4) 卒塾式 (目標宣言)

とても良かった	87%
良かった	11%
普通	2%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%



■主な感想

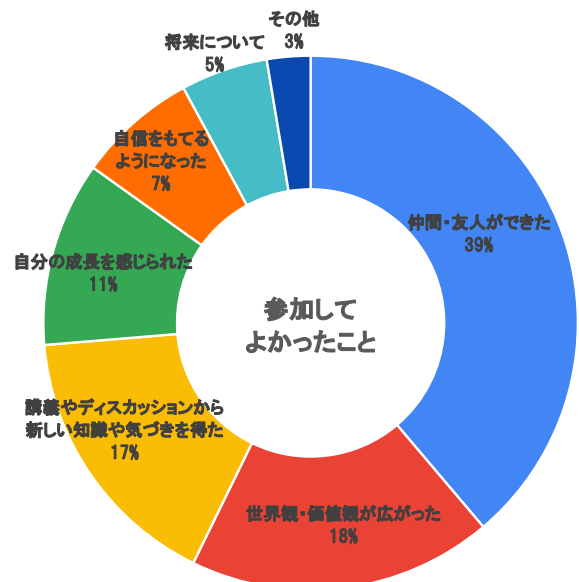
- ・もともとあった目標と、リーダー塾を通してできた目標が自分の中にあっただので、それを自分の言葉として発信することで自分の考えを整理することができ、やる気につながりました。
- ・初めて公の場で夢を語って、とても気持ち良かったし、有言実行しなければという自分への士気の高まりにもなりました。また、みんなの夢を聞くと、志が高く、芯を持っていてとてもかっこよく自分も負けてられないなと感じました。頑張りたいです。

塾生へのアンケート

? リーダー塾に参加して一番よかったこと

※キーワードをピックアップして集計

① 仲間・友人ができた	39%
② 世界観・価値観が広がった	18%
③ 講義やディスカッションから新しい知識や気づきを得た	17%
④ 自分の成長を感じられた	11%
⑤ 将来について	7%
⑥ 自信を持てるようになった	5%
⑦ その他	3%



■主な内容

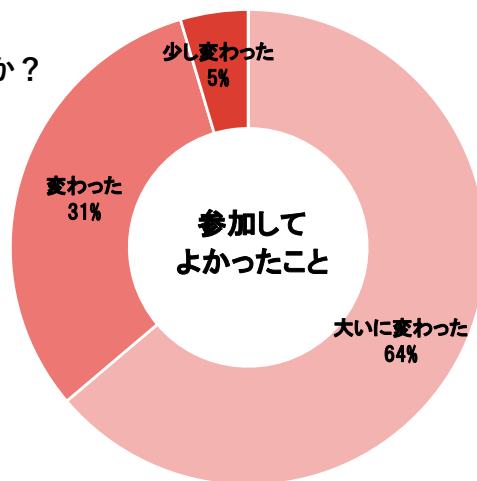
<p>仲間・友人が できた</p>	<p>一番は人との出会い、そしてそこから受けた刺激です。どの塾生も本当に意識が高くて、僕が求めていた熱量の人ばかりでした。そんな人たちとこれからも付き合っていきたいし、何かできたらと思います。また改めてそんな経験ができたのも自分のおかれた環境の素晴らしさによるものだと思うので、感謝して、恩返しができたらとおもいました！</p>
	<p>1番良かったことは、リー塾でしか出会えない最高の仲間ができたことです。学校の友達も大切ですが、それ以上に心強い仲間が全国にいることは、将来生きていく上でとても大切だし協力し合えると思います。また、同年代の方々から沢山吸収できたことも良かったです。私は難しいことになると発言したり行動をすることが消極的になってしまいます。しかし、リー塾では好奇心を持った積極性のある仲間が多くいて刺激を受けました。</p>
	<p>今まで全国に友達がいなかった訳では無いが、明らかにその輪が広がったこと。このことがきっかけで今度は世界中に友達の輪を広げたいという夢を持つことができた。</p>
	<p>やはり全国に友達が出来たこと。年齢も出身も違うし、個々が持つ夢も希望も違うけれど、同じ高校生とは思えない未来への想いを強く感じてとても感銘を受けた。英語力に長けている人やみんなを笑わせてくれるムードメーカーなど、クラス関係なく明るさに救われたり協働性を学んだ。勉強をしてるだけでは身につかないコミュニケーション能力の向上を身をもって感じる事ができた。</p>
	<p>たくさん的高校生と繋れたことです。意欲のある高校生たちと話すことで自分の意欲も向上しました。</p>
	<p>たくさん志高い個性豊かな仲間と出会えたこと、今まで島という小さな世界で生きてきたのが一気に日本全国、世界に広がったことです。</p>
	<p>心の支えになる思い出、友人、先生方を手に入れたことが1番です。日常の些細なことでも今同じ瞬間にもこの世界のなかで頑張っている戦友がいると思うと奮い立ちます！視野が広がったことで目の前で起こる事象の様々を感じ取れるようになったと思います。</p>
	<p>たくさん友達ができました。志の高い仲間と共に時間を過ごすことで、自分自身の考え方が大きく変わりました。オンラインでこんなに大切な友達ができたのは初めてです。</p>
<p>世界観・価値観 が広がった</p>	<p>問題に対する意識の持ち方や考えが変わったこと。自分が苦手とすることを克服できたこと。友達ができたこと。</p>
	<p>自分の視野が広がったこと。普段だと知ることもなかった、さまざまな高校生活の送り方を知ることができたこと。それによって自分の人生の選択肢、道はたくさんあると気づき、可能性を感じられたこと。またたくさんの方の講義を聞いて、将来の夢を叶えたいという気持ちをよりつよめられたこと。刺激をたくさん受け、たくさんの発見があったこと。</p>
	<p>全くの新しいコミュニティで、今までに出会ったことのないような志の高い方々に出会い広い世界を知れたことで、様々な価値観を受け入れ尊重することができるようになりました。</p>
	<p>自分の視野を広げることができた。自分は全然知らないことが沢山あって、これから勉強しなければならぬという焦りを感じる事ができた。</p>
	<p>価値観が大きく変わりました。今まで気になってたけど調べなかったことを知ることができたり、自分の意見を言っても聞いてくれる人がいるということを知りました。また、自分がいる環境がいかに有難いか、ほかの地域・国とはどのような差があってそこで生まれる考え方の違いも学ぶことができました。</p>
	<p>リーダ塾に参加して、多角的な視点が身についた。今まで、日本のことしかわからなかったことが、たくさんの方の話聞いて、世界に目を向けることができ、将来は何らかの形で世界で活躍する人材になりたいと強く思うようになった。そして、たくさんの方と関わり、日本全国、アジアの各国にも友達ができたことで、様々な視点からの意見を聞き、もっと視野を広げたいと思う。</p>
<p>リー塾に参加したことで、視野がとても広がりました。様々な活動を行いみんなの役にたっている同じ高校生をみて、もっと人の役に立てることをしていきたいと感じるようになりました。</p>	

講義やディスカッションから新しい気づきを得た	田口先生の話の中に、ソーシャルビジネスはコストがかかるという話があった。先生は「そのコストすらも含めたビジネススタイルを作れば良い」とおっしゃられた。これは何かを生み出す時に必要なキーであると思った。自分の夢に、日本の武道から実践的な護身術を作るというものがある。その時の道標にしていきたい。
	毎回の講義が本当に貴重で、興味深かったことが印象的です。それは普通に学校に通っては絶対に経験できないことでした。講義を通して、自分で質問する積極性も得ることができました。また、数々の講義から自分なりに好奇心という共通点を見出すことができ、今後の人生に生かすことができる機会も得ることができました。
	世界で活躍されている先生の講義を聞くことができ様々な分野に対して興味を持つことができました。まだまだ私の知らない世界があるのだと改めて感じました。
	たくさんの先生の講義を聞くことで、自分の将来の夢に対してのモチベーションを上げることができ、普段の生活もリーダーとしての自覚をもって頑張っています。
	自分は周りのみんなとは違って特に何も経験をしていなかったのですが、リーダー塾に参加している人はみんな生徒会に入っていたり、英語が得意だったりして、それぞれが自分の武器をしっかりとっていて、とてもたくさんの刺激を受けました。もっと英語を頑張ろうと思ったし、自分が今まで考えてなかったSDGsなどについても考えてみたいと思いました。
自分の成長を感じられた	私の課題であった自分の意見を言えない事を克服出来たことと、志の高い全国の仲間に出会えた事です。学校生活が辛い時など心の支えとなりました。
	日本と世界の未来を真剣に考える高校生や現在社会で大きな活躍をする社会起業家の方、元外交官や県知事など、様々な立場の多様性を持った人々と実際に触れ合い話を聞くことで一人の人間として大きく成長できたとし、何より全てのことに対する視野が広がりました。そして、コロナウイルスが流行する現在社会の中でだからこそやるべきことや出来ることをしっかりと学んだのでこれからは活かします。
	リーダーの条件を知った日からそれを意識してリーダー養成塾生活を過ごした。全てではないが自分の心に刻まれ、今後もそれに基づき行動していきたいと思えたことが良かった。また、全国の個性的な高校生と出会え、自分の性格を知り、大志に刺激され、自分の人生に影響を受けられたことが良かった。
	アジアハイスクールサミットの最初の頃は積極的に話すことができなかったが、重ねることで徐々に話せるようになり成長できて良かったと思う。 先生方、学生リーダーさん、クラスのみなどと出会えてよかったと思う。とても楽しかった。
自信を持てるようになった	私は色々なことに興味があって自分は何をしたいのか分からなくなってしまうことがあったけれど、その好奇心はいい事だと自分を肯定してもらっている気がして嬉しかった。たくさんの興味があることを、いい方向へ持っていこうと思えた。
	リーダーとしての役割が自分の中ではっきりしてきて、今日本や世界がどういう問題を抱えているのかわかった。問題解決に向けて努力していけるようなリーダーになりたい、と思えるようになった。
将来について	たくさんの刺激が得られたことです。学校で机に向かっているだけでは知ることのなかった考え方、見ることのなかった景色、出会うことのなかった仲間や先生方、リーダー塾で私が体験したことの価値は計り知れません。そして、自分の人生の使い方を真剣に考えるようになりました。様々な分野で優秀な人材が求められている今、自分がどの道を志すべきか考える機会を得ることができ、本当に良かったと思っています。
	今まで曖昧だった将来の夢ややりたいことが明確になりました。具体的には私の大好きなスポーツを活かして、国際的に関わっていく仕事です。志望校も明確になり、勉強に対するモチベーションなども上がり、学校生活がより充実してきたように感じます。リーダー塾に参加して、本当に良かったと思います。
その他	コロナ禍というイレギュラーな状況の中で、zoomを使った1度も会ったことのない人との活動という、とてもレアな体験が出来たこと。海外の学生と初めて接し、今の自分の無力さを思い知ることができた。



塾参加後、ものの考え方や興味関心が変わりましたか？

大いに変わった	64%
変わった	31%
少し変わった	5%
変わらなかった	0%



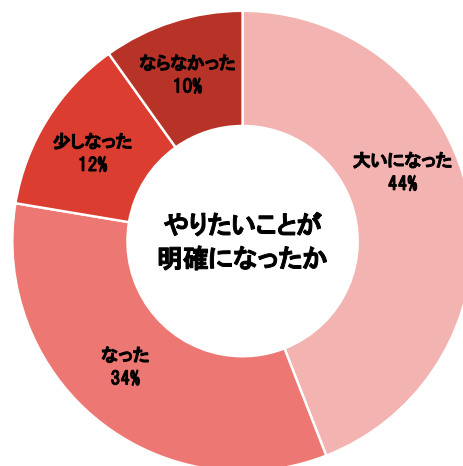
■主な内容

視野が広がった 社会・世界に興味を持った	国際情勢の見方が今までは自分の中では多角的なつもりだったが、本当の別の視点の見方を知ることができた。そのため、ネットやニュースなどの情報を手に入れた時に、「この事象は、こう言った背景がありそうだ」という明確な自分なりの考えをしっかりと出せるようになった。
	積極的に世界に目を向けるようになりました。小学校の先生になりたいと思っていたが、国際人になりたいと考え始めました。
	知識や経験が欠如していることにより一方的にしか考えられなかったことが多角的に感じるようになった。
	自分の常識は、他人の非常識。立場によって考え方が変わる。自分の経験や視点を一般化して良いものと思わないこと。
	今までは自分の好きな、興味がある分野だけを調べていたが、今は興味のある分野だけでなく、他の分野の情報も仕入れるようにしている。
	世界観が広がったと思います。現社会の色々な所で、活躍される方々の講義を聞いて、自分の知らないことを多く知り、また先生方の実体験や価値観を聞くことで、社会に出て、活躍したいと思えました。
	高校生だからできないと自然と考えているところがあったが、リーダー塾で自ら何か声をあげたり、行動を起こしたりしている人がいることを知り、高校生だけではなく、高校生でも、だからこそと考えられるようになった。
将来の夢・ 生き方	沢山の「ひと」との出会いが私を大きく豊かにしてくれました。そんな人たちから沢山の学びを得たことでわたしの価値観がより豊かになっていきました。特に将来の夢を見つけられたことが1番大きなことです！
	今までは自分がどのような分野に関心があるのかさえわからなかったけれど、ぼんやりと見つけることができました。
	夢の実現に学生であるということとは関係ない、むしろその立場だからこそできることを考えて実行している仲間の姿は、自分の物の見方を大きく変えてくれました。
	人との関わり方を見直そうと思った。
	講義を聞いたことによって今のような生活が当たり前ではないことに気づきもっと日々を大切にしようと思った。
知識の習得、 学習の仕方	自分の頭で考えることや、好奇心を持って事象を見ることの大切さが分かり、自分の知識を広げ、深めたり、よく理解できるようになりました。
	英語の必要性実用性そして楽しさを自分自身で理解することができた。
その他	今まではコロナウイルスを「やっつける」ことばかり考えていたが、何かを敵とみなして対処するよりも"共生していく"ものとして捉える方がよほど生産的で、何より気持ちが楽になることに気づいた。また、自分の意見や目標を人前で発表することが恥ずかしいと思っていたが、自分を知ってもらうためには発言しないと何も始まらないし、自分の発言が周りに良い影響を与えることもあるのだと思えるようになった。



参加後、やりたいことが明確になりましたか？

大いになった	44%
なった	34%
少しなった	12%
ならなかった	10%



■主な内容

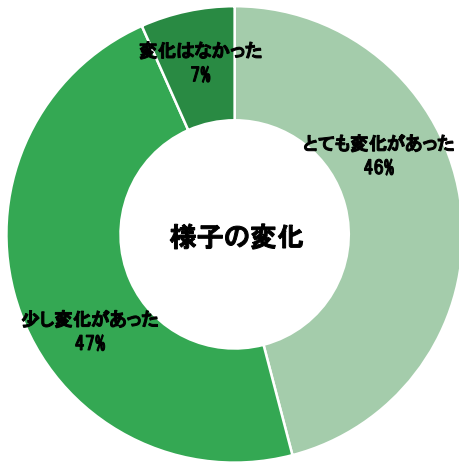
今まで目のことしか考えていなかったが、参加後、大きな目標を胸に抱いてビジョンを構築しないといけないと思った。
将来世界で困っている人や助けを求めている人を救うことのできる団体を作りたいと思った。
自分の利益だけでなく社会に貢献できる人になりたい。海外に行って学び、視野を広げたい。
日本や世界の教育のあり方を変えたいと考えるようになりました。これは AHS で教育をテーマに扱ったことで、教育についての現状や改善策などを深く考えたからです。
明石先生やマハティール先生のように国際的に活動したいと思いました。また、ジェンダーなどの問題に興味があるため、そのことも研究などしていきたいと思いました。
以前から教師になりたいと思っていましたが、今の世界の現状を知って世界で活躍できる教師になりたいと思いました。
思いやりと教養に溢れた人になりたいと思った。
夢が公務員に固まり、社会に貢献したいと思うようになった。
元々『来日留学生のために新しいサポートシステムを持った留学機関を設立したい』という夢があった。しかし特にボーダレスジャパン田口一成の講義を聞いて、やりたいことが可視化されより明確になった。
中学生の頃から女性の生き方を考えてきたが、村木厚子先生のご講義を聴いて、自分の理想とする女性のリーダー像を明確にすることが出来ました。
食品開発の仕事をしたという夢だったが、現在、栄養教諭になりたいと思っている。子供たちに食の楽しさを知ってもらい、これから輝く子供たちのサポートをしたい。
以前から学びたいと思っていた心理学に加えて、英語の勉強がまだまだ足りないとわかったので、もっと勉強して国際的な分野にも進みたいと思うようになりました。
ただぼんやりと教育者や教育関係のサポートを促したいと思っていたのが、キャリア教育に力を入れ、国際語である英語に力を入れて、会話がスムーズにできるようになりたいと思うようになりました。
もともと将来の夢がしっかりときまっておらず、国際方面に携わりたいという幅の広い目標しか持っていませんでした。しかしリー塾を通してより日本と世界の関係に興味を持つと同時に、私が理想とする世界を目指すには様々なアプローチがあると気付かされました。よって将来やりたいことが明確になったというよりは選択肢が広がりさらに迷える状況をいただけたと思っています。
リーダー塾に入って色んなことに挑戦してみたくなった。他の人の夢を聞くうちにワクワクしてきた。
将来の夢や、学びたい分野が決まっていなかったのに変化はありませんが、もっと世界で起きている課題、行われている運動、地域の課題などを知りたいと思ったので、将来の夢や、学びたい分野を決める為にどうしたら良いかを少し明確にすることができました。
卒塾式の時、皆が自分の目標を本気で言っていて、大きな夢を目指すことは、尊敬されるべきことなのだと実感した。私は、昔からの夢である、宇宙旅行に誰でも行けるようにすることにこれまで以上に熱心になった。
海外で活躍されている方や留学を経験した方々と関わったことで留学したいという思いが強くなりました。

資料② 保護者・学校アンケート調査結果

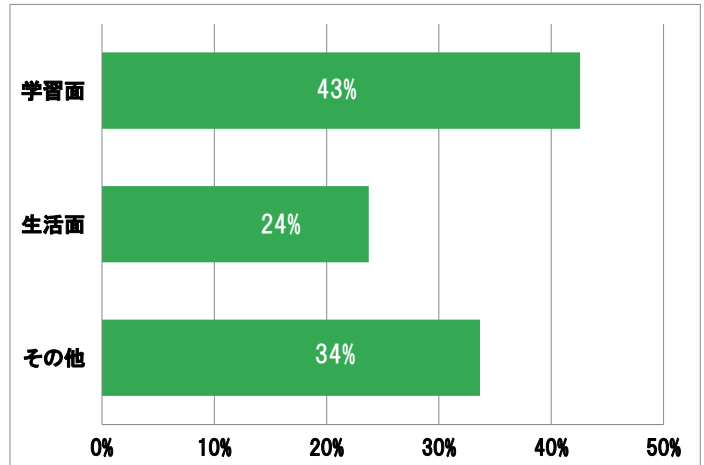
卒塾してから約1ヶ月後、174名の17期生の保護者、学校の担任教員を対象に、卒塾後の塾生の変化についてのアンケートを実施した。保護者は136名から（78.2%）、学校の担任教員は151名から（86.8%）回答があった。主な項目を抜粋して掲載する。

保護者アンケート

❓ 塾参加前と参加後でお子様の様子に変化がありましたか？



❓ 「変化があった」と答えた方は、どのような点に変化がありましたか？
(複数回答可)



■主な内容

学習面	学習面では、志望大に向けて勉強をすることに迷いがなくなりました。より、明確に将来を描き、それに向けて努力する覚悟ができたように思います。リーダー塾には英語に堪能なお子さんが多いので、英検1級を自分も取ってみたいと新たな目標を持ったようです。また、知識を深め、思考し、他人に伝えることに関心が強くなり、学校で仲間を募ってプレゼンをするサークルを立ち上げるなど、他人との協同作業に積極的になりました。これは、学生団体を立ち上げて活動しているリーダー塾の仲間からの刺激が大いにあると思います。
	英語が流暢な同級生がいたり、東大を目指している同級生がいたりして、自分がまだまだだと思ったようだ。また、講師の先生のグローバルな話を聞き、しっかり勉強して、大学に入り、留学したいと考えるようになった。
	英語力の無さを痛感したようで英語は特に頑張っているように思います。スケジュールを立てて勉強するようになりダラダラしてしまう事が減ったように思います。
	いろいろな学校の子どものつながりができて、考え方が変わったように思う。自己肯定感をもつようになった。将来に向けて、学習をしっかりとやらなければならないと気付き、取り組めるようになった。
	自分が希望する進路へ少しでも近づけるように、自主的に計画を立て、勉強しているようです。
	時事に興味を持つようになり、積極的に意見を言うようになりました。また、学校でもパワーポイントを用いた発表も意欲的にするようになりました。
	自分の興味を追求して学び、いろいろな知識を得ることに喜びを感じていたようです。この夏の経験は必ず将来に役立つと確信しています。
他者に対する思いやりの気持ちが強くなったと思います。相手の良いところに向けて協力して物事をやり遂げることの意義を理解し運動会や新人戦では昨年と違った意味での大きな成長が見られました。また英語の大切さを痛感し英検の上位級を目指したり日本語の良さを知り書道など日本文化の奥深さ知ったようです。	

生活面	コロナ禍の中、心が少しモヤモヤしていた様子だったが、目標を掲げて今、出来ることを頑張りたい気持ちで前向きな行動が見られるようになった。学習面でも時間にメリハリをつけて意欲的に取り組むようになった。
	上手いかない、やる気が出ない、何をしたいかわからないというのが口癖でしたが、こうしたい、これをやるとポジティブな発言が増え、自分なりに感じるどころや考えを表現できるようになったと思います。
	「これが反抗期か」と思うような態度が減りこちらのアドバイスをよく聞くようになったように思います。
	「ありがとう」や親に対して素直になった。すべてにおいて積極的になった。
	社会の出来事に対してより一層感心を持つようになりました。視野や考え方の幅に広がりが見られ、思考もポジティブになりました。
その他	以前から思いはあってもリーダーとしてはやや積極性に欠けるところが散見されたが、様々な活動（例えばクラスの委員長など）に対し、自分の信念をもって取り組むことができるようになった。
	具体的な目標を持ち、その詳しい話を聞いた事が刺激となり、自分の将来を考えるようになったように感じます。
	学校生活や進路、部活についての様々なことを自分の頭で考え、積極的に自分の考えを出すようになった。また、行動したり、人に働きかけたりするようになった。
	様々な角度から、ものの見方ができるようになったと思います。自分以外の人の立場に置き換え、話したり行動できるようになったと感じます。

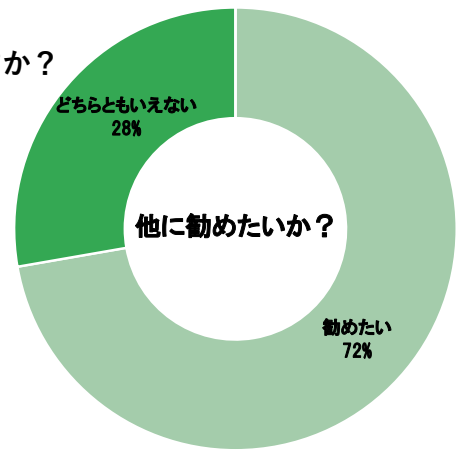
■お子様の感想で印象に残ったこと

色々な人の意見を聞くのは興味深いけれど、様々な意見をまとめていくのは難しい。そのためには人との信頼を築いていくのが大切だときづいた。
個性的で魅力ある高校生が大勢いた。この塾に参加出来て本当に良かった。素敵な友達が増えた。同窓会が楽しみ！
講義で、鎌田先生のお話終了後、苦勞された事、話を聞いていてスーと入ったらしく「よかった」と短い一言の中に気持ちが込められていた。
学校でも、他国の友達とオンラインで繋いで討論出来る授業があればいいなと言っていた事。
将来は、何か人の為になる事をしたと強く思うようになったと話していたことです。
学校の友達と違い、一人一人が自分の意見を持っているから話し合いが楽しく、充実していた。
オンラインでの開催で正直なところ合宿のような一体感などはうまれないだろうと思っていたが、子どもから仲間と何かをやり遂げる強い気持ち、達成感があつた、熱い気持ちになったという感想を聞いたこと。
海外へ行ってみたい気持ちが強くなったこと。特にインドの経済成長と教育制度に興味があったこと。
将来について悩んでいた時期でもありましたので、講師の先生方や同世代の仲間達のお話を聞かせて頂いた事で、さまざまな分野に関する知識や視野が広がり、今後、新たにチャレンジしてみたい意欲とモチベーションにつながったようです。
人の話をよく聴けるようになった。今までいかに自分が人の話を聴けていなかったか分かった。参加前後で自分が変わったと感じる、と言ったこと。
「皆と早く会いたい。」8月の塾講座のない日、娘のふともらした言葉にリーダー塾の皆様との絆・信頼を感じ、ひとり感動してしまった。
英語が話せる子が多かった事に非常にショックを受けていました。今から自分に何が出来るのかを探しているようでした。
すごい人達ばかりだと言ってキラキラ話してくれました。真剣に講義を聞いて、メモし私に毎回話してくれました。参加することが楽しい。話をもっと聞きたい、本を読んでみたいと言っていました。みんなとも早く会いたいそうです。



他の保護者または高校生に参加を勧めたいと思われませんか？

勧めたい	72%
どちらともいえない	27%
勧めたくない	0%

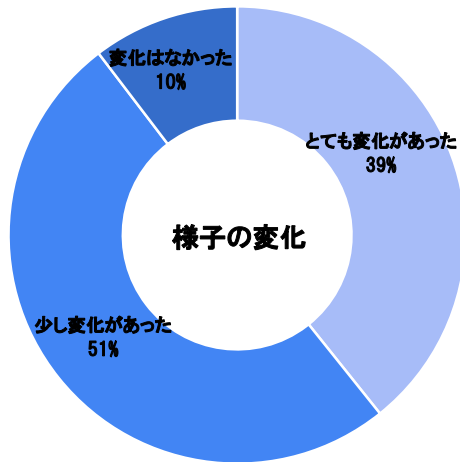


■主な理由

勧めたい	講演では様々な分野の一線で活躍している方々のお話を直接聞くことにより、視野が広まると同時に、その人間性に触れることができること。若いうちにそうした経験ができることは、今後の長い人生の生き方そのものがもっと広がっていくと考えます。
	想像を超えた成長をさせてもらえたと思ったため。
	学校の友だちだけではなく、日本全国に友だちができ、学習面でも刺激を受けているようです。
	いろいろな人と出会い、人生の選択肢が増えると感じるから。
	リーダー塾では、いろんな場面でチャレンジする機会が与えられます。学校で受動的に過ごしてきた子もぼーっと過ごしている暇はありません。脳みそをフル回転し、時に自分の限界に落ち込むこともあるかもしれませんが、周りがとても優しく温かいです。パワーももらえます。自分の殻を破ってみたい子ほど、ぜひ参加して欲しいなと思います。
	進学校のため、普段は勉学に集中することが多く、なかなか外部との交流がないため。近隣では同様のプログラムがないため。積極的にディスカッションしたり、英語を流暢に話したりする友達がいないため。
	せまい地域で、いろいろ悩んだり考えたりするより、いろいろな子どもとかかわれるこのような素敵な塾に参加させて視野を広げてほしい。日々の学習では学べないものが、学べるので。
	高校の先生以外の講師の方の講義を受ける事はとても良い経験になると思いますし、普段は会う事も知り合う事もない、県外の高校生と共に活動する事はめったに出来ない事なので、是非勧めたいです。
	一つのことに皆とのつながりを大事にし、とことん分かり合えるまで話していける時間を共有できることの大切さを知ってほしい。
	将来のことも考えずに、自分の学力にあった大学に、まわりの友人と同じように進学して、大学生活を楽しむことを目的にする子が多い。そうではなく、しっかり自分のやりたいことを学ぶために親にお金を出してもらって、大学に行く。ということを知ってほしいから。
どちらともいえない	16、17期生と姉妹で続けて参加させて頂いて思ったのは、若いうちに沢山の人の人に出会い、色々な話を聞く、関わる、ということがとても貴重な体験だと思いました。まだ参加してないお子さんにも勧めたいと思いました。
	全国の同じ世代の人と交流することは、今の自分を見つめなおし自分の役割、すべきことを見つけるきっかけになると思えるから。とても楽しそうに活動していました。
	この塾は素晴らしいと思いますが、いくら勧めて参加させても、本人のやる気と興味がなければ、何の意味も持たないから。
	リーダー塾は関心のある子供が自ら参加する事によって、得られるものがとてつもなく広がっていく講座ではないでしょうか。そうでないとあのスケジュールはキツイかなと思います。
	今年は、いきなりのコロナ禍で致し方なく、これで正解だったと思っています。しかし、次年度、長時間画面と向き合い座り続けることが心配です。座り続けず、何かできることがあれば動と静でさらに集中力の持続性も増すのでさらに良くなると思います。

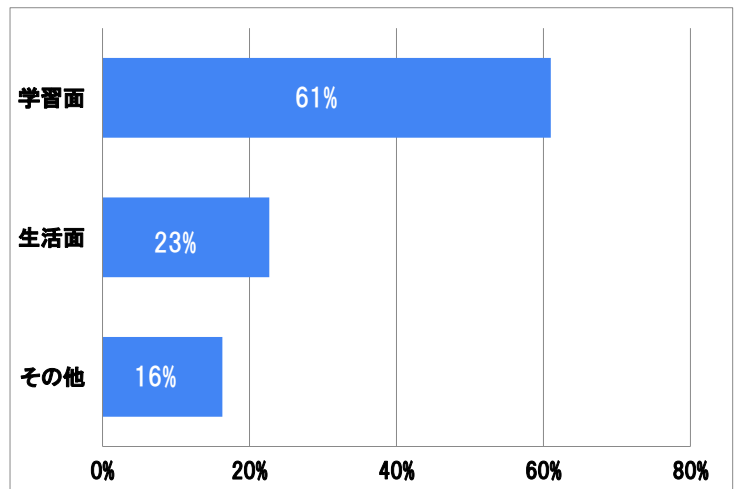
学校の担任教員アンケート

塾参加前と参加後で生徒の様子に変化がありましたか？



「変化があった」と答えた方は、どのような点に変化がありましたか？

複数回答可



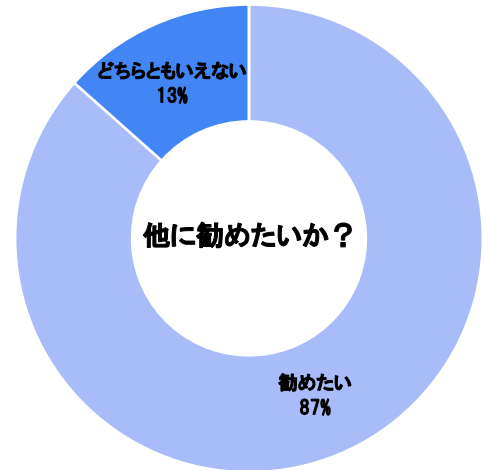
■主な内容

学習面	学習面について、英語により熱心に取り組む姿勢が見られたことと、クラスメイトとのディスカッションに今まで以上に積極的に参加するようになった気がします。
	成績や、学習に向かう姿勢が飛躍的に向上した。
	精神的にしっかりした。成績はもともとよかったが、より目標を持って勉強に取り組むようになった。自分の考えを大きな声できちんと皆に伝えられるようになった。
	もともと学習意欲の高い生徒でしたが、刺激を受けて自分にとって学習の必要性を感じてもっと意欲的に学ぶようになったと感じています。
	英語への学習意欲が高まったようだった。今回のような貴重な経験を、経験で終わらせるのではなく、自身が大学や今後生きていく上での課題探究につなげなければいけないという意識を強く持ったようだった。
	将来、建築関係の仕事につくこと希望しているが、同世代の参加メンバー自分よりも深く物事を考えていることに刺激を受け、考え方が一段、深化したと感じています。
	他者の意見に対する理解や共感の反応がさらによくなり、それを基に新しい視点での意見を自分で構成する力が向上したと感じています。
	自分の意見をよく考えた上で発言するようになった。積極的に学習に取り組む姿勢がみられた。
	学習面では、興味のあることを自ら学び、納得のいくまで考える姿勢が身についたと感じる。また、学習に対する意欲がより一層強くなった。
生活面	講師の先生方の話を聞いたことで現代社会における問題等について大きな関心を持つようになった。また一緒に参加していた他校の生徒からも刺激を受け、学習やグループ活動に取り組む姿勢が大きく変わった。
	今まで以上に積極的に何事にも取り組むようになった。さらに少々のことではへこたれない忍耐力がついた。
	塾がきっかけでつながった方々と、様々なボランティア活動に積極的に参加するようになり、物事をより広い視野で考えることができるようになった。
	生徒会もしているので、前に出る場面は多いが、学習や生活面で学年を引っ張っていこうという意識が芽生えた。
	グイグイと前に進むタイプだったが、思慮深くなった。
	以前は積極性に乏しい面が見られましたが、塾に参加後は、自ら考え、行動する力が向上したように感じます。

その他	指示の出し方、声かけの仕方など人の動かし方、計画の立て方、責任者として自身の行動の振り返りを行い、次に繋げようとしている。意思の疎通をしっかりと図ろうとしている。
	世界への思いだけでなく、地元を考えることにも目を向けはじめた。周囲と協働しようとする姿勢が増した。
	コロナウイルスに対する考え方が参考になったと話していた。今までの考え方だけではないのだと、いろいろな意見を柔軟に受け入れ思考するようになった。

？ 他の先生または高校生に参加を勧めたいと思われますか？

勧めたい	87%
どちらともいえない	13%
勧めたくない	0%



■主な理由

勧めたい	全国各地から集まった熱意溢れる同世代の生徒たちと交流する中で、自分たちの視野を広げ、新しいことにチャレンジする精神が養われていると感じております。また、参加した生徒たちは、国内外で活躍されている一流の講師の方々から刺激を受け、勉学にも意欲的に取り組む姿もよく見受けられます。さらに、講師の方々から現場の声を聞き、今の自分たちには何が足りないのか、より明確な自己分析できるようになっています。キャリア教育の面においても、生徒たちにとって次世代リーダー養成塾はとても貴重な経験だと思います。
	地域という枠にとらわれることなく、全国の優秀な学生や大人と接することができる。また、その広がった視点から見ることで地域の見方も変わり、地方創生への意識も高まるから。
	学校外での活動に参加して新たな気づきや発見を多くの生徒にしてほしいと考えているからです。また、専門家の話を聴く機会も普段の生活ではあまりないため、新鮮さを感じながら将来の夢や目標につなげてほしいと感じています。
	普段は大人しい性格であったり、人前に立つことを苦手としていたりする生徒たちが、勇気を持ってチャレンジすることで苦手を克服することができていたからです。同じような経験を他の生徒たちにもぜひしてもらいたいと感じています。
	同じ高校生でも住んでいる地域が違うだけで価値観が大きく変わることもあるため、自分たちの当たり前を打ち壊す経験も必要だと考えているからです。
	自分の可能性に気づくチャンスになるかもしれない。様々な考え方もつ人達の中にいることで気づくことも多いと思います。
	コロナ禍のなか他校の生徒とグループワークやディスカッションをしたり、いろんな人々と協働しアイデアを共有し多角的な視点から物事を捉える機会がとても少ないと感じていました。このような企画があると生徒も参加しやすく、多くの刺激を受けて帰ってくれます。とても貴重で価値ある時間だと思いました。
	過去複数名の生徒たちの意識の変化は、顕著であり、学力や進路意識の向上はもとより、学校全体にもたらす影響は計り知れないと考えるため。
	主体性、多様性、協働性を身につけることができるようなプログラムが用意されているため。
どちらともいえない	コロナの状況にもよると思うが、オンラインではこの塾の良い点が出し切れないと思うから。
	両立できる生徒がいれば、ぜひすすめたいが、かなり大変だったようだ。
	「リーダー性」がある生徒には、学校生活の意欲向上につながる。

第17回日本の次世代リーダー養成塾 塾生概要

塾生総数 174名 21都道府県

○参画県推薦枠 144名

	都道府県	人数
1	北海道	6名
2	青森県	20名
3	岩手県	2名
4	静岡県	11名
5	岐阜県	6名
6	和歌山県	13名
7	愛媛県	11名
8	福岡県	47名
9	宗像市	6名
10	佐賀県	21名
11	うるま市	1名
	計	144名

○一般公募枠 30名

	都道府県	人数
1	宮城県	1名
2	群馬県	2名
3	千葉県	2名
4	東京都	3名
5	神奈川県	2名
6	愛知県	6名
7	滋賀県	2名
8	奈良県	1名
9	大阪府	2名
10	兵庫県	1名
11	岡山県	1名
12	愛媛県	1名
13	福岡県	5名
14	沖縄県	1名
	計	30名

資料④ 塾生高校一覧

第17回日本の次世代リーダー養成塾 塾生学校一覧

21都道府県 104校

学校所在地	学校名	学校所在地	学校名
北海道	北海道札幌国際情報高校	愛媛県	愛媛県立今治西高等学校
	北海道札幌南高等学校		愛媛県立今治西高等学校伯方分校
	北海道登別明日中等教育学校		愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
	私立遺愛女子高等学校		愛媛県立松山北高等学校
青森県	青森県立青森工業高等学校		愛媛県立松山西中等教育学校
	青森県立青森高等学校		愛媛県立松山東高等学校
	青森県立三本木高等学校		愛媛県立松山南高等学校
	青森県立三本木農業高等学校		愛媛県立三崎高等学校
	青森県立田名部高等学校		愛媛県立弓削高等学校
	青森県立八戸北高等学校		私立松山東雲高等学校
	青森県立八戸高等学校	福岡県	福岡県立ありあけ新世高等学校
	青森県立八戸東高等学校		福岡県立香椎高等学校
	私立青森明の星中学・高等学校		福岡県立春日高等学校
	私立八戸学院光星高等学校		福岡県立嘉穂高等学校
	私立八戸工業大学第二高等学校		福岡県立輝翔館中等学校
	私立八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校		福岡県立久留米高等学校
	岩手県		岩手県立高田高等学校
岩手県立宮古高等学校			福岡県立小倉工業高等学校
宮城県	宮城県立白石高等学校		福岡県立小倉高等学校
群馬県	私立ぐんま国際アカデミー高等部		福岡県立早良高等学校
	私立共愛学園高等学校	福岡県立城南高等学校	
千葉県	千葉県立木更津東高等学校	福岡県立筑紫丘高等学校	
	私立麗澤高等学校	福岡県立戸畑高等学校	
東京都	私立聖心インターナショナルスクール	福岡県立柏陵高等学校	
	私立成城学園中学校高等学校	福岡県立福岡高等学校	
	私立富士見高等学校	福岡県立北筑高等学校	
神奈川県	私立洗足学園中学高等学校	福岡県立宗像高等学校	
	私立フェリス学院高等学校	福岡県立山門高等学校	
岐阜県	岐阜県立恵那高等学校	私立リンドンホールスクール中高学部	
	岐阜県立大垣養老高等学校	私立飯塚高等学校	
	岐阜県立大垣桜高等学校	私立久留米信愛高等学校	
	岐阜県立岐阜高等学校	私立自由ヶ丘高等学校	
	私立済美高等学校	私立筑紫女学園高等学校	
	私立麗澤瑞浪高等学校	私立東海大学付属福岡高等学校	
静岡県	静岡県立磐田北高等学校	私立福岡工業大学附属城東高等学校	
	静岡県立沼津東高等学校	私立福岡雙葉高等学校	
	静岡県立浜松西高等学校	私立福岡舞鶴高等学校	
	私立静岡学園高等学校	私立明光学園高等学校	
	私立静岡県西遠女子学園高等学校	私立祐誠高等学校	
	私立静岡サレジオ高等学校	佐賀県	佐賀県立伊万里高等学校
	私立常葉大学附属菊川高等学校		佐賀県立唐津西高等学校
私立星陵高等学校	佐賀県立唐津東高等学校		
愛知県	私立名古屋国際高等学校		佐賀県立高志館高等学校
滋賀県	私立立命館守山高等学校		佐賀県立佐賀西高等学校
大阪府	大阪府立桜塚高等学校		佐賀県立白石高等学校
	大阪府立今宮高等学校		佐賀県立多久高等学校
兵庫県	私立滝川高等学校		佐賀県立武雄高等学校
奈良県	奈良県立青翔高等学校		佐賀県立致遠館高等学校
和歌山県	和歌山県立神島高等学校		私立佐賀学園高等学校
	私立開智高等学校	私立早稲田佐賀高等学校	
	私立智辯学園和歌山高等学校	沖縄県	沖縄県立開邦高等学校
岡山県	私立岡山高等学校		沖縄県立普天間高等学校

資料⑤ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿

■クラス担任

クラス	氏名	会社名・自治体名
1組	西山 寛治	福岡県
	花盛 一恵	学校法人麻生塾
2組	河野 雄彦	西部ガス設備工業株式会社
	稲葉 太郎	九州電力株式会社
3組	西 隆行	株式会社ドコモ CS 九州
	中島 和洋	株式会社ふくや
4組	西 美由紀	株式会社 gekko's
	右田 良隆	エコー電子工業株式会社
5組	瀧口 啓太郎	宗像市
	溝上 泰興	株式会社ミズ
6組	市川 智也	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
	押野 真基朗	株式会社正興電機製作所
7組	永松 資紹	株式会社西部技研
	佐田 穂乃花	西部ガス設備工業株式会社
8組	神山 勝司	株式会社 QTmedia
	森重 俊紀	株式会社麻生

■学生リーダー

1組	古野 微麗	慶應義塾大学
2組	横山 和津実	法政大学 (14期生)
1・2組	王 奕萌	愛知大学 (12期生)
3組	藤田 百華	西南学院大学 (15期生)
4組	石井 杏奈	九州大学 (13期生)
3・4組	鹿野 明子	慶應義塾大学 (13期生)
5組	木村 遥	慶應義塾大学
6組	古川 智月	聖心女子大学 (13期生)
5・6組	岡本 あんな	成均館大学大学院 (8期生)
7組	山本 フィリップ	慶應義塾大学
8組	高島 千聖	関西外国語大学
7・8組	金子 夏望	青山学院大学 (11期生)
事務局	成田 玲央	獨協大学

参画道県・市	合田 英美那	北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年係主事
	三上 萌子	青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ主事
	坂本 有希	岩手県 教育委員会事務局教育企画室指導主事兼主査
	山田 登紀	静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育課主事
	水野 光芳	岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係主任
	大町 晋司	和歌山県 教育庁教育総務局総務課教育政策班政策推進員
	松田 智也	愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課指導主事
	井上 雅之	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画主査
	俣野 加奈	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課事務主査
	原田 昌信	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課子ども・若者育成支援担当係長
	山田 晃也	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課子ども・若者育成支援担当主査
	船越 健樹	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係長
	吉丸 耕一	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係企画主査
	豊見本 陽子	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係主事
	伊藝 祥子	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係会計年度任用職員
グローバルアリーナ	近藤 勇	株式会社グローバルアリーナ 代表取締役
	廣瀬 友幸	株式会社グローバルアリーナ
	森田 智	株式会社グローバルアリーナ
事務局	加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長
	新井 雅代	日本の次世代リーダー養成塾
	梯 裕星	日本の次世代リーダー養成塾
	見良津 凜	日本の次世代リーダー養成塾 (11期生)

ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)

■ご協賛いただいた皆様

株式会社麻生
学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ
株式会社インスパイア
公益財団法人オリックス宮内財団
九州電力株式会社
株式会社 QTnet
株式会社九電工
株式会社ぐるなび
国際ロータリー第2700地区
西部ガス株式会社
株式会社サニックス
株式会社正興電機製作所
株式会社全教研
株式会社玉屋
株式会社テノ、ホールディングス
株式会社戸上電機製作所
株式会社トクスイコーポレーション
株式会社西日本シティ銀行
西日本鉄道株式会社
株式会社日本政策投資銀行
株式会社ハッピーズ
株式会社日立製作所
株式会社福岡銀行
株式会社福住
フンドーキン醤油株式会社
株式会社ミズ
三井松島ホールディングス株式会社
三菱商事株式会社
株式会社安川電機
Y A S K A W A 未来クラブ

■ご協力いただいた皆様

I N ・ C O M株式会社
公益財団法人 AFS 日本協会
エコー電子工業株式会社
特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
株式会社九州テーブル
株式会社 QTmedia
株式会社グローバルアリーナ
株式会社 gekko's
西部ガス設備工業株式会社
株式会社西部技研
株式会社ドコモ CS 九州
福岡県商工部企業立地課
株式会社ふくや
マレーシア次世代リーダー養成塾
宗像市教育子ども部子ども育成課
宗像大社

■助成いただいた皆様

公益財団法人福岡県市町村振興協会



Japan Future Leaders School
日本の次世代リーダー養成塾

〒107-0062 東京都港区南青山 5-12-28 メゾン南青山 403 号
tel 03-5466-0804 fax 03-5466-0842 mail info@leaderjuku.jp
<https://leaderjuku.jp/>

